



産業ガスレポート

Vol. 33

2015年 秋号



一般社団法人
日本産業・医療ガス協会

産業ガスレポート vol.33 2015年 秋号

CONTENTS

平成27年度 定時総会 会長挨拶	1
産業ガス部門 新役員	4
産業ガス部門 評議員・顧問	5
産業ガス部門 組織表	6
常置部会・委員会・ワーキング(WG)名簿	7
産業ガス部門 事務局	17
平成27年度 定時総会	
JIMGA 医療・産業合同シンポジウム	18
定時総会	19
平成27年 表彰式	20
懇親会	24
平成26年度 事業報告	28
平成26年度 会議開催記録	34
平成27年度 事業計画	49
会員の現状、今後の主要日程	54
技術・国際ニュース	55
地域本部の活動報告	
北海道地域本部	60
東北地域本部	64
関東地域本部	70
東海地域本部	77
北陸地域本部	87
近畿地域本部	91
中国地域本部	98
四国地域本部	105
九州地域本部	109
統計データ一覧	116
編集後記	129

会長挨拶

間 邦司



今日は天候不順で足元の悪い中、また遠路お忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。日頃はJIMGAの活動に関しまして、ご理解とご協力、ご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。改めて御礼申し上げます。

平成27年も半ばとなりました。円高だった為替水準も円安に振れ、多少行き過ぎのところもあるのですが、安倍政権の財政出動等の政策もあり、景気は着実に回復しているかに見えます。3月期決算の上場会社の株主総会がこれから目白押しで、過去最高益を出しているという企業が多数ございます。そういう意味では、世間では確実に経済が復興しているということでしょうが、私ども産業ガスあるいは医療ガスに携わっている企業は、主力のガスの売上高については、依然としてリーマンショック前の水準には戻っていないというのが実態です。そういう意味では、世間で騒ぐほどの景気の回復感はないと思っています。

また先週発表されました1月～3月のGDP改定値は3.9%増で、速報値の2.4%に比べて、機械などの設備投資が増え、思った以上の数字が出たとされています。2四半期連続でプラス成

長となったことで、少しずつではありますが、着実に回復しつつあるかと思えます。今後の経済政策も含めて、色々なところに期待していきたいと思えます。

一方、私どもは「電力多消費産業」でございます。原発(原子力発電所)の停止による電気料金の問題につきましては、化石燃料価格の上昇による燃料調整費、あるいは再生可能エネルギーの固定価格買取制度の賦課金や、予想を超えた円安傾向により、平成25年の3月に比べて平成27年の3月は業界全体で251億円の負担増というのが今の電気料金の状況です。電力は当業界にとって死命を制する重要な問題ですので、本年度もJIMGAとしましては、電力多消費産業の10団体と一緒に関係方面へのお願いを継続したいと思っています。

さらに昨年の4月に消費税が5%から8%に増税になりました。この消費税の転嫁をスムーズに行うために、「消費税の転嫁及び表示の方法の決定に係る共同行為」いわゆる転嫁カルテル・表示カルテルという基準を制定しました。これに関しては全国の各地域本部に調査会を設けて対処してまいりましたが、現時点では公正取引委員会に指導を仰ぐような案件はみられな

かったということで、皆様方の多大なご努力に対して深く敬意を表すものでございます。

ただ消費税については平成29年4月に今回の増税が先送りされ、10%に向けてもう一段の消費税増税が予定されております。この案件につきましては先ほどのカルテルに関する協会の基準についても有効期間の延長を行います。平成29年4月の再増税に向け、地域本部に設置した調査会を活用し、注視していきます。

次に今年度の課題についてお話しさせていただきます。産業ガス・医療ガス部門の共通として「コンプライアンスの徹底」、「保安・安全の推進、事故の撲滅」という2つの大きな課題があります。この普遍の課題に加え、私どもは産業・医療ガスが社会や産業のインフラおよびライフラインとして重要な商品であるということを社会の皆様方にご認識いただくため、「必要とされるJIMGA」を目標にして、「信頼される組織」、「絶えず発信していく組織」にしたいと考えております。そしてJIMGAのプレゼンスの向上を目指していきたいと考えています。

そのために産業ガス・医療ガス部門におきましては、昨年と同じように4つの課題を抱えております。まず医療ガス部門における第一は事故防止です。皆様方に大変ご苦勞いただきながら進めております、医療従事者を対象とした「草の根講習会」は、昨年度は21ヶ所での開催でしたが、今年度は22ヶ所で開催する予定にしております。更に関係学会と連携強化を図りながら、医薬品ラベルの標準化の一定の方向付けを行い、また容器安全管理指針の制定・推進も図ってまいります。また本年度も在宅酸素療法の火災事故について、再発防止の啓発活動を行っていきたくと考えています。

第二は法規制への対応です。医療関連の法規制への対応としては、昨年度は液体酸素、液体

窒素の添付文書の届出を協会が代表して行いました。本年度は法の趣旨に則りまして、局方酸素等の添付文書の一括届出およびその情報管理を行います。また715通知の見直しによる改訂版の発出と周知徹底を行います。なお医療用ガスの国際整合化につきましては、当協会の自主基準である『医療用ガスに関する製造管理及び品質管理の基準』が厚生労働省に認められた基準であり、昨年7月に我が国のPIC/S加入が認められたことに伴い、今後、行政の指導の下にPIC/S改定版との整合性を図るための検討を行い、必要に応じて自主基準改定版の発行を目指します。

第三は災害時協定の充実強化です。昨年度までに全都道府県と医療ガスの災害時供給協定を締結いたしました。本年度は、各都道府県との協定に基づいた実地訓練等を通じて運用マニュアルの作成等により、有事の際、迅速に対応できる体制作りを行っていきたくと考えています。

それから第四はMGRの公的地位の向上です。現在3,364名の方がMGRの資格を保持され、現場で頑張っておられます。MGRの品質の向上を図る他に、公的地位の向上を図るため、パンフレットの更新、医療誌への掲載を予定しています。また、懸案の卸売販売業の営業所管理者とMGRとのリンケージについては、全国7道府県で認めていただきました。本年度は、全都道府県で認めていただけるよう折衝していきたくと考えています。

次に産業ガス部門についてですが、第一は、「保安の一層の強化・推進」です。技術・保安部会が中心となって自主基準の整備・制定に努めます。今年度も全国の地域本部と一体となって講習会の開催や啓発活動を行い、「皆様から信頼されるJIMGA」を目指します。また発行図書『高圧ガスハンドブック』の販売部数は、累積1万部を超えております。今月、その第2次改訂

版を発行しましたので、ご活用いただけますようご案内申し上げます。

第二は所有者不明容器・放置容器撲滅のための、更なるRFタグの普及推進と、容器管理の強化・徹底です。今年の3月末時点で全国55万本の容器に装着することができました。運用会社数も60社を超えています。またタグの取り付けが可能な容器検査会社も出てまいりました。平成28年3月末までに310万本への装着という、目標数値がございますが、まだ2割も達成されていないという状況ですので、新たな視点での普及説明会の開催などを計画していきたいと考えています。またご案内申し上げているとおり、昨年に運用を開始したJIMGA-EDIですが、これは容器の移動情報の共有や、容器使用料の徴収に有効なツールとなります。RFタグとJIMGA-EDIの組み合わせでぜひ導入をご検討いただきたいと思います。

第三は環境・安全部会を中心とした環境への

取り組みと、業界の事故統計の分析結果などの発信、また先ほど申し上げました電力多消費産業11団体の活動による電力問題への対応を継続していきたいと考えています。

第四は国際整合化でございます。世界中の業界の共通課題の「事故の撲滅、保安の強化・推進」のためにEIGA、CGAあるいはAIGAと整合化文書やJIMGA指針の作成に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

以上が医療ガス部門、産業ガス部門それぞれの課題でございます。高圧ガス事故の撲滅、安全・安心の確立と消費税や電力問題など、業界を取り巻く問題に対応する会員各社の皆様から「必要とされるJIMGA」を目指してまいります。

最後に、本日ご出席の皆様方のご健勝と、またそれぞれの会社のご隆盛を祈念して、甚だ簡単ではございますが私の定時総会のご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いたします。



会長挨拶



定時総会の模様

産業ガス部門 新役員

(敬称略・順不同)

平成27年7月1日現在

理事

代表理事(会長)

間 邦司(はざま くにし)

太陽日酸株式会社
代表取締役副会長



理事(副会長)

田嶋 義明(たじま よしあき)

東京ガスケミカル株式会社
代表取締役社長



理事(副会長)

今井 康夫(いまい やすお)

エア・ウォーター株式会社
代表取締役社長・COO



理事(副会長)

川本 健一(かわもと けんいち)

株式会社リキッドガス
代表取締役社長



理事(副会長)

北代 耿士(きただい こうし)

日本エア・リキード株式会社
取締役会長



理事(副会長)

岩本 満(いわもと みつる)

エア・ウォーター炭酸株式会社
代表取締役社長



理事(副会長)

上羽 尚登(うえば ひさと)

岩谷産業株式会社
取締役副社長 兼 執行役員



専務理事

永江 裕(ながえ ひろし)

日本産業・医療ガス協会
事務局



理事(副会長)

小池 哲夫(こいけ てつお)

小池酸素工業株式会社
代表取締役会長



監事

代表監事

森川 宏平(もりかわ こうへい)

昭和電工株式会社
執行役員情報電子化学品事業部長



理事(副会長)

竹内 弘幸(たけうち ひろゆき)

高圧ガス工業株式会社
代表取締役社長



監事

山本 泰夫(やまもと やすお)

東邦アセチレン株式会社
代表取締役社長



産業ガス部門 評議員・顧問

(敬称略・順不同)

平成27年7月1日現在

評議員

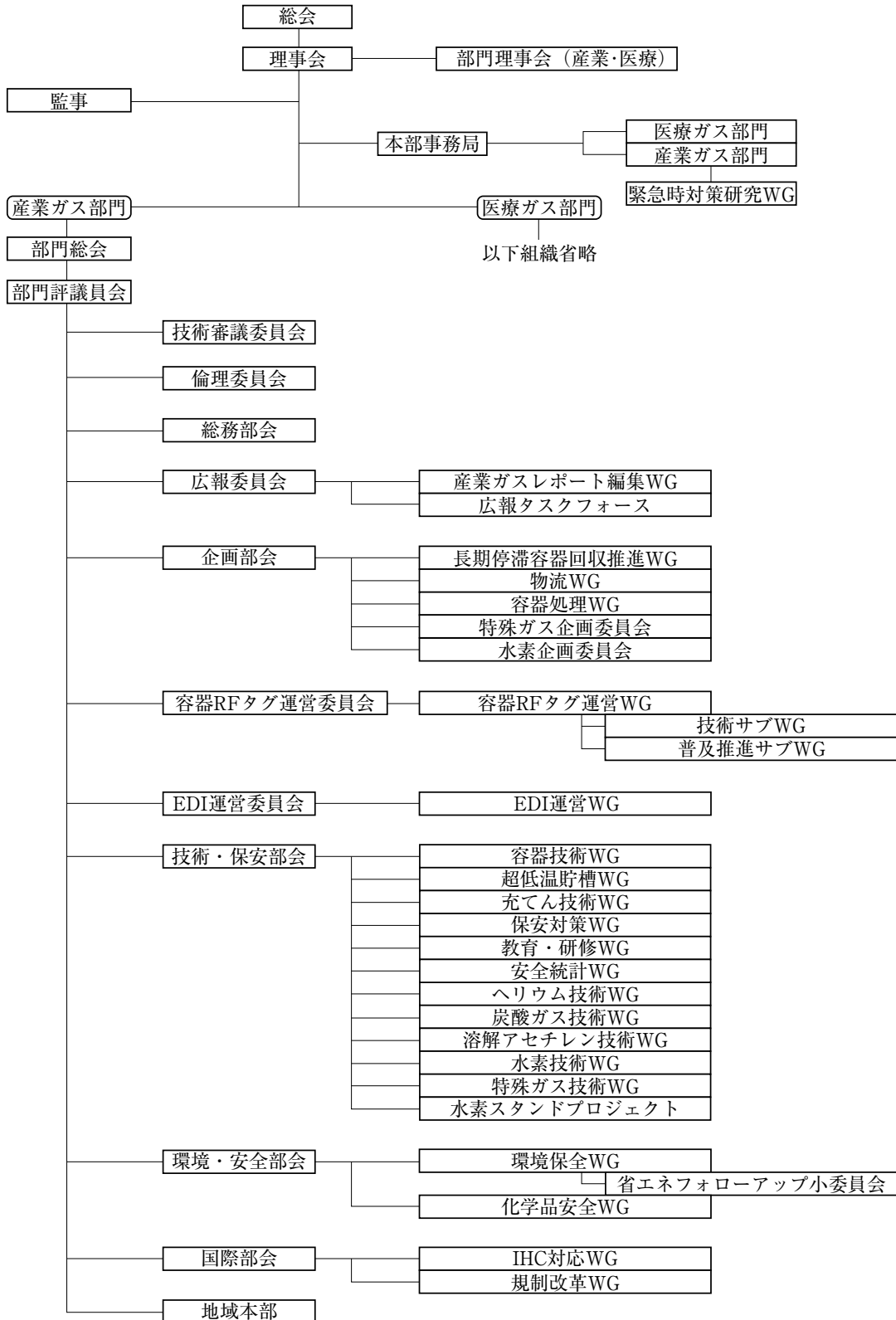
間 邦司	大陽日酸(株) 代表取締役副会長
今井 康夫	エア・ウォーター(株) 代表取締役社長・COO
北代 耿士	日本エア・リキード(株) 取締役会長
上羽 尚登	岩谷産業(株) 取締役副社長 兼 執行役員
小池 哲夫	小池酸素工業(株) 代表取締役会長
竹内 弘幸	高压ガス工業(株) 代表取締役社長
田嶋 義明	東京ガスケミカル(株) 代表取締役社長
川本 健一	(株)リキッドガス 代表取締役社長
岩本 満	エア・ウォーター炭酸(株) 代表取締役社長
永江 裕	日本産業・医療ガス協会 事務局
森川 宏平	昭和電工(株) 執行役員 情報電子化学品事業部長
山本 泰夫	東邦アセチレン(株) 代表取締役社長
渡邊 秀生	日本液炭(株) 代表取締役会長
財満 正憲	大陽日酸ガス&ウェルディング(株) 代表取締役社長
田畑 実	イビデンケミカル(株) 取締役 ガス事業部長
天田 茂	大陽日酸(株) 取締役専務執行役員 産業ガス事業本部副本部長 兼 電子機材事業統括部長
片村 浩一	昭和電工(株) 情報電子化学品事業部 兼 産業ガス事業部 担当部長
阿部 友紀	関東電化工業(株) 営業本部 精密化学品第2部長
上口 啓一	昭和電工(株) 執行役員 産業ガス事業部、基礎化学品事業部、川崎事業所、東長原事業所 管掌
賢持 善英	大陽日酸(株) 上席常務執行役員 産業ガス事業本部 副本部長
松原 幸男	エア・ウォーター(株) 専務取締役 産業カンパニー長
曾我部 康	エア・ウォーター(株) 取締役 北海道支社長
坂本 雅博	大陽日酸(株) 常務執行役員 東北支社長
谷代 進	東邦アセチレン(株) 代表取締役専務 兼 専務執行役員 営業本部長
石川 博司	日本エア・リキード(株) 東日本地域本部長
佐波 充	相模アセチレン(株) 代表取締役
永野 英美	東亜テクノガス(株) 代表取締役社長
飯田 哲郎	名古屋酸素(株) 代表取締役社長
谷屋 五郎	宇野酸素(株) 代表取締役社長
神崎 昌久	大陽日酸(株) 執行役員 関西支社長
大岡 久晃	(株)大岡酸素商会 代表取締役会長
床本 浩二	岩谷産業(株) 中国支社長
藤井 基博	藤井商事(株) 代表取締役会長
野村 茂	土佐酸素(株) 代表取締役社長
大橋 正明	四国アセチレン工業(株) 代表取締役社長
栗下 敏一	大陽日酸(株) 執行役員 九州支社長
中村 英己	エア・ウォーター(株) 九州支社長

顧問

青木 弘	エア・ウォーター(株) 代表取締役名誉会長
於勢好之輔	大陽日酸(株) 相談役
田口 博	大陽日酸(株) 相談役
豊田 昌洋	エア・ウォーター(株) 代表取締役会長・CEO

産業ガス部門 組織表

平成27年7月1日現在



常置部会・委員会・ワーキング（WG）名簿（敬称略・順不同）

平成27年8月1日現在

総務部会

部会長	今井 康夫	エア・ウォーター(株)	代表取締役社長・COO
副部会長	堤 英雄	エア・ウォーター(株)	常務取締役 関連事業企画部長
副部会長	八木 智雄	大陽日酸(株)	産業ガス事業本部 管理統括部長
委員	平田 恭清	高圧ガス工業(株)	執行役員 営業管理部長
委員	廣田 博清	岩谷産業(株)	専務取締役 産業ガス・機械事業本部長 兼 水素エネルギー部担当
委員	山本 幸夫	(株)リキッドガス	常務取締役 総務本部長
委員	福澤 秀志	東邦アセチレン(株)	取締役 管理副本部長
委員	飯島 俊雄	昭和電工(株)	基礎化学品事業部 管理グループ 企画・業務チーム リーダー
委員	岡崎 隆	小池酸素工業(株)	常務取締役 管理部長
委員	青山 俊	東京ガスケミカル(株)	常務取締役
委員	豊山 俊	日本エア・リキード(株)	広報部長
委員	宮本 高	昭和電工ガスプロダクツ(株)	執行役員 総務部長

広報委員会

委員長	川本 健一	(株)リキッドガス	代表取締役社長
副委員長	山本 幸夫	(株)リキッドガス	常務取締役 総務本部長
副委員長	国谷 将之	大陽日酸(株)	国際・経営企画本部 広報・IR部長
副委員長	松井 俊文	エア・ウォーター(株)	執行役員 広報・IR室長
副委員長	豊山 俊	日本エア・リキード(株)	広報部長
委員	廣田 博清	岩谷産業(株)	専務取締役 産業ガス・機械事業本部長 兼 水素エネルギー部担当
委員	柴田 雅仁	(株)トリケミカル研究所	取締役 営業本部長
委員	村松 治郎	東京ガスケミカル(株)	取締役 企画部 水素・環境技術部 担当
委員	池田 佳弘	高圧ガス工業(株)	理事 東京事務所 所長代理 兼 総務部長
委員	森下 克則	小池酸素工業(株)	ガス部 次長
委員	道脇 悟	日本液炭(株)	管理本部 総務・人事部長
委員	鈴木 徹也	昭和電工ガスプロダクツ(株)	事業本部長付 担当部長
委員	府川 澄雄	(株)鈴木商館	取締役 管理本部 副本部長
委員	河島修一郎	帝人ファーマ(株)	在宅医療営業企画部 担当課長

広報委員会 産業ガスレポート編集WG

WG長	国谷 将之	大陽日酸(株)	国際・経営企画本部 広報・IR部長
委員	鎌田 暁子	大陽日酸(株)	国際・経営企画本部 広報・IR部 広報・IR課長
委員	松井 俊文	エア・ウォーター(株)	執行役員 広報・IR室長
委員	野田 優子	エア・ウォーター(株)	広報・IR室 係長
委員	豊山 俊	日本エア・リキード(株)	広報部長
委員	永田 敦子	日本エア・リキード(株)	広報部 マネージャー
委員	大岡 光寿	岩谷産業(株)	産業ガス・機械事業本部 工業ガス部 担当部長
委員	柴田 雅仁	(株)トリケミカル研究所	取締役 営業本部長
委員	道脇 悟	日本液炭(株)	管理本部 総務・人事部長
委員	鈴木 徹也	昭和電工ガスプロダクツ(株)	事業本部長付 担当部長

広報委員会 広報タスクフォース

委員	大岡 光寿	岩谷産業(株)	産業ガス・機械事業本部 工業ガス部 担当部長
----	-------	---------	------------------------

委員	鎌田 暁子	大陽日酸(株) 国際・経営企画本部 広報・IR部 広報・IR課長
委員	野田 優子	エア・ウォーター(株) 広報・IR室 係長
委員	永田 敦子	日本エア・リキード(株) 広報部 マネージャー

企画部会

部会長	小池 哲夫	小池酸素工業(株) 代表取締役会長
副部会長	松重 晴彦	日本エア・リキード(株) リスクマネジメント本部長
副部会長	田井中 秀喜	岩谷産業(株) 常務執行役員 産業ガス・機械事業本部 副事業本部長
委員	松原 幸男	エア・ウォーター(株) 専務取締役 産業カンパニー長
委員	久保 直樹	小池酸素工業(株) 取締役 ガス部長
委員	鈴木 徹也	昭和電工ガスプロダクツ(株) 事業本部長付 担当部長
委員	黒木 幹也	高圧ガス工業(株) 常務取締役 東京事務所長 兼 ガス事業本部副本部長 兼 関東地区長
委員	賢持 善英	大陽日酸(株) 上席常務執行役員 産業ガス事業本部 副本部長 兼 ガス事業統括部長
委員	片村 浩一	昭和電工(株) 情報電子化学品事業部 部長
委員	金川 俊英	(株)リキッドガス 常務取締役 冷熱事業本部長
委員	高野 義文	東京ガスケミカル(株) 取締役 産業ガス業務部長
委員	秋山 利一	東邦アセチレン(株) 営業企画部長

企画部会 特殊ガス企画委員会

委員長	天田 茂	大陽日酸(株) 取締役 専務執行役員 産業ガス事業本部 副本部長 兼 電子機材事業統括部長
副委員長	片村 浩一	昭和電工(株) 情報電子化学品事業部 部長
副委員長	阿部 友紀	関東電化工業(株) 営業本部 精密化学品第2部長
代表者	北森 一孝	(株)ADEKA 取締役 兼 執行役員 化学品営業本部長
代表者	岩崎 幸治	宇部興産(株) 機能品・ファインカンパニー ファインケミカルビジネスユニット 高純度化学薬品グループリーダー
代表者	松澤 義明	高千穂化学工業(株) カスタマーサービスセンター室次長
代表者	池谷 幹夫	ジャパンファインプロダクツ(株) 常務取締役
代表者	三坂 陽一	セントラル硝子(株) 電子材料営業部長
代表者	北岸 正樹	大同エアプロダクツ・エレクトロニクス(株) 営業本部 本部長
代表者	吉川 俊郎	東亜合成(株) 基礎化学品事業部 高純度製品グループグループリーダー
代表者	菅原 久勝	(株)トリケミカル研究所 常務取締役 技術開発本部長
代表者	和田 光浩	三井化学(株) 機能化学品事業本部 精密化学品事業部 特殊ガスグループ 特殊ガスグループリーダー 部長

企画部会 水素企画委員会

委員長	上口 啓一	昭和電工(株) 執行役員
副委員長	賢持 善英	大陽日酸(株) 上席常務執行役員 産業ガス事業本部副本部長 兼 ガス事業統括部長
副委員長	松原 幸男	エア・ウォーター(株) 専務取締役 産業カンパニー長
副委員長	津吉 学	岩谷産業(株) 理事 産業ガス・機械事業本部 水素ガス部長
幹事	神崎 昌久	尼崎水素販売(株) 代表取締役社長
代表者	菊原 誠	新潟水素(株) 代表取締役社長
代表者	小川 常司	伊藤忠工業ガス(株) 代表取締役社長
代表者	田口 明人	岩谷瓦斯(株) 専務取締役 ガス事業部長
代表者	塩見 由男	エア・ウォーター・ハイドロ(株) 代表取締役社長
代表者	安浦 重人	新日鉄住金化学(株) コールケミカル事業部長
代表者	鈴木 慶彦	(株)鈴木商館 代表取締役社長
代表者	永野 英美	東亜テクノガス(株) 代表取締役社長
代表者	中牟田 正彦	東曹ダイスイ(株) 取締役
代表者	田中 英行	東邦アセチレン(株) 常務取締役
代表者	藤内 治敏	福岡酸素(株) 代表取締役社長
代表者	金田 龍弘	北酸高圧瓦斯(株) 代表取締役社長

代表者 尾川 知 丸由工材(株) 専務取締役
代表者 佐藤 昭彦 (株)渡商会 取締役

企画部会 長期停滞容器回収推進WG

WG長 成田 昌信 大陽日酸(株) 産業ガス事業本部 特販事業部長
委員 久保 直樹 小池酸素工業(株) 取締役 ガス部長
委員 小林 誠一 日本液炭(株) 専務取締役 事業統括本部長
委員 和田 彰 エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部
エアガス部(東京) 担当部長
委員 加藤 泰嗣 エア・リキード工業ガス(株) 営業本部 特殊ガス開発部長
委員 黒木 幹也 高圧ガス工業(株) 常務取締役 東京事務所長
兼 ガス事業本部副本部長 兼 関東地区長
委員 松澤 義明 高千穂商事(株) 本社営業部 課長
委員 一色 渉 岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 工業ガス部 部長

企画部会 物流WG

WG長 網倉 吉彦 日本エア・リキード(株) 工業事業本部 バルクオペレーション統括部
物流業務部長
委員 宇杉 晃一 大陽日酸(株) 産業ガス事業本部 プロダクト管理統括部
プロダクト管理部長
委員 三浦 浩 昭和電工ガスプロダクツ(株) 業務部長
委員 水津 久徳 岩谷産業(株) 業務部 物流担当 担当部長
委員 上野 保 エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部
エアガス部(大阪) 課長
委員 高橋 将智 エア・ウォーター炭酸(株) 営業部 営業企画グループ業務担当課長
委員 水口 宏之 日本液炭(株) 事業統括本部 炭酸事業部 業務統括部長

企画部会 容器処理WG

WG長 久保 直樹 小池酸素工業(株) 取締役 ガス部長
委員 鈴木 康春 全国高圧ガス溶材組合連合会 保安委員長(株)新東 取締役会長
委員 関口 武尚 全国高圧ガス溶材組合連合会 事務局長
委員 伊藤知佳子 全国高圧ガス容器検査協会 理事
(株)伊藤高圧瓦斯容器製造所 代表取締役社長
委員 脇坂 丈樹 (株)鈴木商館 営業統括室 総合営業部 部長
委員 飯島 孝文 高圧容器工業会 委員(株)旭製作所 容器技術部
委員 和田 彰 エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部
エアガス部(東京) 担当部長
委員 山根 健治 大陽日酸(株) 産業ガス事業本部 特販事業部 特販営業部
シリンダーガス営業課長

容器RFタグ運営委員会

委員長 白井 清司 エア・ウォーター(株) 常務取締役 経営企画部長
委員 及川 哲 エア・ウォーター(株) システム部長
委員 黒木 幹也 高圧ガス工業(株) 常務取締役 東京事務所長 兼 ガス事業本部副本部長
兼 関東地区長
委員 板谷 剛男 高圧ガス工業(株) 電算室 部長
委員 木村 秀成 高圧ガス工業(株) 情報システム事業本部 システム営業部 部長
委員 大岡 光寿 岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 工業ガス部 担当部長
委員 小坪沙恵里 岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 調達部
委員 平井 信一 エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業機材部事業部 課長
委員 遠藤 雅人 エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部
水素・特殊ガス部 主任
委員 河原 英昭 エア・リキード工業ガス(株) オペレーション本部長
委員 橋本 和宏 エア・リキード工業ガス(株) オペレーション本部
シリンダーサプライチェーンマネジメント部 マネージャー

委員	山根 健治	大陽日酸(株) 産業ガス事業本部 特販事業部 特販営業部 シリンダーガス営業課長
委員	壺内 俊宏	大陽日酸(株) 技術本部 品質・環境統括部長
委員	平尾浩二郎	大陽日酸(株) メディカル事業本部 バイオ・メディカル事業部 技術部 品質保証課長
委員	沼田 博美	大陽日酸システムソリューション(株) 代表取締役社長
委員	森下 克則	小池酸素工業(株) ガス部 次長
委員	松田 保秀	日本液炭(株) 管理本部 情報システム部長
委員	三戸 勇一	(株)巴商会 環境安全部 容器管理課 課長
委員	伊藤知佳子	全国高圧ガス容器検査協会 理事 (株)伊藤高圧瓦斯容器製造所 代表取締役社長)
技術担当委員	村上 泰之	岩谷情報システム(株) 理事 技術本部 プロジェクト統轄部長
技術担当委員	佐々木陽一	岩谷情報システム(株) 事業本部 第二事業部 開発部 開発課 課長代理

容器RFタグ運営WG

WG長	及川 哲	エア・ウォーター(株) システム部長
委員	板谷 剛男	高圧ガス工業(株) 電算室 部長
委員	木村 秀成	高圧ガス工業(株) 情報システム事業本部 システム営業部 部長
委員	大岡 光寿	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 工業ガス部 担当部長
委員	小坪沙恵里	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 調達部
委員	平井 信一	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業機材部事業部 課長
委員	遠藤 雅人	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 水素・特殊ガス部 主任
委員	河原 英昭	エア・リキード工業ガス(株) オペレーション本部長
委員	橋本 和宏	エア・リキード工業ガス(株) オペレーション本部 シリンダーサプライチェーンマネジメント部 マネージャー
委員	山根 健治	大陽日酸(株) 産業ガス事業本部 特販事業部 特販営業部 シリンダーガス営業課長
委員	壺内 俊宏	大陽日酸(株) 技術本部 品質・環境統括部長
委員	平尾浩二郎	大陽日酸(株) メディカル事業本部 バイオ・メディカル事業部 技術部 品質保証課長
委員	沼田 博美	大陽日酸システムソリューション(株) 代表取締役社長
委員	長谷川正泰	小池酸素工業(株) ガス部 生産・技術グループ 課長
委員	三戸 勇一	(株)巴商会 環境安全部 容器管理課 課長
委員	伊藤知佳子	全国高圧ガス容器検査協会 理事 (株)伊藤高圧瓦斯容器製造所 代表取締役社長)
委員	村上 泰之	岩谷情報システム(株) 理事 技術本部 プロジェクト統轄部長
委員	佐々木陽一	岩谷情報システム(株) 事業本部 第二事業部 開発部 開発課 課長代理

容器RFタグ技術サブWG

サブWG長	村上 泰之	岩谷情報システム(株) 理事 技術本部 プロジェクト統轄部長
委員	沼田 博美	大陽日酸システムソリューション(株) 代表取締役社長
委員	佐々木陽一	岩谷情報システム(株) 事業本部 第二事業部 開発部 開発課 課長代理
委員	木村 秀成	高圧ガス工業(株) 情報システム事業本部 システム営業部 部長
委員	熊石 貴弘	エア・ウォーター・ソフテック(株) 大阪事業部 事業システムグループ グループリーダー

容器RFタグ普及推進サブWG

サブWG長	山根 健治	大陽日酸(株) 産業ガス事業本部 特販事業部 特販営業部 シリンダーガス営業課長
委員	板谷 剛男	高圧ガス工業(株) 電算室 部長
委員	遠藤 雅人	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 水素・特殊ガス部 主任
委員	大岡 光寿	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 工業ガス部 担当部長
委員	小坪沙恵里	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 調達部

委員	橋本 和宏	エア・リキード工業ガス(株) オペレーション本部 シリンダーサプライチェーンマネジメント部 マネージャー
委員	長谷川正泰	小池酸素工業(株) ガス部 生産・技術グループ 課長

EDI運営委員会

委員長	賢持 善英	大陽日酸(株) 上席常務執行役員 産業ガス事業本部 副本部長 兼 ガス事業統括部長
委員	梶田 浩司	大陽日酸(株) 管理本部 情報システム部長
委員	河田 学	日本エア・リキード(株) ITマネジメント部 ビジネスアプリケーショングループ
委員	園田 正樹	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 調達部 部長
委員	及川 哲	エア・ウォーター(株) システム部長
委員	竹村 忠	高圧ガス工業(株) 執行役員 電算室 室長
委員	佐藤 輝彦	小池酸素工業(株) 情報システムグループ 課長
委員	三戸 勇一	(株)巴商会 環境安全部 容器管理課 課長
委員	上田 智仁	(株)鈴木商館 営業本部 総合営業部 ガスチームマネージャー

技術審議委員会

委員長	北代 耿士	日本エア・リキード(株) 取締役会長
委員	上羽 尚登	岩谷産業(株) 取締役副社長 兼 執行役員
委員	田嶋 義明	東京ガスケミカル(株) 代表取締役社長
委員	松重 晴彦	日本エア・リキード(株) リスクマネジメント本部長
委員	田井中秀喜	岩谷産業(株) 常務執行役員 産業ガス・機械事業本部 副事業本部長
委員	勝又 宏	大陽日酸(株) 取締役 専務執行役員 技術本部長
委員	松山 岳之	エア・ウォーター(株) 執行役員 産業カンパニー エレクトロニクス事業部長
委員	古本 理郎	日本エア・リキード(株) 常務執行役員 ラージインダストリー事業本部長

技術・保安部会

部会長	北代 耿士	日本エア・リキード(株) 取締役会長
副部会長	松重 晴彦	日本エア・リキード(株) リスクマネジメント本部長
副部会長	田井中秀喜	岩谷産業(株) 常務執行役員 産業ガス・機械事業本部 副事業本部長
副部会長	勝又 宏	大陽日酸(株) 取締役 専務執行役員 技術本部長
容器技術WG長	三宅 博之	大陽日酸(株) 技術本部 本部長附 SHE統括部長 兼 技術監査部長
超低温貯槽WG長	平山 晃生	大陽日酸(株) オンサイト・プラント事業本部 プラント・ エンジニアリングセンター 設計部 プラント設計課 第二チームリーダー
充てん技術WG長	農頭 重喜	日本エア・リキード(株) 産業監査部長
保安対策WG長	八幡 剛史	岩谷産業(株) 環境保安部 部長
教育・研修WG長	中尾幹一郎	(株)リキッドガス 企画本部 企画部長
安全統計WG長	加藤 保宣	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 技術管理部長 兼 保安推進部長
ヘリウム技術WG長	白井 賢司	昭和電工(株) 基礎化学品事業部 管理グループ RCチーム 兼 企画・業務チーム マネージャー
特殊ガス技術WG長	村瀬 圭一	日本エア・リキード(株) エレクトロニクス事業本部 安全・信頼性推進グループ長
水素技術WG長	片村 浩一	昭和電工(株) 情報電子化学品事業部 部長
炭酸ガス技術WG長	菊池 義明	エア・ウォーター炭酸(株) 取締役 品質保証室長 兼 技術部長 兼 生産技術グループリーダー
溶解アセチレン技術WG長	杉岡 孝雄	高圧ガス工業(株) 取締役技術本部長

技術・保安部会 容器技術WG

WG長	三宅 博之	大陽日酸(株) 技術本部 本部長附 SHE統括部長 兼 技術監査部長
委員	賀陽 邦彦	岩谷瓦斯(株) エンジニアリング事業部 部長 兼 ガスプラント東部チーム長
委員	金田 孝雄	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 近畿事業所 姫路工場長
委員	豊田 隆弘	大同エアプロダクツ・エレクトロニクス(株) 製造技術本部 本部長 つくば特殊化学品センター センター長

委員	川村 信之	日本高圧ガス容器バルブ工業会 (株)ハマイ 製品研究開発 次長
委員	曳地 項次	(株)巴商会 環境安全部 情報管理室長
委員	農頭 重喜	日本エア・リキード(株) 産業監査部長
委員	草野 宏	高圧ガス保安協会 機器検査事業部 検査企画課 課長代理 兼 容器検査課

技術・保安部会 超低温貯槽WG

WG長	平山 晃生	大陽日酸(株) オンサイト・プラント事業本部 プラント・エンジニアリングセンター 設計部 プラント設計課 第二チームリーダー
委員	後藤 勝彦	エーテック(株) 生産本部 技術部 シニアマネージャー
委員	細谷 公憲	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー エンジニアリング事業部 課長
委員	中村 康弘	超低温機器協会 日本化学機械製造(株)
委員	浅海 貴男	岩谷産業(株) 技術・エンジニアリング本部 品質保証部 担当部長

技術・保安部会 充てん技術WG

WG長	農頭 重喜	日本エア・リキード(株) 産業監査部長
委員	田守 里志	岩谷瓦斯(株) 環境保安部 マネージャー 兼 品質保証部 マネージャー
委員	小林 篤	大陽日酸(株) 開発・エンジニアリング本部 ガスエンジニアリング統括部 エンジニアリング部 副部長
委員	柴田 展良	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 保安推進部(札幌) 専任部長
委員	中市 寛彦	東邦アセチレン(株) 生産技術部 次長
委員	吉田 智徳	相模アセチレン(株) 工場長
委員	加納 郁久	大陽日酸(株) 関西支社 技術部長
委員	金田 龍弘	北酸高圧瓦斯(株) 代表取締役社長
委員	浜本 聖隆	宇野酸素(株) 取締役 技術本部 本部長
委員	笠井 勇人	中部エア・ウォーター(株) 技術グループ グループ長
委員	河野 直史	呉ガスセンター(株) 取締役 工場長
委員	立花 靖司	土佐酸素(株) 常務取締役
委員	長家 茂	福岡酸素(株) 取締役 技術統括部長
委員	石田 恒美	豊田ガスセンター(株) 常務取締役工場長

技術・保安部会 保安対策WG

WG長	八幡 剛史	岩谷産業(株) 環境保安部 部長
委員	矢内 敏彦	日本エア・リキード(株) リスクマネジメント本部 安全・環境管理部長
委員	久和野敏明	大陽日酸(株) 技術本部 保安統括部 保安管理部 保安管理課長
委員	加藤 保宣	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 保安推進部長 兼 技術管理部長
委員	木村 直彦	上毛天然瓦斯工業(株) 群馬ガスセンター長

技術・保安部会 教育・研修WG

WG長	中尾幹一郎	(株)リキッドガス 企画本部 企画部長
委員	片村 浩一	昭和電工(株) 情報電子化学品事業部 兼 産業ガス事業部 担当部長
委員	中 芳晃	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 保安推進部 係長
委員	古賀 孝之	高圧ガス工業(株) 技術本部 技術部 兼 生産管理部 課長
委員	柴田 善弘	大陽日酸(株) 技術本部 技術管理部 技術教育課長
委員	三浦 章	東邦アセチレン(株) 技術部 課長

技術・保安部会 安全統計WG

WG長	加藤 保宣	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 技術管理部長 兼 保安推進部長
委員	矢内 敏彦	日本エア・リキード(株) リスクマネジメント本部 安全・環境管理部長
委員	田中 純一	大陽日酸(株) 技術本部 保安統括部 保安管理部 保安管理課 担当課長
委員	細山田 学	東京炭酸(株) 製造部長 兼 品質保証室長 兼 管理部長
委員	山田 敏弘	高圧ガス保安協会 高圧ガス部 事故調査課長代理 兼 保安業務課

技術・保安部会 ヘリウム技術WG

WG長	白井 賢司	昭和電工(株) 基礎化学品事業部 管理グループ RCチーム 兼 企画・業務チーム マネージャー
副WG長	豆田 武士	岩谷産業(株) 技術・エンジニアリング本部 プロジェクト部 部長
副WG長	小林 篤	大陽日酸(株) 開発・エンジニアリング本部 ガスエンジニアリング統括部 エンジニアリング部 副部長
委員	伊藤 宏一	(株)ジャパンヘリウムセンター 常務取締役
委員	井出 正明	(株)巴商会 環境安全部 ガスターミナル 課長
委員	平野 正博	エア・リキード工業ガス(株) オペレーション本部 安全・品質保証部長
委員	福永 尚玄	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 水素・特殊ガス部 課長
委員	上田 智仁	(株)鈴木商館 営業本部 ガスチーム マネージャー
委員	大川 邦生	日本ヘリウム(株) 総務部長
委員	加藤 要	東京ガスケミカル(株) 企画部 事業推進/経営企画グループマネージャー

技術・保安部会 溶解アセチレン技術WG

WG長	杉岡 孝雄	高圧ガス工業(株) 取締役技術本部長
副WG長	斎藤 祐輝	東邦アセチレン(株) 取締役 執行役員 生産・技術本部長 兼 環境保安・品質保証部長
WG委員	真藤 英明	関東アセチレン工業(株) 取締役 工場長
WG委員	金田 孝雄	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 近畿事業所 姫路工場長
WG委員	新谷 和也	大陽日酸ガス&ウエルディング(株) 技術本部 技術部長
WG委員	吉田 智徳	神奈川合同アセチレン(株) 工場長代理
WG委員	出村 憲二	川口総合ガスセンター(株) 代表取締役社長
WG委員	堂元 美樹	小池酸素工業(株) 千葉工場長
WG委員	鋤柄 喜彦	大日本アガ(株) 代表取締役
WG委員	中西 清三	東海アセチレン(株) 代表取締役社長

技術・保安部会 炭酸ガス技術WG

WG長	菊池 義明	エア・ウォーター炭酸(株) 取締役 品質保証室長 兼 技術部長 兼 生産技術グループリーダー
副WG長	末松 寿	昭和電工ガスプロダクツ(株) 生産本部長付
副WG長	今村 信夫	日本液炭(株) 執行役員 技術開発本部長 兼 技術管理部長
WG委員	木村 直彦	上毛天然瓦斯工業(株) 群馬ガスセンター長
WG委員	賀陽 邦彦	岩谷瓦斯(株) エンジニアリング事業部 部長 兼 ガスプラント東部チーム長
WG委員	松谷 孝史	近畿炭酸(株) 技術部長
WG委員	細山田 学	東京炭酸(株) 製造部長 兼 品質保証室長
WG委員	長谷川光一	知多炭酸(株) 本社工場長
WG委員	市川 敏之	宇部興産(株) 工業製造グループリーダー
WG委員	翁長 健	(株)おきさん 生産部 部長
WG委員	石本 範章	共同炭酸(株) 課長
WG委員	野本 勝郎	高圧ガス工業(株) 神奈川工場長
WG委員	大澤 充史	国際炭酸(株) 取締役 工場長
WG委員	松葉 昇	大洋化学工業(株) 工場長
WG委員	山田 修三	東亜テクノガス(株) 取締役 技術統括部長
WG委員	加藤 要	東京ガスケミカル(株) 企画部 事業推進/経営企画グループマネージャー
WG委員	田中 伸一	福岡酸素(株) 保安管理部 課長
WG委員	内田 睦	(株)リキッドガス 営業技術部 部長

技術・保安部会 特殊ガス技術WG

WG長	村瀬 圭一	日本エア・リキード(株) エレクトロニクス事業本部 安全・信頼性推進グループ長
委員 標準ガスチーム長	田中 孝弘	ジャパンファインプロダクツ(株) 小山工場 製造部長
委員	川津 博信	住友精化(株) 千葉工場ファインガス課 係長
委員	安島 誠	高千穂化学工業(株) 町田事業所 計測ガス工場 自動車・分析計グループ グループリーダー

委員	上原 伸二	化学物質評価研究機構 東京事業所 化学標準部 技術第一課長
委員 半材ガスチーム長	豊田 隆弘	大同エアプロダクツ・エレクトロニクス(株) 製造技術本部 本部長 つくば特殊化学品センター センター長
委員	森脇 保志	ジャパンファインプロダクツ(株) 技術サービス部 技術サービス課長
委員	平野 富也	(株)ADEKA 環境保安・品質保証部 化学品安全G 専任課長
委員	薬師神啓孝	宇部興産(株) 機能品・ファインカンパニー ファインケミカルビジネスユニット 高純度化学薬品グループ
委員	片村 浩一	昭和電工(株) 情報電子化学品事業部 部長
委員	三澤 一朗	住友精化(株) ガス事業部 開発部長
委員	五十嵐 淳也	セントラル硝子(株) 電子材料営業部 課長
委員	北村 孝司	高千穂化学工業(株) 町田事業所 半導体ガス工場 係長
委員	林 健司	東亜合成(株) 横浜工場 製造部 製造課 主事
委員	木曾 幸一	(株)トリケミカル研究所 常勤監査役
委員	米村 泰輔	関東電化工業(株) 技術本部 生産技術部 専任部長
委員	三本 敦久	三井化学(株) 機能化学品事業本部 精密化学品事業部 特殊ガスグループ 品質・技術サービスチーム

技術・保安部会 水素技術WG

WG長	片村 浩一	昭和電工(株) 情報電子化学品事業部 部長
WG事務局	井原 理博	岩谷瓦斯(株) 生産部 生産・製品技術担当
WG副事務局	清水 和美	大陽日酸(株) 開発・エンジニアリング本部 ガスエンジニアリング統括部 エンジニアリング部 エンジ課長
WG副事務局	堀内 武浩	昭和電工(株) 基礎化学品事業部 管理グループ 企画・業務チーム マネージャー
委員	佐藤 研一	尼崎水素販売(株) 所長
委員	生原 一樹	伊藤忠工業ガス(株) 技術保安部 部長
委員	岸本 顕嘉	岩谷産業(株) 技術・エンジニアリング本部 水素エネルギー開発部 部長
委員	柴田 展良	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 保安推進部(札幌) 専任部長
委員	時田豊志和	エア・ウォーター・ハイドロ(株) 技術部長
委員	丸山 利和	新日鉄住金化学(株) 広畑製造所 技術グループ グループリーダー
委員	大山 裕之	(株)鈴木商館 生産部 部長
委員	山田 修三	東亜テクノガス(株) 取締役技術統括部長
委員	島田 寿郎	東京ガスケミカル(株) メンテナンスサービス部 技術グループ 兼 メンテナンスグループ マネージャー
委員	折尾 美昭	東曹ダイスイ(株) 四日市工場 取締役工場長
委員	中市 寛彦	東邦アセチレン(株) 技術部 次長
委員	曳地 項次	新潟水素(株) 環境安全部 情報管理室 室長
委員	梶本 茂樹	日本エア・リキード(株) アドバンスト・ビジネス&テクノロジー事業部 事業推進部 マネージャー
委員	岡 潔	福岡酸素(株) 取締役 経営企画部長
委員	矢郷 篤志	北酸高圧瓦斯(株) エネルギー推進室長
委員	澤田 庸介	丸由工材(株) 代表取締役社長
委員	安久井 満	(株)渡商会 保安管理部 部長

環境・安全部会

部会長	田嶋 義明	東京ガスケミカル(株) 代表取締役社長
副部会長	勝又 宏	大陽日酸(株) 取締役 専務執行役員 技術本部長
副部会長	坂本 公昭	エア・ウォーター(株) 上席執行役員 産業カンパニー オンサイト事業部長
副部会長	前田 久雄	日本エア・リキード(株) リスクマネジメント本部 インダストリアル・リスクマネジメント部 IMS マネージャー
副部会長	安藤 憲雄	岩谷産業(株) 常務執行役員 環境保安部長

環境・安全部会 環境保全WG

WG長	甲斐 守	大陽日酸(株) 技術本部 品質・環境統括部 環境管理部長
-----	------	------------------------------

委員	細川 純一	大陽日酸東関東(株)	ガスビジネス統括本部 製造技術担当部長
委員	上本 忠雄	岩谷瓦斯(株)	環境保安部
委員	松谷 孝史	近畿炭酸(株)	技術部長
委員	武内 幸祐	エア・ウォーター(株)	コンプライアンスセンター 環境推進部 課長
委員	石垣 克浩	日本エア・リキード(株)	ラージインダストリー事業本部 エネルギー管理部長
委員	加藤 要	東京ガスケミカル(株)	企画部事業推進グループマネージャー

環境・安全部会 省エネフォローアップ小委員会

リーダー	甲斐 守	大陽日酸(株)	技術本部 品質・環境統括部 環境管理部長
委員	小長谷義明	大陽日酸(株)	オンサイト・プラント事業本部 ガス生産技術部
委員	石垣 克浩	日本エア・リキード(株)	ラージインダストリー事業本部 エネルギー管理部長
委員	東 秀明	エア・ウォーター(株)	産業カンパニー オンサイト事業部 業務部 部長
委員	浅海 貴男	岩谷産業(株)	技術・エンジニアリング本部 品質保証部 担当部長

環境・安全部会 化学品安全WG

WG長	平野 正	東京ガスケミカル(株)	品質保証部長
委員	桑野 晃一	岩谷産業(株)	技術・エンジニアリング本部 品質保証部 担当部長
委員	武内 幸祐	エア・ウォーター(株)	コンプライアンスセンター 環境推進部 課長
委員	堀内 武浩	昭和電工(株)	基礎化学品事業部 管理グループ 企画・業務チーム マネージャー
委員	土屋 茂	大陽日酸(株)	技術本部 品質・環境統括部 品質保証部 品質管理課長
委員	三好 伸二	日本エア・リキード(株)	工業事業本部 安全・品質推進部長
委員	村瀬 圭一	日本エア・リキード(株)	エレクトロニクス事業本部 安全・信頼性推進グループ長
委員	長谷川光一	知多炭酸(株)	本社工場長

国際部会

部会長	上羽 尚登	岩谷産業(株)	取締役副社長 兼 執行役員
副部会長	松山 岳之	エア・ウォーター(株)	執行役員 産業カンパニー エレクトロニクス事業部長
副部会長	古本 理郎	日本エア・リキード(株)	常務執行役員 ラージインダストリー事業本部長
委員	野澤 史和	日本エア・リキード(株)	エレクトロニクス事業本部 エンジニアリング & サービス事業部長
委員	羽坂 智	大陽日酸(株)	技術本部 保安統括部 技術標準化推進部長

国際部会 IHC対応WG

WG長	羽坂 智	大陽日酸(株)	技術本部 保安統括部 技術標準化推進部長
委員	八隅 定夫	岩谷産業(株)	技術・エンジニアリング本部 水素エネルギー開発部 シニアマネージャー
委員	高野 義文	東京ガスケミカル(株)	産業ガス業務部 取締役部長
委員	金川 俊英	(株)リキッドガス	冷熱事業本部 常務取締役 本部長
委員	竹田 勝	(株)ネリキ	理事 技術部長

国際部会 規制改革WG

WG長	野澤 史和	日本エア・リキード(株)	エレクトロニクス事業本部 エンジニアリング&サービス事業部長
委員	外山 憲一	岩谷瓦斯(株)	環境保安部
委員	柿本 明広	岩谷産業(株)	環境保安部 担当部長
委員	浦谷 明弘	エア・ウォーター(株)	コンプライアンスセンター 保安推進部 担当部長
委員	曳地 項次	(株)巴商会	環境安全部 情報管理室 室長
委員	久保田裕士	大陽日酸(株)	技術本部 保安統括部長
委員	末松 寿	昭和電工ガスプロダクツ(株)	生産本部 本部長付
委員	日比 勝巳	高千穂商事(株)	海外営業部 課長

委員	井口 充弘	高圧ガス保安協会 高圧ガス部
委員	林 直希	高圧ガス保安協会 高圧ガス部 高圧ガス課

緊急時対策研究WG

WG長	須賀 啓太	日本エア・リキード(株) 工業事業本部/バルクプロダクトマネージメント統括部 バルクプロダクトソーシング部 部長代理
副WG長	鹿子島亮介	カンサン(株) 業務課長
副WG長	佐川 裕海	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 エアガス部(東京)
委員	日野 淳	大陽日酸(株) 産業ガス事業本部 プロダクト管理統括部 プロダクト管理部 バルクガス計画課長
委員	園田 正樹	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 調達部 部長
委員	奥田 尚希	小池酸素工業(株) ガス部 係長
委員	飯島 俊雄	昭和電工(株) 基礎化学品事業部 管理グループ 企画・業務チーム リーダー
委員	中原 俊宏	大陽日酸東関東(株) 土浦営業所長
委員	宮澤 源	東京ガスケミカル(株) 産業ガス業務部 調達・物流グループ マネージャー

産業ガス部門 事務局

平成27年8月1日現在

専務理事		永江 裕
常務執行役員		仲山 一郎
常務執行役員		徳富栄一郎
常務執行役員		保坂 昭一
常務執行役員		大沼 倫晃
常務執行役員 兼 総務部長		山本 泰彦
業務部長(特殊ガス、水素、アセチレン担当)		彦坂 稔
経理部長		渡邊 一也
水素スタンドプロジェクトリーダー		相馬 一夫
水素スタンドプロジェクトサブリーダー		岩井 健
水素スタンドプロジェクトサブリーダー		藤本 祐樹
北海道地域本部	事務局 長	高橋 宏史
東北地域本部	事務局 長	和田 敏
関東地域本部	事務局 長	小田 博
東海地域本部	事務局 長	倉本 明彦
北陸地域本部	事務局 長	中村 孝
近畿地域本部	事務局 長	福本 健一
中国地域本部	事務局 長	高橋 良知
四国地域本部	事務局 長	中村 雅裕
九州地域本部	事務局 長	桑木野順郎

平成27年度JIMGA医療・産業合同シンポジウム

開催日時：平成27年6月17日(水)13:00～15:00

開催場所：経団連会館

技術・保安部会副会長 岩隈 秀峰(挨拶要旨)

平素から皆様には、当協会の活動に対し多大なるご理解とご協力を賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。



岩隈副会長

日常的に高圧ガスと向かい合っている会員各社様におかれましては、保安・安全の確保は何よりも優先すべきことであると考えます。自主保安を掲げ、JIMGAのWGは精力的に活動し、これまでに刊行した基準指針類、安全ニュース、DVDやeラーニングなどの安全教育ツールは100件を超えています。今年も新たな自主指針、eラーニングを作成いたしました。これらはJIMGA会員各社様の大きなご協力とご支援を得て完成したものでございます。心より感謝申し上げます。

本日のJIMGAシンポジウムでは3つのテーマで講演していただきます。このシンポジウムが、皆様の日頃の業務のお役に立てることを切に願っております。今後とも皆様のご理解とご協力をお願いし、ご挨拶に代えさせていただきます。

プログラム

講演1.「SDSの改訂」

知多炭酸株式会社(株)

長谷川光一氏

講演2.「添付文書とコンプライアンス」

日本エア・リキード(株)

岡村 和也氏

講演3.「ISO 9001:2015改訂の概要」

高圧ガス保安協会

山内 順司氏

以下に、聴講者の皆様からお答え頂いたアンケートの一部を紹介します。

「ISO 9001-2015年版の動向について情報が得られたことは、QMSの改訂準備を始めるのに有効。」

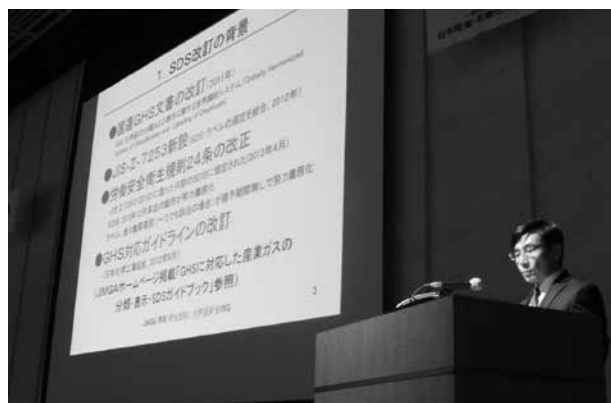
「ポイントを説明して頂き、大変参考になった。」

「資料の発表に終わってしまったところもあり、今後検討願いたい。」

「次回は食添用ガスに関する規制、現状について、また、水素インフラ規制見直し状況について取り上げて欲しい。」

アンケートへのご協力、ありがとうございました。今後の参考にさせていただきます。

また、アンケートにご記入いただいたご質問につきましては、回答をJIMGAウェブサイトの会員ページお知らせ一覧に掲載(2015年7月2日付)しております。



シンポジウムの模様

定時総会

日時：平成27年6月17日(水)15:30～16:40

場所：経団連会館

議決権総数 1,055個

出席議決件数 752個(委任状を含む)

議長：間 邦司 会長

議事

総会の開会が宣言され、事務局より定款第23条により議決権総数、出席者数、委任状数が本総会の全ての議案の決議に必要な定足数を満たしていることが報告された。間会長が議長席に着き、直ちに議案の審議に入った。定時総会に先立ち、医療ガス部門総会および産業ガス部門総会が開催された。

<産業ガス部門総会>

第1号議案 産業ガス部門評議員選出の件

所属会社の異動等により退任する評議員の後任として、産業ガス部門の評議員5名が推薦され、議場に諮ったところ全員の賛成により承認された。

<定時総会>

第1号議案 平成26年度事業報告及び収支決算の承認を求める件

平成26年度(平成26年4月1日～平成27年3月31日)事業報告および収支決算を議場に諮ったところ、全員の賛成により原案どおり承認された。

第2号議案 平成27年度事業計画及び収支予算(案)の承認を求める件

平成27年度(平成27年4月1日～平成28年3月31日)事業計画および収支予算(案)を議場に諮ったところ、全員の賛成により原案どおり承認された。

第3号議案 評議員及び理事選任の件

本総会終結をもって退任される理事、監事の後任として、次の各位の選任を議場に諮ったところ、全員の賛成により承認され、選任された理事および監事は就任を承諾した。

理事 鍋島 昭久、川本 健一

監事 山本 泰夫

報告事項

事務局より以下の報告があった。

- (1)電力問題への対応
- (2)消費税の動向
- (3)会員の動静
- (4)今後の主要日程

閉会

議長は以上で本総会における審議および報告事項を全て終了したことを告げ、16時40分閉会を宣した。



定時総会の模様

平成27年 表彰式

6月17日開催の定時総会終了後、表彰式を行いました。表彰式では協会の事業に協力して顕著な功績を上げられた、産業ガス部門、医療ガス部門各17の個人および組織の代表者の方々に、会長から

功労賞の表彰状と記念品を差し上げ、総会にご出席の会員の皆様から盛大な拍手を頂戴しました。

受賞者の一覧は下記をご参照ください。

<産業ガス部門>

賞区分	受賞者名(敬称略)	受賞理由
業務功労賞	企画部会 電子データ交換標準化WG 沼田 博美(WG長) 斉田 修実、佐久間 剛、秋宗 隆司、 及川 哲、竹村 忠、佐藤 輝彦、 三戸 勇一、富山 寛考、鈴木 敬治	業界内の取引に電子データ交換を利用するため、取引情報を標準化し、電子データ交換取引(EDI)システムを完成させた。RFタグに格納された全情報の交換を容易にし、従来の取引方法に対して大幅なコスト削減を実現した。
標準化功労賞	環境・安全部会 化学品安全WG 平野 正(WG長) 桑野 晃一、武内 幸祐、長谷川光一、 磯部 佳伸、土屋 茂、三好 伸二、 村瀬 圭一	国際的なGHS基準に従い、一般高圧ガスの「安全データシート(SDS)」(32品目)を作成した。また、「胴ラベル」(34品目)、「肩ラベル」(31品目)、「SDSガイドライン」の改訂を行った。
	技術・保安部会 特殊ガス技術WG 米村 泰輔(WG長) 平井 学、薬師神啓孝、森脇 保志、 片村 浩一、三澤 一郎、真子恵一郎、 五十嵐淳也、豊田 隆弘、星 友昭、 渡辺 勇夫、岩崎 恵樹、吉川 俊郎、 木曾 幸一、村瀬 圭一、三本 敦久、 上原 伸二	特殊ガスの「安全データシート(SDS)」(78品目)全てを全面的に改訂した。見直しにあたっては、メンバー各社の知見をもとに、お客様がより安全に使用できるよう、細部にわたり統一を図った。
	国際部会 IHC対応WG 仲山 一郎(WG長)	長年にわたりIOMAのIHC4協会(AIGA、CGA、EIGA、JIMGA)基準の国際整合化活動に貢献した。また、IHC会議において、日本における基準化の状況や法規制に関する積極的な発言により、日本のプレゼンスの向上に尽力した。
保安教育功労賞	四国地域本部 技術・保安部会 近藤 哲司(代表) 藤井 保秀、田中 智博、篠原 和伸、 河野 直史、竹内 正則、鈴木 利光、 小林 統、古田 正彦、安部 元行、 川崎 起樹、立花 靖司、一色 貴志、 住吉 直人、樋笠 和樹、木村 昭夫、 片山 昌也、三輪 朗、武智 元、 伊藤 聖哉	長年にわたり、高圧ガス事故防止啓発のための講習会開催を継続している。また、保安講習会題材として、冊子「みんなで学ぶ保安の知識」を作成した。
容器保安功労賞	岡山エア・ウォーター株式会社 代表取締役社長 松本 久昭	長年にわたり、放置容器・不明容器の撲滅に向けた啓発を行い、率先して回収に努めている。また、積極的な働きかけにより、岡山県での高圧ガス容器管理指針(平成26年制定)に至った功績が大きい。

賞区分	受賞者名(敬称略)	受賞理由
地域活動功労賞	神奈川合同アセチレン株式会社 常務取締役 工場長 澤田 秀則	長年にわたり、溶解アセチレンの製造業務に携わるなかで、JIMGA 本部ならびに地域本部の活動の中心となり、アセチレンに関する基準やガイドラインの作成という成果をあげた功績が大きい。
安全賞	岩手工業株式会社	日々の保安教育を徹底し、無事故・無災害を 69 年継続している。
	株式会社サイサン 伊奈高圧ガスセンター	日々の保安教育を徹底し、無事故・無災害を 32 年継続している。
	株式会社千葉サンソセンター	日々の保安教育を徹底し、無事故・無災害を 36 年継続している。
	東海アセチレン株式会社 浜松工場	日々の保安教育を徹底し、無事故・無災害を 26 年継続している。
	共同高圧ガス工業株式会社	日々の保安教育を徹底し、無事故・無災害を 41 年継続している。
	岩谷瓦斯株式会社 中部事業所 名古屋工場	日々の保安教育を徹底し、無事故・無災害を 45 年継続している。
	中国アセチレン株式会社 小野田工場	日々の保安教育を徹底し、無事故・無災害を 58 年継続している。
	株式会社水島オキシトン 水島工場	日々の保安教育を徹底し、無事故・無災害を 35 年継続している。
	四国アセチレン工業株式会社 西条事業所	日々の保安教育を徹底し、無事故・無災害を 29 年継続している。
鹿児島オキシトン株式会社 国分工場	日々の保安教育を徹底し、無事故・無災害を 37 年継続している。	



表彰式の模様

＜医療ガス部門＞

賞区分	受賞者名(敬称略)	受賞理由
技術功労賞	丹羽 正武 (前株式会社小池メディカル)	長年にわたり技術委員を務め、医療ガス取り違い事故防止の根幹となる医療ガス容器表示基準の制定に際してWG長を務めるなど協会技術文書作成に多大の貢献をされた。
標準化功労賞	添付文書改訂サブ WG 米良 吉昭、岡村 和也、西本 敬輝	液体酸素・液体窒素の添付文書の一括届出、日本薬局方二酸化炭素の添付文書の効能効果追加を実現するなど、協会と会員の業務効率化とガスの取り違い防止に貢献した。
	品質標準書改訂WG 中島 昭人、長谷川正泰、長谷川弘毅、片岡加寿弘、杉岡 孝雄	協会の「医療用ガスに関する製造管理及び品質管理の基準」と従来の「品質標準書」等の整合性を検討し平成26年11月に改訂版を発行、医療ガスの品質向上に貢献した。
保安教育功労賞	NPO法人 日本呼吸器障害者情報センター (代表：遠山 和子)	協会が主催する在宅酸素保守点検従事者講習会の講師を長年務め、呼吸器疾患患者の実態等を受講生に分かりやすく解説するなど在宅酸素従事者の知識向上に貢献されている。
	加藤 展弘 (函館酸素株式会社)	長年にわたり医療ガス保安講習会の運営に尽力する傍ら、自ら講師を務めるなど保安教育の充実に貢献している。
	中村 明 (株式会社中村酸素)	長年、技術委員長として中国地域本部の「草の根講習会」の開催を主導し、自らも講師を務めるなど保安教育に貢献している。
地域活動功労賞	並河 勉 (山陰酸素工業株式会社)	長年にわたり中国地域本部の副本部長を務め、ことに鳥取・島根県との災害時協定締結に大きく貢献した。
安全賞	株式会社ユミヤマ	長年、無事故・無災害を継続するほか、福島県内の医療ガスの保安活動に貢献している。
	第一開明株式会社 横手営業所	長年、無事故・無災害を継続するほか、秋田県内の医療ガスの保安活動に貢献している。
	株式会社サイサン 医療ガス部 栃木営業所	長年、無事故・無災害を継続し、顧客への保安教育にも率先して取り組んでいる。
	小池酸素工業株式会社 千葉工場	長年、無事故・無災害を継続し、販売店・顧客に対してもきめ細かい保安指導を行っている。
	沼津酸素工業株式会社	長年、無事故・無災害を継続し、保安関連規定の見直し、防災訓練も定期的実施している。
	株式会社ナック	長年、無事故・無災害を継続し、日々の保安教育を徹底している。
	有限会社大玉溶材	長年、無事故・無災害を継続し、毎月保安教育を徹底している。
	株式会社ダイオー 生産事業部 北大阪工場	長年、無事故・無災害を継続し、作業環境の改善や業務標準化を通じて安全・衛生推進活動を展開している。

安全賞	広島日酸株式会社	長年、無事故・無災害を継続し、KHK主催の講習会の講師を務める等、地域の安全確保に貢献している。
	北島酸素株式会社 土成工場	長年、無事故・無災害を継続するほか、災害対策にも注力している。



受賞者の皆様

懇親会

日時：平成27年6月17日(水)17:30～19:00

場所：経団連会館

参加人数：約270名

会長挨拶

会長 間 邦司



本日は急に強い雨が降るようなお足元の悪いなか、北は北海道から南は沖縄まで、遠路お越しいただき誠にありがとうございます。また平素はJIMGAの活動に対しましてご理解とご支援を賜り、あわせてお礼申し上げます。

今日は国会会期中の大変お忙しいなか、厚生労働省から二川局長様(永田室長様代読)、経済産業省から谷審議官様、高圧ガス保安協会作田会長様をはじめ幹部の方々、医療機器センター、医療関連サービス振興会、医療ガス学会など各方面から多数のご来賓の方々にご来場賜り本当にありがとうございます。今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

まずは先ほど定時総会、理事会が無事に終了しましたことをご報告申し上げます。JIMGAは「コンプライアンスの徹底」、「保安安全の確保、事故の撲滅」と2つの大きなテーマをあげ、その下に医療ガス部門、産業ガス部門が従来から、それぞれ4つの課題に取り組んでおります。課題は変わっていませんが、その取り組みの中身は徐々に進化しています。例えば容器管理を目的としてスタートしたRFタグの情報をJIMGA-EDIで売り上げ情報に活用できるなど、業界の課題を少しずつ改善しています。

JIMGAを取り巻く大きな問題として、電力問題と消費税増税への対応があります。電力の問題につきましては、他の電力多消費産業10団体と一緒に行政への要請などを行っていますように、これからは他団体との協調が一段と大きな

テーマになってくると思います。例えば容器の回収やアセチレン事故の撲滅などにつきまして全溶連の皆様と協調していく、水素社会と言われていますが、これについては石油連盟・自動車工業会と協調して結果を出し、社会の発展に少しでもお役に立てばと思います。

今後ともJIMGAの活動にご理解とご支援を賜りたいと思います。本日ご参集いただきました皆様のご健勝と会員各社の益々の発展を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

ご来賓祝辞

厚生労働省医政局長

二川 一男 殿

(代読：医政局地域医療計画課
医療関連サービス室長 永田
勝則 殿)



日本産業・医療ガス協会の平成27年度定時総会・懇親会の開会にあたりご挨拶申し上げます。

貴協会におかれましては平素より医療ガスの安定供給や在宅酸素療法用酸素供給装置の保守点検などへの取り組みを通じて医療ガス事業の健全な発展にご尽力いただくとともに厚生労働省の行う医療行政に関してご理解とご協力をいただいております。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

さて我が国では諸外国に例を見ないスピードで高齢化が進んでいます。今後増大する医療事業に対しては、質が高く効率的な医療提供体制と地域包括ケアシステムを構築することが必要です。このように医療界は大きく変化していますが、引き続き国民の医療に対する信頼に応えていくためには、医療ガスの供給をはじめとした医療を支える分野につきまして安心・安全を確保していくことが重要と考えています。

貴協会におかれましては、これまで医療用ガスの安全管理に関する指導・情報提供や各種講習会の開催など医療ガス供給設備や在宅酸素供給装置の保守点検業務の質の確保や業務に携わる方々の資質の向上に取り組んでこられました。昨年にはすべての都道府県との間で締結された災害時防災協定などの取り組みを通じて、我が国の医療用ガスの継続的かつ安定的な供給に貢献されています。

こうした貴協会の取り組みは医療サービスを提供する上で重要であり、今後ともこれらの取り組みの継続・発展を通じて、我が国の保険・医療水準の向上に寄与されることを期待いたします。

最後に貴協会の益々のご発展と本日ご参集の皆様のご健勝とご活躍を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

経済産業省大臣官房審議官(製造産業局担当)

谷 明人 殿

間会長様、今井副会長様、鈴木副会長様をはじめ、本日ご列席の皆様方におかれましては産業・医療ガスの安定的な供給を通じて、国民経済、社会を支えていただいておりますことを心から感謝を申しあげるとともに、平素より経済産業行政にご協力、ご支援いただいておりますことを厚く御礼申しあげます。

本来なら私の上司であります製造産業局長の黒田がこの場に参りまして、皆様方にご挨拶させていただくべきところでしたが、本日局長の人事異動がございましたので、欠席させていただきますことをお詫び申しあげます。

私は着任早々、産業ガスのプラントを見学させていただきました。また新任挨拶の時にその足で、石油業界の幹部のところにおじゃまして参りました。実は化学工場を見ず産業ガスのプラントを見てきましたと正直に申告しましたところ、ちょっと一言あるかなと思ったら、「君、それは



大事なんだよ。産業ガスは我々にとって豆腐なんだ。その心は、やはり地産地消で、朝食べる豆腐は新鮮で良いものを食べないと力が出ないだろう」と言われました。やはり皆様方とユーザーの化学企業、鉄鋼企業、日本を支える色々な大企業の皆様方、地場産業の皆様方、また中小企業皆様方との関係が非常に強固だということを改めて実感した次第です。

またその時に拝見させていただきました、「安定同位体¹⁸O」のように産業ガスで培われた非常に高度な技術を応用し、容量で言えば数万倍の高付加価値型の医療分野における製品が作られています。これはやはり産業と医療の境目のない産業で培われた技術を医療に転換し、その高付加価値をまた産業の方に戻すというリンケージの賜物ではないかと思っております。

ここに本日ご列席の皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈りいたしまして、簡単ではございますが、私の挨拶に代えさせていただきます。

高圧ガス保安協会会長

作田 穎治 殿

本日は平成27年度日本産業・医療ガス協会様の定時総会が滞りなく終了したと承っております。間会長をはじめ、関係者の皆様方のご努力に対しまして、心からお祝いを申し上げます。

JIMGAは平成19年に産業ガスと医療ガスの団体が経営を統合して発足され、今年で8年目を迎えられました。初代の田口会長、2代目の豊田会長、そして3代目の間会長の強力なリーダーシップのもと、順調に発展を遂げられまして今日を迎えられていると認識しております。

政策的にはこの産業ガス、医療ガス業界の健全な発展のために、単に日本の枠組みにとらわれず、地球規模で活動を展開されております。また



私共に関連の深い高圧ガスの保安活動に関しましても、色々な施策にご協力いただいております、例えば放置容器の収集処理、あるいはRFタグの普及・促進等々、極めて重要な事業を展開されております。そうしたJIMGAの皆さんの色々な施策に対しまして、心から敬意を表したいと思っております。

それから恒例ではございますが、最近の高圧ガスの保安状況について簡単に申し上げていきたいと思っております。一般高圧ガスの事故件数は、ここ十数年来、増加の一途を辿ってきましたが、平成25年から2年続けて減少しまして、今年度のデータはまだ2ヵ月ほどしかないのですが、前年同期を若干下回った数字になっております。

KHKとしましては、この事故件数が減少に転じたということは大変重視しております。一般高圧ガスの事故件数は平成に入った当初10年間程度は約80件～90件で推移していましたが、ところが平成12年から増加に転じ、平成22年には400件台の406件になりました。10年前の平成12年は99件でしたので、10年間でなんと4倍にもなったのです。更に平成23年はピークに達しまして490件です。ただこの年は忘れもしないあの東日本大震災がありまして、この大震災に起因する事故件数の80件を差し引くと、実際の過去のピーク数字は平成24年の425件です。

この4倍に増大した原因は、大半が実は軽微なガスの漏えいでした。従って、400件以上あっても事故の件数自体に対しては、必ずしも危機感が意識されていなかったという面があるかと思っております。ただ平成23年と24年のピークの年には、ご記憶にも新しいと思っておりますが、わずか1年も経たない間に、歴史に残るような大爆発事故が3件も発生しました。いずれも死者を伴う大変深刻な事故です。

この経験から学ぶことは、いくら軽微な事故であっても事故の件数が増大すれば、大変な大事故につながる恐れがある、つまり事故のリスクが大

変高まるということだと思います。このような事故を起こさないという意識が非常に大事ですし、現場での緊張感や保安意識をいかに持続させるかということが大切だと思います。

そういった意味で、最近の事故件数の減少につきまして私共としては大変歓迎するべきだと思いますし、ぜひともこの事故件数の減少傾向を定着させていただきたいと心から願っております。事故が減少するよう、JIMGAの皆さんもぜひ今後ともご努力を深めていただきたいと心からお願い申し上げます。

最後になりましたが、JIMGAの今後の益々のご発展、またご参集の皆様様の益々のご健勝とご発展を心から祈念いたしまして、簡単ではございますが私の挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

乾杯挨拶

副会長 今井 康夫

本日は皆様方、足元の悪い所、ご参集賜りまして誠にありがとうございました。またご来賓の皆様方からは大変心温まる激励のお言葉、ご助言をいただきまして本当にありがとうございました。深く心に刻んで参りたいと思っております。



今日の定時総会で間会長を中心とする体制も2年目に入りました。なかなか周りの環境は厳しいものがございまして、景気が良くなったということではございますが、私共はなかなかそういう実感が持てません。3月のGDP統計が上方修正された時には、実は驚いたというのが実感でございます。またこの先、2度目の消費税増税、引き続きしております電力問題、それからおそらく大きな位置を占めてくると思われるCO₂の問題等々、大変厳しい環境のなかで私共は業務を遂行しなければなりません。JIMGAとしましては、このようななかで

実存感のあるJIMGAとして頑張りたいと思いますので、ご支援をお願い申し上げます。

ここで乾杯をいたしまして、懇親会に移りたいと思います。本日ご参集いただきました皆様方のご健勝と皆様方の会社の益々の発展とJIMGAの活躍を祈念いたしまして、乾杯をさせていただきます。

中締め挨拶

副会長 鈴木 慶彦

思い起こせば約8年前に、当時の日本産業ガス協会と日本医療ガス協会が合併しまして、JIMGAが誕生しました。産業ガ



ス協会と医療ガス協会は性格も会費のシステムも全く違い、これをどうまとめるか、当時は非常に苦労したと思います。良かったのは、無理やりひとつにまとめようとしなかったことです。それぞれの持ち味を残しながら、できるだけ一緒になっていこう、というようなやり方で現在のJIMGAになりました。産業ガス部門と医療ガス部門とは違う部分は多々ありますが、それでも一緒に運営していけるシステムを作ったという面で、JIMGAはひとつの成功ではないかなと思います。

それではJIMGAの益々の発展と本日お集まりの皆様、また本日表彰された皆様の益々のご健勝を祈念いたしまして中締めとさせていただきます。



懇親会の模様

平成26年度 事業報告

産業ガス部門事業報告

1. 主要会議

産業ガス部門総会・定時総会

平成26年6月10日

理事会

第1回：平成26年6月10日

第2回：平成26年6月10日

部門理事会・評議員会合同会議

第1回：平成26年5月19日

第2回：平成26年11月27日

賀詞交歓会

平成27年1月14日

全国事務局長会議

平成27年1月14日

2. 総務部会

第1回：平成26年5月15日

議題：

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 平成26年度理事会・評議員会合同会議、定時総会の開催について
- (3) 平成25年度産業ガス部門決算案および平成26年度予算案について
- (4) 事務局職員の異動について

報告事項：

- (1) 電子データ交換システム運用開始の件
- (2) 表彰選考委員会推薦者について
- (3) 博多共同酸素の倫理審査結果について

第2回：平成26年10月31日

議題：

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 平成26年度産業ガス部門上期決算について
- (3) 理事会・評議員会合同会議の開催について

報告事項：

- (1) 電力問題への対応について

(2) 消費税問題について

(3) 地域本部の移転について

(4) 事務局職員の異動について

(5) 会員の現状について

(6) 今後の主要行事予定について

(7) 産業ガス関連売上高等調査状況について

3. 広報委員会

(1) JIMGAウェブサイトの内容の充実

適時情報を発信するとともに、各ページの不具合点を修正した。産業ガス・医療ガス、各部門の情報へのアクセスをより解りやすくするため、トップページの構成を変更した。

(2) 産業ガスレポートの発行

9月末に秋号(vol.31)、3月末に春号(vol.32)を計画通り発行した。定時総会、本年度理事、評議員、常設部会・委員会・WG委員の名簿、技術・国際ニュース、地域本部活動報告、統計データ等を収録した。

(3) JIMGAnewsの発行

No.21(4月末)～No.26(2月末)を発行した。各地域本部の会員紹介を継続した他、定時総会、新会長挨拶、国際会議関連、医療ガス部門の活動紹介等について情報を発信した。

(4) マスコミへの発信

6月10日に定例記者会見、11月27日に記者懇談会を実施、いずれも10社以上の出席を得て、定時総会、表彰者、消費税増税への対応、電力問題への対応、産業ガス部門・医療ガス部門の活動状況を発表した。

(5) 産業ガス部門、医療ガス部門の連携強化

JIMGAnewsと会報医療の記事交換を行い、相互の活動を紹介した。

4. 企画部会

平成26年5月7日、および11月5日に開催。各WGの活動報告や活動計画について審議を行った。

(1) 長期停滞容器回収推進WG

- ・貸出容器の有償化に関する考え方について、意見交換を継続、WG案を取りまとめた。
- ・地域行政による容器管理指針発行について、未だ発行されていない行政に対する各地域の取り組みを支援し、37都府県にて発行された。
- ・JIMGAのウェブサイトにて、各都府県で発行された容器管理指針の発行状況および指針等を更新または掲載した。
- ・容器RFタグの普及推進用説明資料、JIMGA-EDI説明資料について検討し、これらのWGと情報交換しながら容器使用料の考え方の展開を検討した。

(2) 物流WG

地球環境問題を広義に捉え、業界として取り組み可能な課題を取り上げ、幅広く議論するため、WGの名称を変更した。

- ・CO₂排出量統計を実施した結果、タンクローリによる製品輸送に係る燃料原単位は平成18年度を100として平成25年は98.9となった。平成24年に比較して輸送量は微減であったが、燃料原単位、燃費はほぼ維持された。
- ・国土交通省作成の「安全運行パートナーシップガイドラインについて」を取り上げ、各社の対応状況について意見交換を実施した。
- ・環境・安全部会と情報を共有し、物流関連の省エネ補助金政策情報や来年度の概算要求状況について議論した。

(3) 容器処理WG

高圧ガス容器特別回収プロジェクトとの合同会議を開催し、例年10月に実施している

「高圧ガス容器全国一斉特別回収運動」に係る依頼文書、要領書、報告書、ポスターについて協議した。

(4) 電子データ交換標準化WG

- ・JIMGA会員間での取引に係るデータの標準化を完了した。
- ・日立システムズのデータ交換用Web-EDIシステムを採用することに決定した。
- ・交換するデータ(メッセージ)のフォーマットを確定、通信ツールの確認、手続きのルール化を完了した。
- ・8月よりテストデータを用いた試験運用を開始、問題なく運用できることを確認し、12月より実運用可能となった。
- ・JIMGA標準電子データ交換運用ガイドライン、および説明会資料を作成、普及推進活動を開始した。
- ・WGの目的を達成できたため、WGを発展的に解消し、運営委員会を発足する。

5. 容器RFタグ運営委員会

(1) 容器RFタグの装着状況

- ・容器RFタグの装着容器は昨年度末に比較して約1.5倍の55万本となった。

(2) 普及促進活動

- ・国際ウエルディングショーへの出展と来場者へのフォローを実施した。
- ・従来の説明資料をリニューアルし、地域本部での説明会を開催した。
- ・JIMGA幹部会社への訪問・説明と、容器大量所有者との打合せを実施。
- ・RFタグ導入キャンペーンを開始した。(H26.10～H28.3)

(3) 技術的課題の解決

- ・小容器用タグの開発を各社に依頼。
- ・容器検査所での取付手順と役割分担について、全国高圧ガス容器検査協会と調整。

- ・RFタグの規格変更について対応。

6. 技術審議委員会

(1) 平成26年5月14日審議案件：8件

- ・CE定期自主検査指針
- ・溶解アセチレン容器の製造に関する基準
- ・水素ヒヤリハット事例集
- ・JIMGA安全ニュース No.8
- ・酸素e-ラーニング
- ・酸素・酸素富化雰囲気における火災の危険性
- ・保冷槽の安全な設計および運転指針
- ・空気分離装置におけるリボイラ/コンデンサの安全な運転管理指針

(2) 平成26年11月20日審議案件：3件

- ・溶解アセチレンのGHS対応ラベル
- ・JIMGA環境ニュース「PCB廃棄物の処置」
- ・ヘリウム SDS

7. 技術・保安部会

平成26年5月7日、および11月4日に開催。各WGの活動報告や活動計画について審議を行った。

(1) 容器技術WG

- ・ISO3807の発行に伴う国内基準の見直し作業の開始、溶解アセチレンWGと連携し、専門委員会を立ち上げ、作業を開始させた。
- ・ISO/TC58国内委員会、ISO/TC58/SC4国際会議に参加し、TC58関連ISO規格23件の検討・投票を実施した。
- ・AE作業部会として、AE試験について調査を実施し、企業実証特例制度での取り組みやDOT特認内容等について意見交換した。
- ・CGA Cylinder Requalification Seminar (9/30-10/2)に参加。
- ・DOT_SP (AE検査)の調査、および高圧ガス保安法との比較を実施した。

(2) 超低温貯槽WG

- ・JIMGA自主基準については、改訂あるい

は新規制定を要するものではなく、ISO基準検討に注力した。

- ・規制改革案件について国際部会協力の下、継続状況および経緯を調査し、継続可要否を再確認した。

- ・ISO/TC220国内委員会活動として、関連規格案の検討と投票を実施し、国際会議へ参加した。

(3) 充てん技術WG

- ・「産業・医療ガス臭気問題に関するレポート」について討議・検討した。
- ・スキルアップ研修として容器バルブメーカーを訪問し、講習の受講および製造工場見学を実施した。
- ・フレキシブルホース(充填用)に関して、海外資料(ISO、EIGA、CGA)の勉強および講習会を企画した。

(4) 保安対策WG

- ・「高圧ガスハンドブック」の見直しを実施し、SDSのGHS対応化、関連法規の改正内容を盛り込み、平成24年以来の第2次改訂版(案)をまとめた。累計発行部数は平成26年度末に1万部を超えた。
- ・CE実務保安ガイドブックの構成を検討、CEユーザーや販売事業者、JIMGA会員等からのCEに関する質問、問い合わせの多い事項を集約し、Q&Aやトラブルシューティング手法を用いた課題対処を主体に構成することとした。

(5) 教育・研修WG

- ・e-ラーニング教材として、「酸素の安全な取扱い」を6月にリリースした。
- ・「高圧ガスの安全基礎知識」のダイジェスト版制作作業を実施した。

(6) 溶解アセチレン技術WG

- ・GHS対応ラベルの改訂版を作成し、技術審議委員会で承認の上、JIMGAウェブサイ

トに掲載した。

- ・「38年容器」のパンフレットの改訂版を作成し、全国の製造事業所に配布した。販売店や消費者への周知についても検討した。

(7) 炭酸ガス技術WG

- ・第17回炭酸ガス保安講習会の準備として、関係図書の見直しならびに改訂作業を実施した。改訂版については、技術審議委員会にて承認された。
- ・炭酸ガスのSDSおよびラベルを見直し、技術審議委員会にて承認された。
- ・現地研修会として液化炭酸ガス関連設備の視察を実施した。

(8) 特殊ガス企画委員会・特殊ガス技術WG

- ・平成26年特殊ガスの統計資料を作成した。
- ・特殊ガス(78種)のSDSの改訂版を作成した。
- ・容器基本通達(容器則9条関係)の解釈をめぐり、ガス名変更不可の不具合が発生したため、改訂要望案を作成し、KHKと協議した。

(9) 水素企画委員会・水素技術WG

- ・「水素ガス取扱い上の基礎知識(改訂版)」を作成、技術審議委員会にて承認された。
- ・水素統計資料として、「仕向け先・荷姿別・出荷実績」、および「圧縮水素出荷実績5年推移」を作成した。
- ・平成27年度支部別水素プラント定修予定表を作成した。
- ・研修会として、水素エネルギー製品研究試験センター、および福岡水素タウンを見学した。
- ・「ヒヤリハット事例集(水素ガス編)」の改訂版を発行した。
- ・水素のSDS、および「水素ガス取扱い上の基礎知識」を改訂した。

(10) 安全統計WG

- ・会員より報告のあった事故情報を、JIMGAウェブサイトに掲載した。
- ・平成25年労働災害統計調査を実施し、報告をJIMGAウェブサイトに掲載した。
- ・度数率は0.05と前年の0.03を上回ったが、製造業平均、化学工業平均のいずれをも下回った。強度率も前年を若干上回った0.007となったが、こちらも製造業平均、化学工業平均値を下回っている。
- ・高圧ガス関連事故(労働災害)について調査を行い、事故の原因と傾向を分析、「安全ニュース No.9」として発行した。
- ・過去の事故情報、ヒヤリハット事例等を活用し、各地域本部の保安セミナーに活用した。

(11) ヘリウム技術WG

- ・JIMGAウェブサイトの「産業ガスについて」のうち、ヘリウム関連のページについて、より分かりやすい修正案を作成した。
- ・海外のヘリウムソース、メーカー動向等の情報の共有化に取り組んだ。ヘリウムの使用法に関する技術動向についても情報共有を実施した。
- ・SDSの改訂案を完成させ、ラベルについてもSDS改訂に合わせた修正を実施した。

(12) 水素スタンドプロジェクト

- [液体水素による貯蔵・水素スタンド規制・基準]
- ・液化水素漏洩実験を実施し、火気等との離隔距離について液体水素スタンド基準整備検討会で審議・承認された。
 - ・NEDO事業の親委員会およびKHK検討委員会の審議を経て、技術基準案・例示基準案を提出、基準が省令化された。
 - ・液化水素貯蔵型圧縮水素スタンドの市街地への設置制限および水素貯蔵量上限が撤

廃された。

[2種製造設備に相当する水素供給設備の技術基準]

- ・「処理能力30m³未満の第2種製造者の圧縮水素スタンドの技術基準案」および「第2種製造者の圧縮水素スタンドの保安監督者及び定期自主検査の自主基準」を検討し、小規模製造水素供給設備基準整備検討会で審議・承認された。
- ・NEDO事業の親委員会およびKHK検討委員会の審議を経て、技術基準案・例示基準案を提出した。
- ・第2種製造者の圧縮水素スタンドに設置される高圧水電解装置について、特定設備事前評価およびリスク評価により安全性の検討を行った。

8. 環境・安全部会

平成26年5月14日、および11月12日に開催。各WGの活動報告や活動計画について審議を行った。

(1) 環境保全WG

- ・経団連低炭素社会実行計画フォローアップ調査を行った。平成26年度の総電力量は89.3億kWhであった。(平成25年度は86.8億kWh)
- ・地球温暖化、省エネルギーの諸施策に関して、低炭素社会実行計画や省エネ補助金の情報収集を実施した。
- ・「産業ガス業界における地球温暖化対策への取り組み」(JIMGA-T-S/63/10)の記載内容を見直し、水素ステーション、ローリ車載重量計システムに関する資料を追加した。
- ・環境ニュース02/04の記載内容を見直し、低濃度PCB処理に関する情報を追加し、環境ニュース06/14「PCB廃棄物の処理」(JIMGA-T-SK-06/14)として発行した。

(2) 化学品安全WG

- ・JIS Z7253およびGHS対応ガイドライン(2012年)に従い、産業ガス31種類のSDSおよびラベルの改訂作業を完了した。
- ・産業ガス(N₂、O₂、Ar)のJIS規格見直し準備を開始した。JIMGAは、アルゴン中の窒素の分析方法として放電スペクトル法の追加を要望し、産総研と日化協からは、酸素のJIS規格について改訂要求が出ている。

9. 国際部会

平成26年4月17日、および11月10日に開催。各WGの活動報告や活動計画、および国際会議への対応について審議を行った。

(1) 国際統合化委員会(IHC)対応WG

- ・国際統合化プロジェクトのJIMGA基準化活動を進め、平成26年～平成27年には、参考文書16件、指針3件を完成させた。
- ・参考国際統合化文書はJIMGAウェブサイトに掲載した。
- ・AIGA、CGA、EIGAとの技術交流会の促進と協調関係の継続・強化として、IHCの他、CGAやEIGA主催の安全セミナーに出席した。
- ・各国との協調関係の強化を継続・推進するため、台湾産業ガス協会(THPGIA)との技術交流会を札幌で開催した。

(2) 規制改革WG

- ・規制改革要望の発掘・募集を行ったが、新たに発掘・提案された要望事項はなかった。前年度の要望案5件を審議し、「要望」としないことを結論付けた。
- ・食品衛生管理者の資格要件緩和については、食品衛生管理者講習会の開催場所・頻度を増やすことについて内閣府から回答があった。厚生労働省との直接折衝の結果、回答以外の要望実現は難しいと判断した。

・継続対応中の要望案件について今後の対応要否を判断した。

対応継続：「N₂Oおよびシランの毒性ガス分類の再検討要望」、「超低温容器の膨張測定試験の廃止」、「医療用酸素容器の定期点検期間の緩和」、「在宅酸素用LOX装置製造届出要件緩和」

提案者再調査待ち：「超低温容器用SUS304N2採用」

容器技術WGとともに情報収集活動を継続：「容器検査のAT/UTの適用」

例示基準による告示待ち：「材料曲げ試験での表裏区別の廃止」

告示により実現：「溶解ガスの取扱い」、「認定指定設備の変更工事に伴う認定の取扱い」

・海外の規制、基準の調査、情報の発信について、対応を継続した。

インターネットとパソコンで、広がる容器管理。

今すぐクリック!

瓶豪 検索

<http://www.bingo-sys.com/>

■ ニーズに合わせて選べるシステム

瓶豪 PRO (容器&販売)	在宅医療
	耐圧検査
瓶豪 (容器)	LPガス
瓶豪 PRO (販売)	
瓶豪 (容器)	業界初! 研究所、大学、大規模工場向け
瓶豪 R&D (容器)	

応用 ↑ ↓ 機能 →

正確な容器管理と販売管理でスピード経営!

RFタグ/バーコード対応 クラウドコンピューティング 高圧ガス容器管理システム「瓶豪」

- 安心/セキュリティ・防災対策完備のデータセンターを利用
- ▶ 「瓶豪」(容器) …… 低価格:インターネットとパソコンでスタート 販売管理システムと連携可能
- ▶ 「瓶豪PRO」(容器&販売) …… カスタマイズできるパッケージ
- ▶ 「瓶豪R&D」(容器) …… 研究所・大学・大規模工場の保安面向上

瓶豪 BINGO

お問い合わせは 岩谷情報システム株式会社 TEL.06-7633-1500

ガス&エネルギーで未来を拓く

Iwatani

岩谷産業株式会社

産業ガス・機械事業本部

<http://www.iwatani.co.jp/>

平成26年度 会議開催記録

総会・賀詞交歓会等

No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	第1回産業ガス部門理事会・ 評議員会合同会議	平成26年5月19日	議題 1)平成25年度事業報告及び収支決算報告の件 2)平成26年度事業計画及び収支予算(案)の件 3)評議員及び理事候補者選任の件 4)電子データ交換システム運用開始の件 5)平成26年度表彰対象者決定の件 6)平成26年度定時総会招集の件 報告事項 1)倫理審査結果について 2)今後の主要日程等
2	第1回理事会	平成26年6月10日	1)総会提案議題について 2)新入会員の承認について 3)表彰規程の一部改正について
3	産業ガス部門総会 定時総会	平成26年6月10日	産業ガス部門総会 1)産業ガス部門評議員選任の件 定時総会 1)平成25年度事業報告及び収支決算の承認を求める件 2)平成26年度事業計画及び収支予算の承認を求める件 3)評議員、理事選任の件 報告事項 1)会員の動静について 2)今後の主要日程
4	第2回理事会	平成26年6月10日	1)会長及び副会長等の選任並びに部門別理事会所属理事の選任について 2)総会等における会長に事故があるときの議長就任順位について 3)顧問の選任について
5	第2回部門理事会・ 評議員会合同会議	平成26年11月27日	報告事項 1)平成26年度上期活動報告の件 2)平成26年度中間決算収支計算書報告の件 3)電力問題への対応の件 4)消費税増税への対応の件
6	平成27年賀詞交歓会	平成27年1月14日	東京會館にて開催

総務部会

No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	第1回総務部会	平成26年5月15日	議題 1)前回議事録の確認 2)平成26年度理事会・評議員会合同会議、定時総会の開催について 3)平成25年度産業ガス部門決算案及び平成26年度予算案について 4)事務局職員の異動について 報告事項 1)電子データ交換システム運用開始の件 2)表彰選考委員会推薦者について 3)博多共同酸素の倫理審査結果について
2	第2回総務部会	平成26年10月31日	議題 1)前回議事録の確認 2)平成26年度上期産業ガス部門決算について 3)理事会・評議員会合同会議の開催について 報告事項 1)電力問題への対応について 2)消費税問題について 3)地域本部の移転について 4)事務局職員の異動について 5)会員の現状について 6)今後の主要行事予定について

広報委員会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	第1回広報委員会	平成26年4月23日	議題 1) 前回議事録の確認 2) ウェブサイトの内容について 3) 「産業ガスレポート」について 4) 「JIMGAnews」について 5) マスコミへの発信について 6) 医療ガス部門広報活動について 7) 平成25年度活動報告、平成26年度活動計画について 8) 広報活動に係るアンケート結果について 報告事項 1) 表彰関連について
2	第1回広報タスクフォース	平成26年8月19日	「産業ガスレポート」初校読み合わせ
3	第1回産業ガスレポート編集WG	平成26年9月2日	1) 前回議事録確認 2) 発行スケジュール 3) 表紙デザイン検討 4) 原稿チェック
4	第2回広報委員会	平成26年11月17日	1) 前回議事録の確認 2) JIMGAウェブサイトについて 3) 「産業ガスレポート」について 4) 「JIMGAnews」について 5) マスコミへの発信について 6) 医療ガス部門広報活動について 7) 平成26年度上期活動報告について 8) 広報活動全般について(意見交換)
5	第2回広報タスクフォース	平成27年2月25日	「産業ガスレポート」初校読み合わせ
6	第2回産業ガスレポート編集WG	平成27年3月6日	1) 前回議事録確認 2) 発行スケジュール 3) 表紙デザイン検討 4) 原稿チェック

RFタグ運営委員会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	第1回容器RFタグ運営委員会	平成26年4月15日	1. 全国展開(Step 4) 1) 活動の振り返り 2) 全国展開の状況 3) RFタグ装着数・拠点数推移 4) 各社の進捗状況 5) 容器RFタグ運用会社一覧 6) 課金実績の報告 2. WG 1) WG開催報告と主要取り組みテーマ 2) WG課題の整理状況 3) 周波数帯移行への対応、その他 3. 技術サブWG 1) 課題の整理状況 2) ISO 21007-2規格化対応の進捗 3) 小容器用RFタグに関する活動 4) その他、技術課題の取り組み 4. 普及・促進 1) RFタグ展開の見通し 2) 平成26年度の取り組み活動 3) 説明会の開催実績 4) 容器RFタグ情報Webサイトの充実 5. 平成26年度の重要課題 1) 普及・促進活動を継続 2) ISO規格化への取り組み 3) 周波数帯移行への対応

RF タグ運営委員会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
2	第2回 容器RF タグ運営委員会	平成26年8月28日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全国展開(Step 4) <ol style="list-style-type: none"> 1) 活動の振り返り 2) 全国展開の状況 3) RF タグ装着数・拠点数推移 4) 各社の進捗状況 5) 容器RF タグ運用会社一覧 6) 課金実績の報告 2. WG <ol style="list-style-type: none"> 1) WG 開催報告と主要取り組みテーマ 2) WG 課題の整理状況 3) 運用上の課題整理 <ul style="list-style-type: none"> ・周波数移行状況 ・小型容器用RF タグの開発 ・容器検査所におけるRF タグの取扱いについて 3. 技術サブWG <ol style="list-style-type: none"> 1) 課題の整理状況 2) 技術課題 <ul style="list-style-type: none"> ・運用ルール改定(EPCCコード利用申請書の改編) ・仕様書改定(ISO 18000-63) ・PCビットの仕様に関する課題 ・ISO 21007-2規格化 4. 普及・促進 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域本部での報告会開催実績 2) スペシャルサブWGの取り組み状況 <ul style="list-style-type: none"> ・説明会資料の作成 5. 平成26年度の重要課題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際ウェルディングショー出展 2) 普及・促進活動を継続 3) ISO規格化への取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・RFタグ普及キャンペーンについての提案
3	第1回容器RF タグ運営WG	平成26年5月27日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全国展開(Step 4) <ol style="list-style-type: none"> 1) 全国展開の状況 2) RF タグ装着数・拠点数推移 3) 各社の進捗状況 4) 容器RF タグ運用会社一覧 2. WG <ol style="list-style-type: none"> 1) RF タグ周波数移行状況 2) 小型容器用RF タグの開発について 3) 課題管理状況 3. 技術サブWG <ol style="list-style-type: none"> 1) PCビットの仕様に関する課題 2) バルブハンドル埋め込み型タグの管理について 3) コード体系仕様書改定(5年耐圧のFRP容器) 4) 課題管理状況 4. 普及・促進 <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際ウェルディングショー関係 2) JIMGA規格準拠 アプリケーションソフトウェア
4	第2回容器RF タグ運営WG	平成26年6月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全国展開(Step 4) <ol style="list-style-type: none"> 1) 全国展開の状況 2) RF タグ装着数・拠点数推移 3) 各社の進捗状況 4) 容器RF タグ運用会社一覧 2. WG <ol style="list-style-type: none"> 1) RF タグ周波数移行状況 2) 小型容器用RF タグの開発について 3) 容器検査場におけるRF タグの取扱いについて 4) 課題管理状況 3. 技術サブWG <ol style="list-style-type: none"> 1) PCビットの仕様に関する課題 2) バルブハンドル埋め込み型タグの管理について 3) 課題管理状況 4. 普及・促進 <ol style="list-style-type: none"> 1) 平成26年度の活動方針と重要課題 <p>※普及・推進スペシャルサブWGを一旦解散し、即日再結成した。</p>

RF タグ運営委員会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
5	第3回容器RFタグ運営WG	平成26年7月29日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全国展開 (Step 4) <ol style="list-style-type: none"> 1) 全国展開の状況 2) RFタグ装着数・拠点数推移 3) 各社の進捗状況 4) 容器RFタグ運用会社一覧 2. WG <ol style="list-style-type: none"> 1) RFタグ周波数移行状況 2) 小型容器用RFタグの開発について 3) 容器検査場におけるRFタグの取扱について 4) 課題管理状況 3. 技術サブWG <ol style="list-style-type: none"> 1) PCビットの仕様に関する課題 2) 課題管理状況 4. 普及・促進 <ol style="list-style-type: none"> 1) 次回説明会用資料作成 2) JIMGA 理事・幹事会社、展示会来場会員訪問 3) 全溶連への協力要請 4) 容器大量所有者への採用要請 5) 普及・促進キャンペーン
6	第4回容器RFタグ運営WG	平成26年9月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全国展開 (Step 4) <ol style="list-style-type: none"> 1) 全国展開の状況 2) RFタグ装着数・拠点数推移 3) 各社の進捗状況 4) 容器RFタグ運用会社一覧 2. WG <ol style="list-style-type: none"> 1) RFタグ周波数移行状況 2) 小型容器用RFタグの開発について 3) 容器検査場におけるRFタグの取り扱いについて 4) 課題管理状況 3. 技術サブWG <ol style="list-style-type: none"> 1) PCビットの仕様に関する課題 2) 課題管理状況 4. 普及・促進 <ol style="list-style-type: none"> 1) 普及・促進スペシャルサブWG活動報告 2) 課題管理状況
7	第5回容器RFタグ運営WG	平成26年10月30日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全国展開 (Step 4) <ol style="list-style-type: none"> 1) 全国展開の状況 2) RFタグ装着数・拠点数推移 3) 各社の進捗状況 4) 容器RFタグ運用会社一覧 2. WG <ol style="list-style-type: none"> 1) RFタグ周波数移行状況 2) 小型容器用RFタグの開発について 3) 容器検査場におけるRFタグの取り扱いについて 4) 課題管理状況 3. 技術サブWG <ol style="list-style-type: none"> 1) PCビットの仕様に関する課題 2) EPCコード利用申請書RFタグ納入後の報告遅延 3) 課題管理状況 4. 普及・促進 <ol style="list-style-type: none"> 1) 普及・促進スペシャルサブWG活動報告 2) 課題管理状況

RFタグ運営委員会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
8	第6回容器RFタグ運営WG	平成26年12月15日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全国展開(Step 4) <ol style="list-style-type: none"> 1) 全国展開の状況 2) RFタグ装着数・拠点数推移 3) 各社の進捗状況 4) 容器RFタグ運用会社一覧 2. WG <ol style="list-style-type: none"> 1) RFタグ周波数移行状況 2) 小型容器用RFタグの開発について 3) 今年度及び今後の装着本数の目標について 4) 課題管理状況 3. 技術サブWG <ol style="list-style-type: none"> 1) JIMGA EPC マネージャ・ナンバーの運用について 2) 課題管理状況 4. 普及・促進 <ol style="list-style-type: none"> 1) 普及・促進スペシャルサブWG活動報告 2) 課題管理状況
9	第7回容器RFタグ運営WG	平成27年1月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全国展開(Step 4) <ol style="list-style-type: none"> 1) 全国展開の状況 2) RFタグ装着数・拠点数推移 3) 各社の進捗状況 4) 容器RFタグ運用会社一覧 2. WG <ol style="list-style-type: none"> 1) RFタグ周波数移行状況 2) 小型容器用RFタグの開発について 3) 今年度及び今後の装着本数の目標について 4) 課題管理状況 3. 技術サブWG <ol style="list-style-type: none"> 1) フロンガス業界でのJIMGA RFタグ利用について 2) 新規参入ソフトベンダーのシステム妥当性評価 3) スマートデバイス用ミドルウェアの開発 4) 課題管理状況 4. 普及・促進 <ol style="list-style-type: none"> 1) 説明会スケジュール 2) 課題管理状況
10	第8回容器RFタグ運営WG	平成27年2月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全国展開(Step 4) <ol style="list-style-type: none"> 1) 全国展開の状況 2) RFタグ装着数・拠点数推移 3) 各社の進捗状況 4) 容器RFタグ運用会社一覧 3. WG <ol style="list-style-type: none"> 1) RFタグ周波数移行状況 2) 小型容器用RFタグの開発 3) 今年度及び今後の装着本数の目標について 4) 課題管理状況 3. 技術サブWG <ol style="list-style-type: none"> 1) フロンガス業界でのJIMGA RFタグの利用について 2) ISO TC58国際会議(ワシントンDC)の報告 3) 課題管理状況 4. 普及・促進 <ol style="list-style-type: none"> 1) 説明会スケジュール 2) 課題管理状況
11	第1回技術サブWG	平成26年5月20日	<ol style="list-style-type: none"> 1) PCビットの仕様に関する課題 2) バルブハンドル埋め込み型タグの管理について 3) コード体系仕様書改定(5年耐圧のFRP容器)
12	第2回技術サブWG	平成26年8月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1) RFタグフォーマット変更に関する課題検討
13	第3回技術サブWG	平成26年9月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1) PCビットの仕様に関する課題 2) RFタグ利用報告データ区分値変更
14	第4回技術サブWG	平成26年11月14日	<ol style="list-style-type: none"> 1) EPC マネージャNoフィルタ機能 2) 独自OS版サンプルプログラム 3) ミドルウェア、DVI配布手順の見直し

RF タグ運営委員会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
15	第5回技術サブWG	平成27年1月19日	1) フロンガス業界でのJIMGA RF タグの利用について 2) 新規参入ソフトベンダーのシステム妥当評価 3) スマートデバイス用ミドルウェアの開発 4) JIMGA EPC コード管理コストについて
16	第6回技術サブWG	平成27年2月18日	1) フロンガス業界でのJIMGA RF タグの利用について 2) アクセスパスワード変更時のリリース手順 3) 日本自動認識システム協会(JAISA)からのアンケートについて
17	第7回技術サブWG	平成27年3月17日	1) PCビットの仕様に関する課題 2) バルブハンドル埋め込み型タグの管理について 3) コード体系仕様書改定(5年耐圧のFRP容器)
18	第1回普及促進サブWG	平成26年6月13日	1) 平成26年度の活動方針と重要課題
19	第2回普及促進サブWG	平成26年7月29日	1) 普及促進資料 2) 小容器用RF タグ開発依頼
20	第3回普及促進サブWG	平成26年8月22日	1) 普及促進資料 2) キャンペーン実施提案
21	第4回普及促進サブWG	平成26年8月28日	1) 普及促進資料 2) キャンペーン実施提案
22	第5回普及促進サブWG	平成26年9月26日	1) 普及促進資料 2) キャンペーン実施提案
23	第6回普及促進サブWG	平成26年10月17日	1) 普及促進資料
24	第7回普及促進サブWG	平成26年10月30日	1) 普及促進資料
25	第8回普及促進サブWG	平成26年11月25日	1) 普及促進資料 2) 説明会計画
26	第9回普及促進サブWG	平成27年1月26日	1) 普及促進資料 2) 説明会日程確認
27	第10回普及促進サブWG	平成27年2月26日	1) 説明会開催状況
28	第11回普及促進サブWG	平成27年3月17日	1) 説明会開催状況 2) 充填所を持たない販売店向け提案

企画部会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	第1回企画部会	平成26年5月7日	<p>議題</p> <p>1) 前回議事録確認</p> <p>2) WG・委員会平成25年度活動報告及び平成26年度活動計画説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画部会 ・長期滞留容器回収推進WG ・グリーン物流WG ・容器処理WG ・電子データ交換標準化WG ・容器RFタグ運営委員会 ・特殊ガス企画委員会 ・水素企画委員会 <p>3) 電子データ交換システム運用開始の件</p> <p>4) その他</p> <p>報告事項</p> <p>1) 表彰選考委員会推薦者について</p> <p>2) 博多共同酸素の倫理審査結果について</p> <p>3) 今後の主要行事日程</p>
2	第2回企画部会	平成26年11月5日	<p>議題</p> <p>1) 前回議事録確認</p> <p>2) WG・委員会 平成26年度上期活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画部会 ・長期滞留容器回収推進WG ・グリーン物流WG ・容器処理WG ・電子データ交換標準化WG ・容器RFタグ運営委員会 ・特殊ガス企画委員会 ・水素企画委員会 <p>3) 電子データ交換標準化WG解散について</p> <p>報告事項</p> <p>1) 電力問題への対応について</p> <p>2) 今後の主要行事日程</p>
3	第1回 長期滞留容器回収推進WG	平成26年7月18日	<p>1) 前回議事録確認</p> <p>2) 容器使用料の考え方について</p>
4	第2回 長期滞留容器回収推進WG	平成26年11月6日	<p>1) 前回議事録確認</p> <p>2) 企画部会報告について</p> <p>3) RFタグ普及促進説明資料について</p> <p>4) 容器使用料の考え方について</p>
5	第3回 長期滞留容器回収推進WG	平成27年1月29日	<p>1) 前回議事録確認</p> <p>2) JIMGA-EDI説明会について</p> <p>3) 容器使用料の考え方について</p>
6	第4回 長期滞留容器回収推進WG	平成27年4月20日	<p>1) 前回議事録確認</p> <p>2) 容器使用料の考え方について</p> <p>3) 企画部会報告について</p>
7	第1回グリーン物流WG	平成26年7月16日	<p>1) 前回議事録確認</p> <p>2) 平成25年度通期CO₂排出量調査結果について</p> <p>3) 安全運行パートナーシップの対応について</p>
8	第2回グリーン物流WG	平成26年10月16日	<p>1) 前回議事録確認</p> <p>2) グリーン物流WGの今後の取り組みについて(テーマ、WG名称)</p> <p>3) 平成25年度通期CO₂排出量調査結果について</p> <p>4) 企画部会報告について</p> <p>5) 平成27年度省エネ関連予算概算要求(ロジスティクス関係)</p>
9	第3回グリーン物流WG	平成27年1月23日	<p>1) 前回議事録確認</p> <p>2) 物流分野における取引きの公平化に関するDVD「知っておきたい! 物流分野の取引ルール」紹介</p> <p>3) パンフレット「高圧ガス輸送におけるCO₂排出削減の取組」見直しについて</p> <p>4) グリーン物流WGの今後の取り組みについて(テーマ、WG名称)</p>

企画部会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
10	第4回物流 WG	平成27年4月15日	議題 1) 前回議事録確認 2) パンフレット「高压ガス輸送におけるCO ₂ 排出削減の取組み」見直しについて 3) 企画部会報告について 報告事項 1) トラック運送業における下請け・荷主適正取引推進ガイドライン改定 2) 阪神高速3号神戸線終日通行止 3) 建交労要請行動対応の件
11	高压ガス容器回収プロジェクト及び容器処理WG合同会議	平成26年7月30日	1) 平成25年度高压ガス容器特別回収プロジェクト議事録確認 2) 平成25年度高压ガス容器特別回収結果資料審議(回収集計票報告、回収場所調査票報告) 3) 平成26年度高压ガス容器特別回収配布文書(お願い文、回収要領、回収報告書、回収場所調査票、ポスター) 4) 放置容器処理事業特別枠中間報告 5) 不明容器、放置容器撲滅を目指して(意見交換)
12	第18回電子データ交換標準化WG	平成26年4月14日	1) 3月18日 WG 議事録確認 2) 3月24日、4月2日、4月8日サブWG 議事録確認 3) データフォーマットについて 4) EDI画面の概要について
13	第19回電子データ交換標準化WG	平成26年7月28日	1) 前回 WG (4月18日) 議事録確認 2) 第5～11回サブWG 議事録確認 3) サブWG 報告まとめ 4) 稼働テスト準備状況報告・確認 5) テスト合否判定基準、スケジュールについて 6) WGの今後の運営体制について、会議日程
14	第20回電子データ交換標準化WG	平成26年9月5日	1) 前回 WG (7月28日) 議事録確認 2) 稼働テスト状況報告 3) 取引ステータス削減の提案 4) テスト合否判定について(テストシナリオ、スケジュール) 5) WGの今後の運営体制について
15	第21回電子データ交換標準化WG	平成26年10月30日	1) 前回 WG (9月5日) 議事録確認 2) 稼働テスト状況報告 3) WGの今後の運営体制について 4) 企画部会報告について
16	第3回電子データ交換標準化サブWG	平成26年4月2日	1) 各社担当「運用ガイドライン」検討状況確認 2) 運用仕様書について 3) 今後の検討事項
17	第4回電子データ交換標準化サブWG	平成26年4月8日	1) オートパイロット導入費用について 2) データ伝送方式変換システムについて 3) 各社担当「運用ガイドライン」検討状況確認 4) 「確認項目確認表」回答 5) 交換メッセージ・データフォーマットについて 6) 契約について 7) 今後の進め方
18	第5回電子データ交換標準化サブWG	平成26年5月12日	1) 課題管理表の回答確認 2) 運用ガイドラインの中途説明 3) 今後の進め方

企画部会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
19	第6回電子データ 交換標準化サブWG	平成26年5月20日	1) 理事会の承認について 2) 各社課題の状況報告 <ul style="list-style-type: none"> ・コード運用ルールについての確認 ・項目の改廃について ・取引ステータスと売上仕入区分の関係整理 ・入数について ・耐圧検査項目について ・EDI協議会会則について ・受発注のルール検討について ・納入数の扱いについて ・運用ガイドラインについて ・契約書について ・センター立ち上げに関する課題 3) 6月以降の会議開催について
20	第7回電子データ 交換標準化サブWG	平成26年5月28日	1) 各社課題の状況報告 <ul style="list-style-type: none"> ・項目の改廃について ・マスタの運用ガイドラインについて ・回収先コードについて ・入り数について ・請求について ・耐圧検査項目について ・受発注のルール検討について ・納入数の扱いについて ・運用ガイドラインについて ・テスト要件について ・オートパイロットについて 2) 6月以降の会議開催について <ul style="list-style-type: none"> ・運用ガイドラインについて ・テストについて
21	第8回電子データ 交換標準化サブWG	平成26年6月4日	1) 運用ガイドラインまとめ 2) 各社担当分の報告 <ul style="list-style-type: none"> ・数量荷姿 ・「検収・請求」ガイドライン ・「受注・発注」ガイドライン ・「出庫・入庫」ガイドライン ・「請求・支払」ガイドライン ・「マスタデータ連携」ガイドライン ・「維持拡大策」 3) テスト開始に関して 4) 今後の課題と予定
22	第9回電子データ 交換標準化サブWG	平成26年6月16日	1) 各社課題の状況報告 <ul style="list-style-type: none"> ・業務フロー（バルク編）について ・「メッセージ」、「データ」の使い分けについて ・長尺容器について ・帳票イメージ統一について ・運用ガイドライン標準化について ・請求明細と請求及び、検収と支払の関係・役割について ・売上・仕入データ交換項目レイアウトについて ・請求・支払データ交換項目レイアウトについて ・容器データ交換項目レイアウトについて ・請求支払データ項目改定について ・運用ガイドラインについて ・EDI普及促進のための配布文書案について ・Web画面の利用制限について ・項目桁数チェックに関しての仕様確認 ・スケジュールに関して ・オートパイロットの先行配布について ・テストフェーズ完了以降の費用について 2) 運用ガイドライン完成に向けた今後の作業 <ul style="list-style-type: none"> ・運用ガイドライン構成案 3) テスト方式の意見集約 <ul style="list-style-type: none"> ・テスト実施案について 4) その他検討事項 <ul style="list-style-type: none"> ・端数処理について ・値引入力について

企画部会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
23	第10回電子データ 交換標準化サブWG	平成26年6月23日	1) 各社課題の状況報告 <ul style="list-style-type: none"> ・運用ガイドライン標準化について ・値引きの方法、表現について ・売上・仕入メッセージデータレイアウトについて ・請求・支払メッセージデータレイアウトについて ・項目桁数チェックに関する仕様確認 ・データ変換の流れについて 2) テストフェーズ参加アンケートについて <ul style="list-style-type: none"> ・テスト方法案説明 ・各社アンケート結果報告 3) その他 <ul style="list-style-type: none"> ・作業スケジュールについて ・テスト参加予定確認 ・契約締結について ・REDISuite センターサービス仕様書について
24	第11回電子データ 交換標準化サブWG	平成26年6月30日	1) 「JIMGA EDI 運用ガイドライン」の各社最終報告 <ul style="list-style-type: none"> ・売上／仕入データ(見積依頼、見積回答) ・売上／仕入データ(バルク、パイピング) ・売上／仕入データ(シリンダー、費用) ・売上／仕入データ(預託品、機器) ・売上／仕入データ(特殊ガス、工事) ・請求明細／検取データ ・請求(鑑)／支払データ ・容器データ ・マスターデータ ・維持拡大策検討 2) 「データフォーマット」の最終確認 <ul style="list-style-type: none"> ・「売上／仕入」、「請求／支払」、「容器」、「マス」 3) 「検討課題・宿題」の提案 <ul style="list-style-type: none"> ・価格訂正の方法、表現について ・長尺容器の扱いについて ・電子データ交換サービス開始のご案内 4) 日立システムズより <ul style="list-style-type: none"> ・データチェック方式について ・データ交換の流れについて 5) その他 <ul style="list-style-type: none"> ・テストに向けて ・次回会議の確認、次回までの宿題

技術審議委員会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	第1回技術審議委員会	平成26年5月14日	1) 前回議事録案の確認 2) 国際会議出席旅費一部負担実績 3) 上程案(8件)の審議 ・「CE定期自主検査指針」 ・「溶解アセチレン容器の製造に関する基準」 ・「水素ヒヤリハット事例集」 ・「JIMGA 安全ニュースNo.8」 ・「酸素e-ラーニング」 ・「酸素・酸素富化雰囲気における火災の危険性」 ・「保冷槽の安全な設計および運転指針」 ・「空気分離装置におけるリボイラ/コンデンサの安全な運転管理指針」
2	第2回技術審議委員会	平成26年11月20日	1) 前回議事録案の確認 2) 国際会議出席旅費一部負担実績 3) 上程案(3件)の審議 ・溶解アセチレンのGHS対応ラベル ・JIMGA 環境ニュース「PCB廃棄物の処置」 ・ヘリウムSDS

技術・保安部会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	第1回技術・保安部会	平成26年5月7日	平成25年度活動報告及び平成26年度活動計画
2	第2回技術・保安部会	平成26年11月4日	平成26年度上期活動進捗状況報告
3	容器技術 WG	平成26年4月18日	ISO TC58 国際会議報告・AE作業部会
4		平成26年7月17日	ISO TC58 原案審議
5		平成26年10月14日	ISO TC58 国内会議報告
6		平成27年1月19日	ISO TC58 国際会議予定・国内会議報告
7	超低温貯槽 WG	平成26年4月24日	ISO TC220 原案審議、セミナー資料作成
8		平成26年6月2日	ISO TC220 原案審議
9		平成26年8月22日	ISO TC220 国際会議報告・国内会議報告、規制改革要望検討
10		平成26年10月20日	ISO TC220 原案審議、セミナー準備、規制改革要望検討
11		平成26年12月15日	ISO TC220 原案審議、セミナー準備、規制改革要望検討
12		平成27年3月18日	ISO TC220 原案審議、セミナー報告、規制改革要望検討
13	充てん技術 WG	平成26年4月14日	活動テーマ審議、セミナー報告
14		平成26年6月5日	活動テーマ審議、セミナー準備
15		平成26年8月8日	産業・医療ガス臭気判定について、セミナー準備
16		平成26年10月24日	産業・医療ガス臭気判定について、セミナー質問対応
17		平成26年11月5日	工場研修、産業・医療ガス臭気判定について
18		平成26年12月16日	産業・医療ガス臭気判定について、セミナー報告
19		平成27年3月12日	産業・医療ガス臭気判定について、勉強会準備
20	保安対策 WG	平成26年5月26日	行政対応、「高圧ガスハンドブック」見直し
21		平成26年8月4日	「高圧ガスハンドブック」見直し、CE実務保安ガイドブック
22		平成26年10月17日	「高圧ガスハンドブック」見直し、CE実務保安ガイドブック、セミナー報告
23		平成26年12月8日	「高圧ガスハンドブック」見直し、CE実務保安ガイドブック、リスクアセスメント
24		平成27年3月5日	「高圧ガスハンドブック」見直し、CE実務保安ガイドブック、リスクアセスメント

技術・保安部会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
25	教育・研修WG	平成26年4月8日	酸素の安全な取り扱い e-ラーニング
26		平成26年7月24日	酸素の安全な取り扱い e-ラーニング
27		平成26年9月19日	高圧ガスの安全礎知識 ダイジェスト版 e-ラーニング
28		平成26年10月30日	高圧ガスの安全礎知識 ダイジェスト版 e-ラーニング
29		平成26年12月10日	高圧ガスの安全礎知識 ダイジェスト版 e-ラーニング
30		平成27年1月15日	高圧ガスの安全礎知識 ダイジェスト版 e-ラーニング
31		平成27年2月24日	高圧ガスの安全礎知識 ダイジェスト版 e-ラーニング
32		平成27年3月27日	高圧ガスの安全礎知識 ダイジェスト版 e-ラーニング
33		安全統計WG	平成26年5月26日
34	平成26年7月18日		事故情報分析、保安セミナー資料作成、「安全ニュース作成」、労働災害統計調査
35	平成26年9月3日		事故情報分析、保安セミナー資料作成、「安全ニュース作成」、労働災害統計調査
36	平成26年11月18日		平成25年高圧ガス災害事故の分析、「安全ニュース」作成
37	平成27年2月2日		事故情報分析、「安全ニュースNo.9」の発行、平成25年高圧ガス災害事故の分析
38	ヘリウム技術WG	平成26年4月4日	SDSの改訂について、平成26年度活動計画について
39		平成26年7月10日	JIMGA ウェブサイト(ヘリウム関連)改正
40		平成26年10月7日	JIMGA ウェブサイト(ヘリウム関連)改正、SDSの見直し
41		平成27年1月20日	JIMGA ウェブサイト(ヘリウム関連)改正、SDSの見直し

特殊ガス企画委員会・技術WG			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	定時代表者会議	平成26年4月23日	平成25年度活動報告、平成26年度活動計画
2	統計作成TF第1回会議	平成27年2月26日	半導体材料ガス及び標準ガス平成26年統計の作成要領
3	統計作成TF第2回会議	平成27年3月25日	半導体材料ガス及び標準ガス平成27年統計の資料確認
4	技術WG第1回会議	平成26年4月22日	平成26年度活動計画の決定、研修会の検討
5	技術WG第2回会議	平成26年6月5日	SDS改訂版の作成方法の検討
6	技術WG第3回会議	平成26年9月2日	SDS改訂版の作成及びスケジュールの検討
7	技術WG第4回会議	平成26年10月31日	SDS改訂版の詳細の確認
8	技術WG第5回会議	平成26年12月18日	研修会：カンサン(株)洪川事業所見学
9	技術WG第6回会議	平成27年3月11日	SDS改訂版の最終承認、平成27年度活動計画の検討
10	半材ガスチーム第1回会議	平成26年5月29日	SDS改訂版の作成要領の検討
11	半材ガスチーム第2回会議	平成26年8月7日	SDS改訂版の作成要領の確認
12	半材ガスチーム第3回会議	平成27年2月5日	SDS改訂版の最終確認
13	標準ガスチーム第1回会議	平成26年5月23日	基本通達改正案の検討
14	標準ガスチーム第2回会議	平成26年8月28日	基本通達改正案の検討
15	標準ガスチーム第3回会議	平成26年10月20日	基本通達改正案に対するKHK要望の反映検討

水素企画委員会・技術WG

No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	代表者会議	平成26年4月18日	平成25年度活動報告、平成26年度活動計画
2	技術WG第1回会議	平成26年5月16日	平成26年度活動計画の決定、研修会の検討
3	技術WG第2回会議	平成26年10月17日	研修会：HyTrec及び福岡水素タウンの見学
4	技術WG第3回会議	平成26年12月12日	SDS改訂版の検討、サブWGの進捗状況報告
5	技術WG第4回会議	平成27年3月13日	「水素ガス取扱い上の基礎知識」改訂版の最終承認
6	資料作成サブWG第1回会議	平成26年6月13日	「水素ガス取扱い上の基礎知識」改訂版の作成方法検討
7	資料作成サブWG第2回会議	平成26年9月5日	「水素ガス取扱い上の基礎知識」改訂版の作成資料確認
8	資料作成サブWG第3回会議	平成26年11月14日	「水素ガス取扱い上の基礎知識」改訂版の詳細確認
9	資料作成サブWG第4回会議	平成27年2月6日	「水素ガス取扱い上の基礎知識」改訂版の最終確認

溶解アセチレン技術WG

No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	技術WG第1回会議	平成26年4月16日	平成26年度活動計画の決定、GHS対応ラベルの検討
2	技術WG第2回会議	平成26年9月16日	「38年容器」の周知検討、各種会議の報告
3	技術WG第3回会議	平成26年12月16日	JIMGA表彰の検討、「38年容器」の周知検討

炭酸ガス技術WG

No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	第1回 炭酸ガス技術WG会議	平成26年4月17日	1) 現地見学会計画検討 2) 他のWG活動報告検討
2	第2回 炭酸ガス技術WG会議	平成26年6月20日	1) SDS改訂及び液化炭酸ガステキスト改訂作業 2) 他のWG活動報告検討
3	第3回 炭酸ガス技術WG会議	平成26年9月26日	1) SDS改訂及び液化炭酸ガステキスト改訂作業 2) 他のWG活動報告検討
4	第4回 炭酸ガス技術WG会議	平成26年11月7日	1) SDS改訂及び液化炭酸ガステキスト改訂作業 2) 他のWG活動報告検討
5	第5回 炭酸ガス技術WG会議	平成26年12月3日	1) 理事会・評議員会合同会議報告、他のWG活動報告検討 2) SDS改訂及び液化炭酸ガステキスト改訂作業 3) 他のWG活動報告検討
6	第6回 炭酸ガス技術WG会議	平成27年1月29日	1) SDS改訂及び液化炭酸ガステキスト改訂作業 2) 他のWG活動報告検討
7	第7回 炭酸ガス技術WG会議	平成27年3月16日	1) SDS改訂及び液化炭酸ガステキスト改訂作業 2) 他のWG活動報告検討
8	炭酸ガス技術WG全体会議	平成26年5月17日	1) 平成25年度活動報告と平成26年度活動計画 2) JIMGA各部会/WG活動報告 3) 第17回保安講習会の検討課題
	炭酸ガス技術WG 現地研修会	平成26年11月6日	1) 姫路安全スクール 施設視察
		平成27年1月30日	2) 株式会社リキッドガス/近畿炭酸株式会社 工場視察
		平成27年3月16日	3) 上毛天然瓦斯工業株式会社 工場視察

水素スタンドプロジェクト			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	第1回液体水素スタンド基準整備検討会	平成26年6月16日	1) 火気離隔距離の再検討
2	第2回液体水素スタンド基準整備検討会	平成26年12月18日	1) 液化水素スタンドに係る省令・例示基準改正の報告 2) 液化水素ポンプ昇圧型水素スタンドの基準化の可能性検討及び今後の展開について
3	第1回小規模製造水素供給設備基準整備検討会	平成26年6月24日	1) 実施計画書の変更について 2) 処理能力30m ³ 未満の第2種製造者の圧縮水素スタンドの技術基準案検討 3) 一般則第18条(貯蔵の方法の技術基準)の検討 4) 公道充填及びディーラー充填実証試験における申請内容の調査報告
4	第2回小規模製造水素供給設備基準整備検討会	平成26年11月7日	1) 処理能力30m ³ 未満の第2種製造者の圧縮水素スタンドの技術基準案再検討 2) 第2種製造者の圧縮水素スタンドの保安監督者及び定期自主検査の検討 3) 小規模製造水素供給設備に相当する既存設備の調査報告 4) 水電解水素昇圧器の安全性の確認
5	第3回小規模製造水素供給設備基準整備検討会	平成26年12月5日	1) 処理能力30m ³ 未満の第2種製造者の圧縮水素スタンドの技術基準案及び例示基準案について 2) 水電解水素昇圧器の安全性の検討

環境・安全部会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	第1回環境・安全部会	平成26年5月14日	平成25年度活動報告及び平成26年度活動計画
2	第2回環境・安全部会	平成26年11月12日	平成26年度上期活動進捗状況報告
3	第1回化学品安全WG	平成26年4月18日	SDS見直し内容確認、平成26年度活動計画について
4	第2回化学品安全WG	平成26年7月8日	SDS見直し内容確認
5	第3回化学品安全WG	平成26年10月29日	SDS見直し内容確認、JISの5年見直しについて
6	第4回化学品安全WG	平成26年12月19日	SDS見直し内容確認
7	第5回化学品安全WG	平成27年2月4日	SDS・ラベル・ガイドブック見直し内容確認、JISの見直し状況について
8	第1回環境保全WG	平成26年4月11日	「産業ガス業界における地球温暖化対策への取り組み」改訂
9	第2回環境保全WG	平成26年7月4日	同上及び「PCB処理施設について」作成
10	第2回環境保全WG	平成26年10月2日	同上及び「環境ニュース06/14」作成、低炭素社会実行計画2013年度実績報告
11	第1回省エネフォローアップ小委員会	平成26年7月29日	低炭素社会実行計画フォローアップ調査報告、省エネ補助金について
12	第2回省エネフォローアップ小委員会	平成26年10月22日	低炭素社会実行計画フォローアップ調査、LCIデータのフォローアップ調査
13	第3回省エネフォローアップ小委員会	平成26年3月25日	低炭素社会実行計画フォローアップ2013年度調査結果報告書、2014年度調査予定

国際部会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	第1回国際部会会議	平成26年4月17日	IOMA GC、2WGの平成24報告/平成25計画
2	第2回国際部会会議	平成26年11月10日	IOMA GC、2WGの平成25上期報告
3	2014年第1回 IOMA GC会議	平成26年5月22日	IHCプロジェクト・ギャップ分析の進捗確認 国際統合化功労賞受賞者選
4	2014年第2回 IOMA GC会議	平成26年10月27日	IHCプロジェクト・ギャップ分析の進捗確認
5	第1回規制改革 WG 会議	平成26年4月24日	規制改革要望の検討
6	第2回規制改革 WG 会議	平成26年8月5日	規制改革要望の検討
7	第3回規制改革 WG 会議	平成26年10月23日	規制改革要望の検討、平成26中間活動報告
8	第4回規制改革 WG 会議	平成27年2月4日	規制改革要望進捗、今後の活動
9	第1回IHC対応 WG 会議	平成26年4月10日	IHC会議議事録確認、IHCプロジェクト進捗・対応確認
10	第2回IHC対応 WG 会議	平成26年7月16日	GC会議議事録確認、第35回IHC会議への準備、 IHCプロジェクト進捗・対応確認
11	第3回IHC対応 WG 会議	平成26年11月5日	第35回IHCおよびGC会議議事録確認、 IHCプロジェクト進捗・対応確認
12	第4回IHC対応 WG 会議	平成27年2月17日	第36回IHC会議への準備、IHCプロジェクト進捗・対応確認
13	厚生労働省医薬食品局 食品安全部企画情報課	平成26年6月26日	食品衛生管理者資格要件緩和の陳情
14	第35回IHC会議	平成26年7月29日	IHCプロジェクト進捗・新規プロジェクト確認 ギャップ分析によるプロジェクト候補検討
15	第36回IHC会議	平成27年3月3日	IHCプロジェクト進捗・新規プロジェクト確認 国際統合化功労賞候補選出ギャップ分析によるプロジェクト候補検討

地域本部、本部長、事務局長会議			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	事務局長会議	平成27年1月14日	本部連絡事項 1)会長の地域訪問時の対応について 2)消費税増税への対応について 3)内部監査報告について 4)第3回(平成27年)表彰の運用について 5)大規模災害時対策について ・対策マニュアルについて ・災害時確認機能(サイボウズ10)について ・JIMGA緊急連絡網、安否確認について(案) 6)その他連絡事項 ・MGR試験の結果について ・地域本部事務所の移転について ・在宅酸素療法における火気取扱いについて 意見交換

平成27年度 事業計画

産業ガス部門事業計画

1. 主要会議

産業ガス部門総会・定時総会

平成27年6月17日

理事会

第1回：平成27年6月17日

第2回：平成27年6月17日

理事会・評議員会合同会議

第1回：平成27年5月19日

第2回：平成27年11月30日

賀詞交歓会

平成28年1月13日

全国事務局長会議

平成27年6月17日

2. 総務部会

理事会・評議員会および総会に諮る以下の事項について、審議する。

- (1) 決算・予算審議
- (2) 定時総会、理事会、評議員会開催の件
- (3) 入退会、職員異動
- (4) 表彰制度の運用
- (5) その他、規程の改定等審議

3. 広報委員会

JIMGAが果たす社会的責任やコンプライアンスへの取り組みを的確に情報発信し、協会の地位向上を図り協会全体の事業活動を支援するために以下の取り組みを行う。

- (1) 協会ウェブサイトの内容の充実
会員へのタイムリーな情報提供に努め、発信するJIMGAを意識した情報発信を行う。
また、各ページを点検し、陳腐化した情報の更新や必要な情報の提供に努める。

(2) 産業ガスレポートの発行

活動・事業の記録書として、協会の活動と事業の報告、重要課題への取組、トピックス、統計データ等を内容として、9月と3月の年2回発行する。

(3) JIMGAnewsの発行

協会解説、ニュース等の通信紙として、活動や事業の報告ダイジェスト、ニュース、会員紹介などを内容として、年6回偶数月の月末に発行する。医療ガス部門の情報も掲載する等、内容の充実に努める。

(4) マスコミへの発信

協会の動向や意志を協会トップや役員から直接発信するべく、記者会見や記者懇談会などを通じて、情報発信の機会をより一層広げ、パブリシティの充実に努める。6月、11月の年2回を定例記者会見とし、適時臨時記者会見を開催し、情報発信を行う。

(5) 広報活動の連携強化

社会インフラとしての産業・医療ガスの認知度の向上を目指し、医療ガス部門・産業ガス部門のワンボイスでの情報発信に努め、広報活動を強化する。

4. 企画部会

各WG間で情報を共有し、保安確保のための活動を継続する。

(1) 長期停滞容器回収推進WG

- ・ 容器使用料の考え方の完成と公表、容器管理指針の発行働きかけを最重要課題とし、これらのツールの利用により長期停滞容器回収を促進する。
- ・ 貸出容器の有償化に関して、考え方を整理し、延滞料から容器使用料への移行を促進する。容器使用料の考え方について、料金

の設定方法、課金方法等について具体的に示す。

- ・地域行政の「容器管理指針」発行について、未だ発行されていない行政に対する取り組みを更に強化する。取り組みにあたり、各地域本部および全溶連との協力体制を再度見直す。
- ・JIMGAの会報、ウェブサイト等を活用し、長期停滞容器を回収するための各種ツールの普及に努める。
- ・容器RFタグ運営委員会およびEDI運営委員会との連携を行い、RFタグによる容器管理およびJIMGA-EDI活用による容器使用料徴収の実例紹介を検討する。

(2) 物流WG

- ・物流にかかわる問題を広く捉え、業界として取り組み可能な課題を取り上げ、幅広く議論する。
- ・CO₂排出量統計を実施し、その結果を考察し、更なるCO₂削減策を模索する。
- ・「高圧ガス輸送におけるCO₂排出削減の取り組み」のパンフレットの内容を見直し、広報・啓発活動を検討する。
- ・事故情報や物流に関する問題について、情報交換および議論することにより、再発防止や未然防止に役立てる。
- ・環境・安全部会と情報を共有し、物流や環境に関する動向について幅広く議論する。

(3) 容器処理WG

- ・主な活動を「高圧ガス容器特別回収プロジェクト」との合同会議とする。WGとして解決すべき課題が発生した場合は、随時会議を開催する。

5. 容器RFタグ運営委員会

(1) 普及・促進活動の強化

- ・メーカー6社の運用拡大と医療ガス容器へ

の展開を加速する。

- ・全溶連加盟大手販売店を重要ターゲットとしてアプローチする。
- ・説明会の開催を継続し、説明会アンケートの分析による次の打ち手を確認する。
- ・JIMGA-EDIと連携した実例の紹介を検討する。
- ・フロン業界等、容器大量所有者へのRFタグ採用を支援する。
- ・RFタグ導入キャンペーンを継続実施する。

(2) 各種課題への対応の継続

- ・小型容器用RFタグの評価と実用化
- ・フロン業界などでの利用ルール整備
- ・容器検査所におけるRFタグの取付ルールの整備
- ・ISO規格化に向け、引き続き国際会議に向けた準備と対応を実施する。
- ・周波数帯移行の完了後に、業界として対応すべき課題の有無を最終確認する

6. EDI運営委員会

JIMGA-EDIの安定的な運用のため、委員会組織として以下の活動を行う。

(1) 普及促進活動

- ・普及のための説明資料を作成し説明会を開催する。
- ・運用ガイドラインのメンテナンスを継続する。
- ・協会ウェブサイトによる広報と問い合わせ対応。
- ・容器使用料徴収やRFタグの普及促進について、他のWGと連携して取り組む。

(2) EDIシステム運用

- ・JIMGA-EDI利用状況を確認し、確実な課金管理を行う。

7. 技術審議委員会

年2回開催しJIMGAの活動の中心である技術、保安、環境、安全等に関し、上程案を審議する。

8. 技術・保安部会

年2回開催し各WG間の情報を共有し、技術、保安に関する取り組みを推進する。

(1) 容器技術WG

- ・ 容器保安規則関係例示基準およびKHK基準等に不合理が発生した場合は、外国基準の引用も含め、業界として基準改正および追加等の検討を行う。
- ・ 法令の改正、ISOやJIS規格改訂等があった場合に、必要に応じてJIMGA指針の見直しや制定を行う。
- ・ ISO/TC58国内委員会への参画とISO規格原案等の検討、およびTC58/SC4国際会議へ参加する。
- ・ ISO3807の発行による国内基準への取り込み提案を行う。(継続案件)
- ・ AE試験について、企業実証特例制度の実施状況を踏まえ、規制緩和や特認での導入の可能性を検討する。

(2) 超低温貯槽WG

- ・ 改訂あるいは新規制定を要する自主基準を確認し、必要に応じて検討を行う。
- ・ 高圧ガス保安法および関係規則やKHK基準等について、不合理があった場合、外国基準の引用も含め対応を検討する。
- ・ 規制改革要望への対応として、「CE及びその他の超低温貯槽の耐圧試験に使用する流体の明記」について要望案を検討する。
- ・ ISO/TC220国内委員会への参画とTC220関連基準検討、およびTC220国際会議へ参加し、情報の収集・発信等に努める。

(3) 充てん技術WG

- ・ 産業・医療ガス臭気問題に関するレポートの作成に継続して取り組む・
- ・ WG委員のスキルアップを図るため、フレキシブルホース(充てん用)の勉強会を開催する。

- ・ 臭気問題およびフレキシブルホースについて、さらに海外の状況を継続して確認する。

(4) 保安対策WG

- ・ 法改正や事故・トラブル情報を基に高圧ガスハンドブックを改訂する。
- ・ 「CE実務Q&A」(仮称)について、原案を作成する。
- ・ 基準等図書類、JIMGAウェブサイト、eラーニング等、成果物の活用方法を検討する。
- ・ 関連法令の改正や事故・トラブル等への対応を支援する。

(5) 教育・研修WG

- ・ eラーニング「高圧ガス安全基礎知識」ダイジェスト版を作成し、ウェブサイトにて公開する。
- ・ 高圧ガスの利用や取り扱いに関する周知資料の作成を検討するため、情報を収集する。

(6) 溶解アセチレン技術WG

- ・ 「38年容器」への対応について周知するため、全溶連に協力依頼する。
- ・ アセチレン製造事業所の保安活動の推進
- ・ 電力等の省エネ対策についての検討
- ・ RFタグ普及推進と現状把握
- ・ 自主基準の見直し検討やJIS規格に関する検討

(7) 炭酸ガス技術WG

- ・ 第17回炭酸ガス保安講習会用テキストを配布し、関係者へ改訂内容を説明する。
- ・ 第17回炭酸ガス保安講習会用説明資料を作成し、DVD動画を編集・配布する。
- ・ 各地域本部主催の講習会へ委員が参加する。
- ・ 炭酸ガス技術WG定例会に合わせ、炭酸ガス関連設備の視察、保安意識の向上を目的とした研修会を計画する。

(8) 特殊ガス企画委員会・特殊ガス技術WG

- ・ 特殊ガス JIS Z7253対応警告表示ラベル修

正とGHSラベルとの統一化の是非を検討する。

- ・混合ガスのSDSに関する検討を実施する。(混合物としてのSDS作成方法の検討)
- ・半導体材料ガスおよび標準ガスの平成27年統計資料を作成する。
- ・KHKの要望を反映した容器基本通達(容器則9条関係)改訂案を経済産業省に申し入れる。
- ・国際部会規制改革WGならびに技術・保安部会と連携して各種規制の改革を推進する。
- ・企画部会と連携して特殊ガスの長滞容器の回収を推進する。
- ・特殊ガスの容器供出に努めてCRC西日本の安定運営に寄与する。

(9) 水素企画委員会・水素技術WG

- ・平成28年度開催予定の水素保安講習会用の資料として「水素ガス取扱い上の基礎知識」改訂版を作成し、全国5箇所で開催予定を実施する。
- ・水素統計資料として、平成27年圧縮水素仕向け先・荷姿別・出荷実績集計表、および圧縮水素出荷実績5年推移を作成する。
- ・平成28年度支部別水素プラント定修予定表を作成する。
- ・技術WGによる研修会開催。各地域本部の水素部会への参加、情報の交換を計画。

(10) 安全統計WG

- ・高圧ガス事故、関連する労災事故の情報を収集し、必要に応じJIMGAウェブサイトに掲載する。
- ・労働災害情報を分析・検討し、労働災害指標である度数率、強度率、事故の傾向分析等を行う。
- ・高圧ガス関連事故(災害)として、KHKの平成26年災害事故報告およびJIMGAの事故情報について、事故の原因と傾向を比較

検討し、安全ニュースを発行する。

- ・過去の事故情報、ヒヤリハット事例等を活用し、各地域本部の保安セミナー等での発表を通じて情報の共有化と、安全活動に係る教育活動を支援する。

(11) ヘリウム技術WG

- ・ヘリウムガスおよび液化ヘリウムの安全な取り扱いについて、過去の事故事例を調査のうえ、注意事項、事項予防策等を策定する。
- ・JIMGAウェブサイトの「産業ガスについて」のヘリウム関連のページの修正案を検討し改訂する。
- ・ヘリウムソース、海外情報の収集・分析を行い、共有化に引き続き取り組むと共に、使用に関する技術開発動向等についても情報収集と分析のうえ共有化する。
- ・長尺容器・液化ヘリウム容器の検査状況等の調査について引続き必要性を検討する。

(12) 水素スタンドプロジェクト

[液体水素による貯蔵・水素スタンド規制・基準の整備に関する検討]

- ・消防庁による液化水素貯槽設置型圧縮水素スタンドとガソリンスタンドとの併設の検討をフォロー
- ・JIMGA自主基準「液化水素貯蔵型圧縮水素スタンドの自主技術基準」の作成
- ・液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンドに関する事故事例調査・リスク評価等実施 [2種製造設備に相当する水素供給設備の技術基準の整備に関する検討]
- ・高圧ガス保安法における省令・例示基準改正のフォロー
- ・国土交通省の第2種製造者の圧縮水素スタンドの市街地への設置検討に関するフォロー
- ・消防庁と第2種製造者の圧縮水素スタンド

のガソリンスタンド併設に関する協議

- ・ 高圧水電解装置のリスク評価の再検討および安全対策の検討
- ・ JIMGA自主基準「圧縮水素スタンドに設置する水電解水素昇圧器の自主技術基準」の作成

9. 環境・安全部会

年2回開催し各WG間の情報を共有し、エネルギー政策の見直しと地球温暖化対策関連の動向をフォローし、電力多消費産業の立場から対応する。

(1) 環境保全WG

- ・ 日本経団連低炭素社会実行計画フォローアップ調査
- ・ 低炭素社会実行計画フォローアップ調査結果について環境ニュース発行
- ・ 地球温暖化、省エネルギーの諸施策に関して情報収集実施
- ・ 「産業ガス業界における地球温暖化対策への取り組み」(JIMGA-T-S/63/10)の改訂
- ・ 既存指針の国際統合化の検討：①「産業保冷用パーライトの産業廃棄物としての処理指針」、②「産業ガス業界におけるの良好な環境マネジメント実践の指針」、③「ガスの廃棄指針」

(2) 化学品安全WG

- ・ JIS-K-1101：2006(酸素)およびJIS-K-1105：2005(アルゴン)の改訂案を作成する。
- ・ イエローカードについて、SDSやラベルと同様に見直しを行う。
- ・ 作業現場での化学物質(SDSの配布義務の640物質)の取り扱い危険性のリスクアセスメントの義務化について啓発活動を行う。

10. 国際部会

WGの活動報告、WG間の情報共有、国際会議参加状況報告等の活動管理を行う。

(1) 国際統合化委員会(IHC)対応WG

- ・ 国際統合化プロジェクトのJIMGA基準化を推進(2015年11件)
- ・ JIMGAリードプロジェクトの他協会活動フォロー
- ・ AIGA、CGA、EIGA、IOMA等との技術交流会の促進と協調関係の継続・強化
- ・ 特殊材料ガス分野での国際統合化基準候補提案用ギャップ分析表原案の作成、国際統合化委員会(IHC)およびIOMAグローバル委員会会議での本件進捗報告をAIGAと共同で実施
- ・ IHC会議参加、IOMA国際統合化功労賞候補者の選出
- ・ 末端ユーザによるガスの誤用・乱用等(He、N₂O等)の情報交換および対応
- ・ 他協会主催セミナーへの参加

(2) 規制改革WG

- ・ 規制改革要望案を発掘・募集し、提案事項を審議する。
- ・ 規制改革要望案件の提案・折衝を行い、実現を目指す。

対象案件：「国際汎用添加物へのAr追加要望」、「モノシランの毒性ガス分類の再検討要望」、「材料曲げ試験での表裏区別の廃止」、「超低温容器の膨張測定試験の廃止」、「医療用酸素容器の定期点検期間の緩和」、「在宅酸素用LOX装置の製造届出要件の緩和」、「容器検査のAT/UTの適用」

- ・ 海外の規制、基準の調査、情報の発信

会員の現状、今後の主要日程

1. 会員の現状

平成27年6月17日現在

	医療ガス部門	産業ガス部門	合計
正会員*	753社	302社	1,055社
賛助会員	－	23社	23社
海外会員	－	5社	5社
合計	753社	330社	1,083社

※正会員社数は議決権を表す。

2. 今後の主要日程

	開催年月日	開催場所
平成27年度第2回 部門理事会・評議員会合同会議	平成27年11月30日(月) 14:00～	メルパルク大阪
平成28年 賀詞交歓会	平成28年1月13日(水) 16:00～	経団連会館
平成28年度第1回 部門理事会・評議員会合同会議	平成28年5月27日(金) 12:00～	経団連会館
平成28年度 定時総会	平成28年6月14日(火) 15:30～	経団連会館



技術・国際ニュース



1. 技術・保安部会

容器技術WG

容器に関する国内法関連対応、ISO規格の改訂・新規規格化案件対応、および、容器再検査方法に関する新技術の採用に向けた取り組みを中心に活動しています。

ISO規格では、昨年度は20の規格において、24回の改訂・新規規格化のプロセスに対応するとともに、ISO/TC58/SC4国際会議に参加し、国内の意見の反映や情報収集に取り組みました。RFタグ運営委員会と共同で対応中の、JIMGA仕様のRFタグ規格ISO 21007-2の改訂作業は順調に進んでいます。また、アセチレン容器の規格ISO 3807はJIMGAが積極的に関与し改訂されましたが、これを国内基準に反映するよう溶解アセチレン技術WGとの専門委員会で作業を行っています。今後も、情報の収集・発信や国内での活用に向けて努めていきます。

AE(アコースティックエミッション)による容器再検査については、高圧ガス保安法での採用可能性に向けて作業部会を設置し検討中で、課題の抽出まで行いました。企業実証特例制度を利用してAE試験を採用している事業者と情報交換を行いながら今年度は取り組みの方向性を定めていく予定です。

超低温貯槽WG

平成27年度、当WGは下記の4点の事項について重点的に活動する計画です。

(1) 自主基準の作成

WG内のテーマ検討ではローリ、CEの液面計の不具合が多く、また、真空排気口等付属品の取り扱いについても周知が必要との意見がありました。これら付属品の取り扱いについて、今期は液面計の取り扱いに関する周知文書の作成に取り組みます。

(2) ISO/TC220(超低温貯槽)への参画

平成25年6月に日本の地位がP(Participant)メンバーに変更されてから3度目の開催となるTC220国際会議(6月17～19日：中国、北京)に参加しました。今後も積極的に、ISO規格案に対する国内の意見の反映、情報の収集・発信に努めます。

(3) 規制改革要望の抽出・実現

過去の要望で中断および継続中の案件についてWG内で再確認を行い、国際部会に継続要否について報告を行いました。「超低温容器用材料としてSUS304N2の採用」については中断扱いとしましたが、今後も海外動向も含め情報入手を継続していきます。

(4) 高圧ガス販売事業者保安セミナーでの講演

「CE設置事業所・ローリー運行事業所関係基準」について2月に中国地域本部にて講演を行いました。「CEの構造と安全な取扱い」「超低温液化ガス(酸素・窒素・アルゴン)充填用ステンレス製フレキシブルホースに関する取扱い自主指針」のテーマも含め、今後も積極的に講演活動を継続していきます。

充てん技術WG

当充てん技術WGは、9地域本部(10名)とメーカー4社(4名)で構成・活動しています。

平成27年度は、次の3つのテーマに取り組み活動していく予定です。

(1) 「産業・医療ガスの異臭判定について」

「産業・医療ガスの異臭判定について」を作成します。内容としては、臭気発生時の想定される原因、臭気別の想定される発生源、臭気判定者資格等の紹介、臭気の判定方法を考えています。今年度末までの取りまとめを目標に活動していきます。

(2) 「カードル自主技術指針(初版)」普及啓発セミナー

当WGが平成25年11月に完成させた「カードル自主技術指針(初版)」の普及啓発セミナーを開催します。各地域本部開催のセミナーに積極的に講師の派遣を計画しています。

(3) スキルアップ研修

今年度も新しく知見を広める目的で、WG委員スキルアップ研修を、11～12月に予定しています。見学研修場所については、今後検討し決定いたします。併せて平成27年度第2回目の充てん技術WG定例会議を開催する予定です。

保安対策WG

(1) 「高圧ガスハンドブック」

本年5月に第2次改訂版を発刊しました。また発刊部数が平成18年の発刊以来、累計1万部を超えました。会員の皆様そして高圧ガス関係者の皆様に広くご活用いただき、心より感謝申し上げます。

(2) CE実務Q&Aの策定

CEの操作や保守管理等の実作業に関連するQ&Aを抽出し、小規模ユーザーからガスサプライヤーまで幅広く活用いただけるよう策定中です。現在数十件のQ&Aを精査しており、次年度にはJIMGAウェブサイトへの掲載を検討しています。

(3) 地域本部との連携

8月に四国地域本部で「高圧ガス販売事業所自己診断指針第2刷」の講演を予定しています。

(4) スキルアップ

6月に「イワタニ水素ステーション芝公園」を視察し、水素ステーションの構成や最新のインターロック等を学びました。

教育・研修WG

(1) ウェブサイトを活用した教育用教材（eラーニング）の充実

「eラーニング酸素編」(平成26年6月リリース)、「eラーニング高圧ガス安全基礎知識 ダイジェスト版」(平成27年7月リリース)に引き続き、今年

度は「eラーニング高圧ガス安全基礎知識(本編)」の改訂に着手しています。「高圧ガス保安ハンドブック」の改訂や最近の事故事例等を反映した内容となる予定です。

(2) 高圧ガスの利用や取り扱いに関する周知資料の作成検討

高圧ガスを利用するエンドユーザーや流通・保管等に携わる作業向けに、分かりやすい周知資料の作成検討を行う予定です。(他団体や各事業者において既に類似制作物を保有・配布している可能性もあるため、情報収集から実施予定)

安全統計WG

(1) 事故情報の収集と活用

会員各社より高圧ガス事故、高圧ガス作業に関連する労災事故の情報収集を行い、必要に応じJIMGAウェブサイト(会員専用ページ:災害・事故情報)へ掲載します。

(2) 労働災害統計

従来どおり労働災害情報の分析・検討を進めます。労働災害指標である度数率、強度率、事故の傾向分析等を実施します。平成26年労働災害統計調査報告を7月にJIMGAウェブサイトに掲載します。

(3) 高圧ガス関連事故(災害)の分類・解析

KHKの災害事故の平成26年報告およびJIMGAの事故情報について、事故の原因と傾向の比較検討を行います。今年度は物質名、取扱状態の事故原因についてより詳細に分析を行います。

(4) 「安全ニュース」の発行

KHKと産業ガスの事故比較による分析を行い、前項(3)の傾向分析を踏まえ「安全ニュース」を発行します。

(5) 平成27年度の保安セミナーについて

過去の事故情報、傾向分析を活用し、各地域本部の保安セミナーでの発表を通じて情報の共有化と安全に係る教育活動を支援していきます。

ヘリウム技術WG

今年度の活動として進めているJIMGAウェブサイト上の液化ヘリウムおよびヘリウムガスに関する情報の改訂作業がほぼ終了しました。秋頃からウェブサイトに掲載予定ですので、ご利用ください。WG委員のヘリウムに関する知識を深め、今後の活動に役立てるための研修として、自然科学研究機構の核融合科学研究所を見学しました。超電導コイル冷却に用いられる液化ヘリウムを作っている液化機の運用状況や、核融合反応によるヘリウム生成等について知見を深めてきました。

また、今年度の新たな活動として、液化ヘリウムおよびヘリウムガスの安全な取り扱いと事故予防対策について、WGで議論を始めています。過去の事故事例も踏まえながら、その予防対策についてもまとめていく予定です。改訂の完了した液化ヘリウム、ヘリウムガスの安全データシート(SDS)と製品ラベル、イエローカードがJIMGAウェブサイト上で公開されています。どうぞご活用ください。

炭酸ガス技術WG

炭酸ガス技術WGの平成27年度活動計画は次のとおりです。

(1) 会議の開催

炭酸ガス技術WG全体会議の開催(1回/年)

常任委員による定例会議(6回/年)

(2) 個別課題

第17回炭酸ガス保安講習会時に使用するテキストの配布と説明を実施

① 下記テキスト類を各地域本部の炭酸ガス技術WG関係者へ配布し、テキスト改訂内容の説明を実施します。

・「液化炭酸ガスCE取扱事業所・ローリ運行事業所関係基準」(JIMGA-T-S/24/15)

・「液化炭酸ガス取扱テキスト」(JIMGA-T-S/25/15)

・「高圧ガス保安法の要点(液化炭酸ガス)」

(JIMGA-T-S/26/15)

・「原料炭酸ガス製造フロー概説」(JIMGA-T-S/38/15)

② 液化炭酸ガス用のSDSおよびラベルについて、各地域本部の炭酸ガス技術WG・グループへの説明実施の進捗状況は次のとおりです。

5月28日には、炭酸ガス技術WG全体会議を行い、昨年度の活動実績報告、今年度活動計画の承認、関係部会ならびに関係WGの活動実績報告、次回開催予定の炭酸ガス保安講習会の計画内容を確認しました。

定例会議も予定通り4月、6月に開催し、関係WGの活動報告および必要事項の検討、個別課題についての議論を進めています。

溶解アセチレン技術WG

溶解アセチレン技術WGは平成27年5月に野村前WG長から杉岡新WG長に交代しました。

平成27年度の主な活動としては、「製造後38年を経過した容器には充てんしない」という平成17年に定めたガイドラインを遵守するよう、製造事業所や販売店等に再度依頼をしていく予定です。まずは溶解アセチレンの各製造事業所の実態を確認した上で、会員各社と協議しながらガイドライン遵守を進めていきます。

また、設備の省エネ対策については国からの補助金が下りる場合もあるので、WG内で省エネ対策についての検討を行い、知見を深めて情報の共有を図っていきます。

以上をベースに、今年度は下記の活動計画を推進していく予定です。

① 「38年容器」の周知

② アセチレン事業所の保安活動の推進

③ 省エネ対策についての検討

④ RFタグ普及推進と現状把握

⑤ 基準・規格等の見直し検討

⑥ 溶解アセチレン SDS(改訂版)の作成

水素技術WG

平成26年度は「水素SDS」「水素ガス取扱い上の基礎知識」の改定に取り組みました。サブWGを立ち上げ、会員会社のご協力により、3月末に完成し、平成27年4月の技術審議委員会で承認をいただきました。

平成27年度の活動として、前年および前々年に改訂した、「水素SDS」「水素ガス取扱い上の基礎知識」「ヒヤリ・ハット事例集（水素ガス編）」について、活用、普及、啓発のための活動を展開します。それぞれの成果物についてはJIMGAのウェブサイト上に掲載し、会員各社が活用できるようにいたします。

また、今年度もサブWGを立上げて、「水素ガス取扱い上の基礎知識」「ヒヤリ・ハット事例集（水素ガス編）」の講習会用のパワーポイント資料を作成のうえ、地域本部と連携して、講習会を開催し、啓発活動を行っていきます。その際には、「水素SDS」の変更点も含めて説明します。また、他の部会、WG等についても、情報共有や協働について、積極的に対応していきます。

水素スタンドプロジェクト

国家プロジェクトの一環としてNEDOより受託している規制適正化事業のうち、「液体水素による貯蔵・水素スタンド規制・基準の整備に関する検討」では、液化水素を気化させた水素を圧縮機で昇圧して燃料電池自動車に充填するタイプの圧縮水素スタンドに関し、4月にJIMGA自主基準「液化水素貯蔵型圧縮水素スタンドの自主技術基準」(JIMGA-T-S/97/15)を作成しました。また6月には総務省消防庁より「危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令(平成27年総務省令第56号)」が公布・施行され、液化水素貯蔵型の圧縮水素スタンドも一定の基準を満たせば、ガソリンスタンドと併設することが可能となりました。

一方、「2種製造設備に相当する水素供給設備の

技術基準の整備に関する検討」では、小規模な水素スタンドの技術基準案を作成しました。現在、経済産業省で小規模な水素スタンドに関する技術基準についての検討が行われています。また、小規模な水素スタンドに設置されることが想定されている差圧式の水電解水素昇圧器について、リスク評価による安全性の検討を行って、4月にJIMGA自主基準「圧縮水素スタンドに設置する水電解水素昇圧器の自主技術基準」(JIMGA-T-S/98/15)を作成しました。

特殊ガス技術WG

(1) 容器基本通達の改訂

容器保安規則第9条の解釈をめぐり、混合ガス容器のガス名変更ができなくなるという不具合が発生していることから、経済産業省への改訂申し入れを計画しています。高圧ガス保安協会容器検査課への相談を経て、現在は同課の意見を反映した改訂案を作成中です。

(2) 容器貼付警告表示ラベルに関する検討

現在採用している鑑方式では、ラベルの作成が困難であることから、混合物としてのSDS作成方法も含め検討しているが、まずは、代表的な混合ガスで実際にSDSを作成することで問題点の抽出と対応を検討中です。

(3) JIS Z 7253対応警告表示ラベルの修正とGHSラベルとの統一の是非について検討しています。

(4) 国際部会への協力

JIMGA国際部会より特殊ガスに関する協力の要請があり、プロセスとハザードのマトリクス表の作成を検討しています。この表により既存の業界基準と法規制がカバーしていないハザードを洗い出すギャップ分析を行ってまいります。

(5) 研修会の開催

今年もメンバーのスキルアップを目的に、研修会の開催を検討中です。

2. 環境・安全部会

環境保全WG

日本経団連では、産業界の主体的な地球温暖化対策の取り組みとして、2020年度のCO₂削減目標を設定する「低炭素社会実行計画」を2013年から推進しています。産業ガス業界は、この活動に日本化学工業協会(日化協)を通して参加しています。その2014年度の活動実績を取りまとめ、日化協へ提出しました。引き続き、JIMGAにおいても地球温暖化対策への対応を進めていきます。

また、産業ガス業界の地球温暖化対策への具体的取り組みを広くPRするべく作成・公表している「産業ガス業界における地球温暖化対策への取り組み」の内容を見直し、JIMGA産業ガス部門のウェブサイトに公開しました。

化学品安全WG

平成27年度は酸素、窒素、アルゴンのJIS改訂年です。改訂箇所は関係団体にヒアリングを行い、酸素は酸素純度測定用の標準ガスの追加、アルゴンは窒素分析計(放電スペクトル法)の追加等になりました。JIS改訂に関し日本規格協会や経済産業省へ改訂理由の説明を行いました。

またJIS改訂委員や分科会委員の選任を行い初回の委員会と分科会を6月に開催しました。今後は、化学品安全WGでJIS改訂原案を作成し、JIS改訂委員会と分科会に提案を行い、来年までにJIS改訂原案をまとめる予定です。

また現在、JIMGAウェブサイトに掲載しているイエローカード(27種)の見直しを行っています。

3. 国際部会

IHC対応WG

3月3～4日に第36回IHC上海会議が開催され、国際統合化プロジェクトおよびギャップ分析(EIGAとCGA担当の「アセチレン」、JIMGAとAIGA担当の「特殊ガス」)の進捗確認を行いました。

また3月5日には医療ガスに対するPIC/S(医薬品査察協議会及び医薬品査察協同スキーム)のGMP要求事項の遵守について情報交換を行いました。次回のIHC会議までに各国の整合性の状況について調査することとなりました。

5月19日にはサンフランシスコにてIOMAグローバル委員会が開催され、IHCの統合化プロジェクト、上記2件のギャップ分析の進捗、およびIHC広報活動(IOMA BROADCASTER)について確認し、2015年国際統合化功労者を決定しました。

国内においては基準統合化作業が加速し、「参考国際統合化文書」(日本語概要+英語の原文)として28基準(平成27年6月末時点)をJIMGAウェブサイトの産業ガス部門出版図書で公開しています。そのうち「空気液化分離装置の安全運転指針」と「酸素パイプラインシステム」の2文書は、高圧ガス保安法等の国内法に照らした、JIMGA基準として完成させることになりました。

次回IHC会議はシアトルにて7月21～23日に、IOMAグローバル委員会会議は11月9日にローマにて開催されます。

規制改革WG

今年度はJIGA時代からの継続案件も含み、①厚労省の国際汎用添加物へのAr(アルゴン)追加、②モノシランの毒性ガス分類の再検討、③材料曲げ試験での表裏区別の廃止(例示基準の修正待ち)、④超低温容器の膨張測定試験の廃止、⑤医療用酸素容器の定期点検期間の緩和(平成元年第69号課長通達の修正)、⑥在宅酸素用液酸装置の製造届出の要件緩和、⑦容器検査へのAT/UTの適用、の7件に取り組んでいます。

また、CGAやEIGAが主催する安全セミナーに参加し、各地域の問題を調査するとともに、日本でも実施すべき優れた事例があればJIMGAとして採用し、法規制に係る場合は当局と協議して、採用を働きかける活動を積極的に行います。

地域本部の活動報告

北海道地域本部

1. 定時総会

日時：平成27年5月21日（金）16:50～17:40

会場：ニューオータニイン札幌

議 題

第1号議案 平成26年度事業報告承認の件

第2号議案 平成26年度収支決算報告承認の件

第3号議案 平成27年度事業計画（案）承認の件

第4号議案 平成27年度収支予算（案）承認の件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

報告事項

北海道地域本部役員変更のご報告

本部出席者：

副会長 今井 康夫

専務理事 永江 裕

常務執行役員 福盛 康宏

曾我部本部長挨拶（要旨）

国内経済はアベノミクスによる株高、円安が進行し景気回復の兆しが見られましたが、昨年4月からの消費増税の影響もありました。北海道においても、なかなか景気回復の実感が、得られない状況にあり、今後の景気動向に期待しております。

我々を取り巻く環境としては、電力の問題があります。北海道電力が昨年11月から2回目の値上げを実施しました。我々にとっては大きなコスト増要因となり、仕事を完遂する中で避けて通れない問題であります。また、昨年4月の消費増税につきましても、北海道地域本部でも消費税特別措置法調査会を設けて活動し、確実に消費税の転嫁

を実行できました。更なる増税に対しては、調査会を延長して対応していきます。

今年度、北海道地域本部の活動といたしましては、産業ガス部門では、今年も保安セミナーを開催し一層の保安啓発活動に努めます。また、本部が推進しているRFタグについて、北海道地区での更なる容器管理徹底のために普及促進活動の強化を図っていきます。医療ガス部門においては、今年は医療ガス保安講習会を札幌市内で11月に開催し、更なる保安の啓発活動に努めます。また、平成26年3月に全国で7番目に卸売販売業の営業所管理者にMGR認定者が認められました。北海道への報告義務として教育研修の実施状況について、今年もMGR更新時講習会の出席者を北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課へ報告し各保健所に登録していただく予定です。

今後、更なる活動を通してJIMGAが責任ある団体として、安全かつ適切な産業・医療ガスの提供に寄与する団体であることを社会的に広く周知し、業界の社会的評価を高める必要があると考えております。

今後とも皆様方の意見を充分お聞きしながら、業界また地域の発展のために取り組んでまいりたいと思います。



曾我部本部長挨拶

今井副会長挨拶（要旨）

安倍内閣発足以来、金融政策あるいは財政出動等による、超円高という為替水準の是正、更に株高で一部産業にとりましては、景気は顕著に回復しております。しかしながら消費税増税の反動減もあり、我々にとって回復の実感は残念ながら少なかったと思っております。

一方で、原発停止による電気料金の値上げ、化石燃料上昇による燃料調整費単価、再生可能エネルギー固定価格買取制度賦課金に加えて、予想を超えた超円安傾向による電力料金再値上により、平成20年4月に比べ、我々業界全体の電気代は平成27年3月時点で251億円上がっております。電力は当業界の死命を制する重要な問題でありますので、本年度も引き続きJIMGAとして、電力多消費10団体と一緒に政府、関係省庁への陳情、意見広告の掲載など強い働きかけを行ってまいります。

更に、昨年4月に消費税が8%に引き上げられました。この消費税の円滑かつ適正な転嫁に向けた取り組みとして、いわゆる転嫁カルテル・表示カルテルの基準を制定し公正取引委員会に届出を行いました。また、全国の地域本部に調査会を設けていただきましたが、公正取引委員会に相談するような事案もなく消費税の転嫁を実行していただいたものと思えます。

政府は、本年10月に予定していた10%への消費税の再増税を平成29年4月まで先送りをしました。協会としては、本年度以降も地域本部に設置した調査会を活用して注視していくこととしております。

今年度の課題については、産業ガス、医療ガス両部門共通として、コンプライアンスの遵守と保安・安全の推進、事故の撲滅のふたつの課題があります。この不変の課題に加えて、我々の産業・医療ガスが社会・産業のインフラおよびライフラインとして重要な製品であることを社会の皆様方にご理解いただくために「必要とされるJIMGA」

を目標に「信頼される組織」「絶えず発信する組織」に取り組み、JIMGAのプレゼンスの向上を目指してまいります。そのために、産業ガス、医療ガス部門におきましては、それぞれ4つの課題に重点的に取り組みます。

まず産業ガス部門について、第一は「保安の層の強化・推進」です。これは皆様ご承知の通り地道な活動ですが、今年度も全国の地域本部と一緒に講習会の開催や啓発活動を行い、「皆様から信頼されるJIMGA」を目指します。

第二は所有者不明容器・放置容器撲滅のために、RFタグの普及を更に推進し、容器管理の強化・徹底を図ります。

第三は「環境・安全部会」を中心とした環境への取り組みと、業界の事故統計の分析・原因解析ならびに対応策など成果物の発信や、電力問題への対応の継続です。

第四は国際統合化です。これもますます重要なテーマとなってきており、「国際部会IHC対応ワーキンググループ」を中心に世界中の業界の共通課題である「事故の撲滅、保安の強化、推進」のために欧・米・アジアの団体であるEIGA、CGA、AIGAと国際統合化文書やJIMGA指針の作成に積極的に取り組みます。

医療ガス部門につきましても4つの課題があります。

第一は事故防止です。医療従事者を対象とし



今井副会長挨拶

た草の根講習会を全国の各地域本部で、本年度も22ヶ所で開催することにより事故撲滅に努めます。

第二は法・規制への対応です。医療関連法改正への対応として、昨年度は、液体酸素、液体窒素の添付文書の届出を協会が代表して行いましたが、本年度は法の趣旨に則り局方酸素等の添付文書の一括届出およびその情報管理を行います。また、715通知の見直しによる改訂版の発出と周知徹底を行います。

第三は災害時協定の充実強化です。災害時における医療ガス等の供給に関する協定については、昨年度までに全都道府県との締結をいたしました。各地域の皆様方には大変なご尽力をいただき、ありがとうございました。

第四はMGRの公的地位の向上です。MGR認定者は昨年末の試験を終えて、現在延べ3,364名となっており、本年度も更新時講習の実施等によりMGRの資質の向上を図るほか、MGRの公的地位の向上を図るため、パンフレットの更新、医療誌

への掲載を予定しています。

以上、産業ガス部門、医療ガス部門の課題を申し上げましたが、高圧ガス事故の撲滅、安全・安心の確立と、消費税や電力問題など業界を取り巻く問題に対応する会員各社の「ブレーン」となり、皆様から「必要とされるJIMGA」を目指してまいります。

2. 平成27年度産業ガス部門活動方針

(1) 保安強化、保安啓発活動の促進

保安啓発のセミナーを北海道溶材商業会と共催にて開催します。

技術保安に関する情報提供、技術保安に関するセミナー、説明会等を実施します。

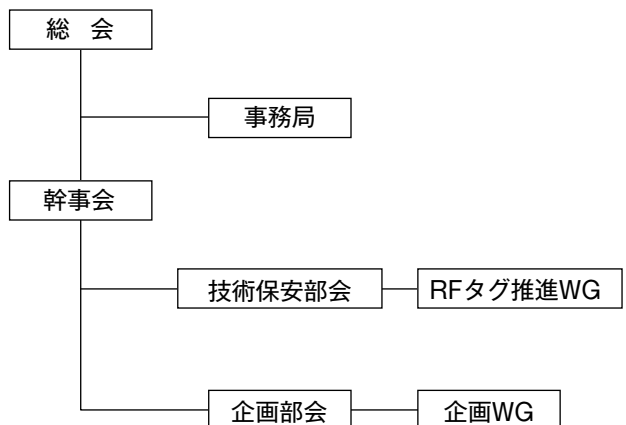
(2) RFタグ普及の推進

最新情報の提供および普及促進の説明会開催、関連アンケート調査の実施等、RFタグ普及活動を推進していきます。

(3) 視察会開催による会員の交流

高圧ガスに関連する施設(設備等)の視察会を開催し会員の交流を図ります。

3. 組織図



松岡幹事懇親会乾杯挨拶



乾幹事懇親会中締め

4. 役員・部会・WG名簿(敬称略・順不同)

役員



本部長

曾我部 康
エア・ウォーター(株)
取締役北海道支社長

幹事	松岡 喜義	大陽日酸北海道(株) 代表取締役社長
幹事	乾 隆	函館酸素(株) 代表取締役社長
幹事	長谷川 直	日本エア・リキード(株) 東日本地域本部 北海道支店長
幹事	吉澤 尚芳	東邦アセチレン(株) 札幌事業所長
幹事	笹原 敦	エア・ウォーター(株) 総務部 事業所管理グループ(札幌) リーダー
会計監事	矢野根 巖	大陽日酸北海道(株) 取締役相談役
事務局長	高橋 宏史	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 エアガス部(札幌) 部長

技術保安部会

部会長	柴田 展良	エア・ウォーター(株) 総務部 事業所管理グループ(札幌) 技術専任部長
委員	石川 隆一	大陽日酸北海道(株) 技術部長
委員	中山 稔	函館酸素(株) 製造技術部 部長
委員	重塚 毅	日本エア・リキード(株) 北海道恵庭工場長
委員	渡辺 幹雄	東邦アセチレン(株) 札幌事業所 技術課 課長
委員	三浦 克仁	高圧ガス工業(株) 札幌営業所長
委員	山本 和彦	北海道アセチレン(株) 取締役工場長
委員	大内 直也	日本液炭(株) 北海道支店長
委員	土田 恭裕	北海道エア・ウォーター(株) 保安技術部 技術グループリーダー
委員	三浦 岳	共同炭酸(株) 工場長
委員	横山 則美	苫小牧共同酸素(株) 工場長

企画WG

委員	柴田 展良	エア・ウォーター(株) 総務部 事業所管理グループ(札幌) 技術専任部長
委員	山中 能生	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 エアガス部(札幌) 課長
委員	石川 隆一	大陽日酸北海道(株) 技術部長
委員	加藤 展弘	函館酸素(株) 取締役 設備工事事務部 部長
委員	吉木 秀行	日本エア・リキード(株) 北海道支店
委員	渡辺 幹雄	東邦アセチレン(株) 札幌事業所 技術課 課長
委員	志田 勝広	北海道エア・ウォーター(株) 医療営業部 設備工事事務部 部長
委員	唐崎 直文	日本液炭(株) 北海道支店 副参事
委員	山本 和彦	北海道アセチレン(株) 工場長
委員	橋本 和夫	高圧ガス工業(株) 札幌営業所 課長代理
委員	安彦 順治	エア・ウォーター炭酸(株) 札幌支店長代理
委員	横山 則美	苫小牧共同酸素(株) 工場長
委員	三浦 岳	共同炭酸(株) 工場長
委員	高橋 宏史	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 エアガス部(札幌) 部長

注) 平成27年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

東北地域本部

1. 合同定時総会

(JIMGA東北地域本部産業ガス部門および医療ガス部門)

日時：平成27年5月21日(木) 15:45～16:40

(医療ガス部門との合同総会)

会場：ホテルメトロポリタン盛岡

ニューウイング(岩手県)

議 題

第1号議案 平成26年度事業報告および収支決算の承認を求める件

第2号議案 平成27年度事業計画および収支予算(案)の承認を求める件

第3号議案 役員の一部選退任の承認を求める件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

来 賓

関東東北産業保安監督部東北支部

奈良 英明 殿

岩手県総務部総合防災室

佐々木 哲 殿

本部出席者

副会長 岩本 満

常務理事 篠塚 賢藏

常務執行役員 徳富栄一郎

坂本本部長挨拶(要旨)

今月は企業の3月期決算の発表が出ております。新聞によりますと、全国の上場企業では、7年ぶりに最高益を更新した企業が多かったようですし、東北地方の上場企業32社が黒字だったようです。また、当業界との取り引きが多い製造業では、活況を示すような黒字になっています。と

ころがガス業界では、活況度を示すガス出荷量が伸びていません。例えば弊社の例で申し上げますと、東日本大震災のあった平成22年度と比べて、平成26年度の酸素と窒素の出荷量は、10%程度下がったまま推移しています。また同様に、医療用酸素ガスの出荷量も伸びてはいません。東北地方では、まだまだ活況が感じられない状況が続いていると思います。

昨年度は消費税増税転嫁に関して、JIMGAおよびガス業界をあげて取り組みました。東北地域本部でも調査会を設置して、消費税転嫁状況を調査してきました。その結果、皆様のご努力によりまして、東北6県では消費税増税転嫁は適正に実施されておりました。

さて、産業ガス部門の活動では、RFタグの普及促進を行っています。全国では188事業所で、約55万本の容器にRFタグが取り付けられています。残念ながら、東北では若干導入が遅れております。これからもRFタグの良さをご説明してまいりますので、導入拡大のために各社様のご助力をお願い申し上げます。

高圧ガス事故では、今年2月、秋田県大館市でアセチレンガスによる重傷事故が発生しました。アセチレンは一度事故が発生しますと大きな事故になりやすいガスです。再発防止のため、アセチレンの安全な取り扱いの注意喚起を繰り返し行っ



坂本本部長

ていくことが大切と考えます。

現在は、電力料金のアップでガス業界全体では251億円の負担増になるという厳しい状況ですが、高圧ガスは取り扱いを誤ると危険となることもあります。安全のために一定のコストがかかることは覚悟して、皆様力を合わせて、保安確保に取り組んでまいりましょう。

来賓ご挨拶（要旨）

関東東北産業保安監督部東北支部

奈良 英明 殿

高圧ガスは、溶接、溶断、原料、食品、医療用等、産業分野から生活関連分野まで幅広く使われており、最近では水素自動車のように新たな分野でも利用されるようになりました。今後ますます高圧ガスの活用がはかれるものと思われませんが、これに伴い事業者にとって、事故防止は極めて重大な使命になってきています。

しかしながら高圧ガス事故の発生件数では、平成26年は全国で盗難を除く事故が362件発生しました。平成25年より30件減となっておりますが、依然として高い水準にあります。また、負傷者数では70名となり、平成25年より26名増となりました。この中で、冷凍設備の冷媒ガス漏えいでの事故で17名、埋設容器の塩素ガス漏えい事故で10名が負傷する等、一度に複数の方が負傷する事故事例が出ています。東北管内では、平成26年は30件の事故が発生し、前年より11件増となりました。また、負傷者では6名で3名増となりました。昨年5月には滅菌ガスの漏えい負傷事故、今年2月には秋田県大館市の建設工事現場でアセチレン爆発事故により4名が重軽傷を負いました。この事故では、トラックの荷台にアセチレン容器と酸素容器が積んだままになっており、ほろ付きの荷台の中で何らかの作業を行っている時

に漏えいしたアセチレンに着火して爆発したようです。

このように、高圧ガスはひとたび事故となりますと重篤な人身災害に繋がる恐れがあります。保安監督部としましては、JIMGA東北地域本部の皆様や各事業者の方々と連携をとって、保安対策の推進をはかっていきたいと思っております。

岩手県総務部総合防災室

佐々木 哲 殿

今年には被災後5年目に入ります。岩手県では、本格復興邁進年と位置付け、復興への取り組みを強力に進めてまいります。そして来年、平成28年は「希望郷いわて国体」が開催されます。震災復興から「希望郷いわて」の実現に向けて取り組みを加速してまいりますので、皆様には引き続きご支援を賜りたいと思っております。

さて、高圧ガスは産業分野、医療分野等、国民生活に不可欠なものとなっています。高圧ガスはその性質上、保安確保のために万全な取り扱いが求められます。JIMGA東北地域本部の皆様には、日頃から自主保安体制の確立、消費事業者への保安啓発を実施していただいております。今後も高圧ガスの需要は高まっていくものと想定されますので、当県の保安確立のために、皆様には、一層のご協力をお願いします。



定時総会の模様

懇親会

岩本副会長挨拶（要旨）

東北地域のガス業界の景気状況は厳しいとお話がありました。私も同感で、全国的に見てもガス業界の足元の景気は、同様に厳しいと思っています。中でも電気料金の値上げの問題は重大です。当協会では、電力多消費業界の他の10団体と連携して、電力料金の圧縮に関しては関係省庁に陳情し、意見広告を出す等により強力な働きかけを続けてまいります。

昨年4月から消費税増税が実施されました。当協会は消費税調査会を各地域本部に設置して調査を行ってきました。お陰様でこれまでのところ適正に増税が転嫁されていると思います。今後とも継続して状況を見守っていきたいと思います。

従来からの普遍的な課題でありますコンプライアンス遵守、保安・安全の推進、事故の撲滅には引き続き取り組んでまいります。産業ガス・医療ガスは社会、産業のインフラであり、ライフラインの中でも重要なもののひとつであります。地域の皆様から信頼される業界、信頼されるJIMGAを目指して、努力してまいります。会員皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



岩本副会長

2. 平成27年度活動方針

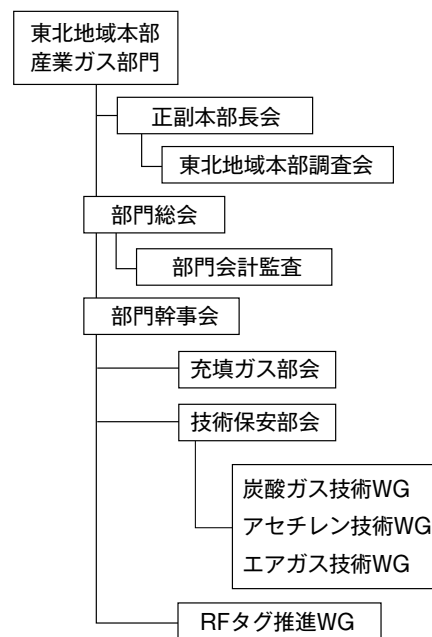
(1) 保安対策の推進

- ・ 高圧ガス保安法および関連法規の周知とその遵守
- ・ 協会自主基準、ガイドライン、指針の普及および保安講習会、保安セミナーの開催
- ・ 長期停滞容器の回収と放置容器の撲滅およびRFタグ容器管理の導入促進

(2) 各部会、技術WG活動の推進

(3) 関係官庁および関係団体との連携強化

3. 組織図



4. 役員・部会・WG名簿(敬称略・順不同)

役員



本部長

坂本 雅博
大陽日酸(株)
常務執行役員 東北支社長



副本部長

大場 正仁
山形酸素(株)
代表取締役社長



副本部長

梶原 克己
エア・ウォーター(株)
執行役員 東北支社長



副本部長

谷代 進
東邦アセチレン(株)
代表取締役専務

幹事	中筋 健介	日本エア・リキード(株)	東北支店長
幹事	加藤 尊康	高圧ガス工業(株)	仙台工場工場長
幹事	伊達 久顕	上毛天然瓦斯工業(株)	仙台営業所長
幹事	佃 淳一	第一開明(株)	代表取締役社長
幹事	相場 栄利	(株)相場商店	代表取締役社長
会計監事	熊谷 孝嘉	岩手工業(株)	代表取締役社長
会計監事	藤田 公	日本液炭(株)	東北支社長

東北地域本部調査会

会長	坂本 雅博	大陽日酸(株)	常務執行役員東北支社長
副会長	大場 正仁	山形酸素(株)	代表取締役社長
委員	谷代 進	東邦アセチレン(株)	代表取締役専務
委員	梶原 克己	エア・ウォーター(株)	執行役員東北支社長
委員	葛西 信二	(株)東酸	代表取締役社長
委員	相場 栄利	(株)相場商店	代表取締役社長
委員	笠井 昭彦	北良(株)	取締役会長
委員	佃 淳一	第一開明(株)	代表取締役社長
委員	窪田 英一	(有)クボタ商会	代表取締役社長
委員	中筋 健介	日本エア・リキード(株)	東北支店長
委員	渡辺 明宏	(株)郡山酸素商会	専務取締役

RFタグ推進WG

推進責任者	坂本 雅博	大陽日酸(株)	常務執行役員東北支社長
推進責任者	大場 正仁	山形酸素(株)	代表取締役社長
推進責任者	谷代 進	東邦アセチレン(株)	代表取締役専務
推進責任者	梶原 克己	エア・ウォーター(株)	執行役員東北支社長

充填ガス部会

部長	葛西 信二	(株)東酸	代表取締役社長
委員	工藤 良一	(株)工藤酸素店	代表取締役社長

委員	相場 栄利	(株)相場商店	代表取締役社長
委員	中島 敏晴	太平熔材(株)	代表取締役社長
委員	佃 淳一	第一開明(株)	代表取締役社長
委員	笠井 昭彦	北良(株)	取締役会長
委員	大場 正仁	山形酸素(株)	代表取締役社長
委員	沼澤 隆二	(株)福島共同ガスセンター	常務取締役工場長
委員	梶原 克己	東北エア・ウォーター(株)	代表取締役社長
委員	伊藤 武彦	カガク興商(株)	代表取締役社長
委員	江良 昌三	荘内ガス(株)	代表取締役社長
委員	小山 博幸	仙台日酸(株)	常務取締役

技術保安部会

部会長	佐々木 丈志	大陽日酸(株)	東北支社 技術部長
委員	玉井 義明	太平熔材(株)	保安管理部長
委員	中村 成伸	北日本アセチレン(株)	工場長
委員	村上 晃也	岩手工業(株)	専務取締役
委員	越後 啓一	(株)東酸	取締役製造部長
委員	長岡 貢司	山形酸素(株)	執行役員事業部長
委員	進藤 昌一	荘内ガス(株)	常務取締役
委員	小山 博幸	仙台日酸(株)	常務取締役
委員	原田 敏兆	日本液炭(株)	技術サービス課長
委員	田中 一視	東邦アセチレン(株)	生産・技術本部技術部 課長
委員	吉田 馨	仙台アセチレン(株)	取締役工場長
委員	佐藤 哲	カガク興商(株)	高圧ガス保安統括
委員	篠原 静夫	東北エア・ウォーター(株)	保安技術部 部長
委員	沼澤 隆二	(株)福島共同ガスセンター	常務取締役工場長

炭酸ガス技術WG

グループ長	原田 敏兆	日本液炭(株)	技術サービス課長
委員	坂本 宏文	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当(東北駐在) 課長代理
委員	寺田 和廣	エア・ウォーター炭酸(株)	品質保証室 課長
委員	伊達 久顕	上毛天然瓦斯工業(株)	仙台営業所長
委員	只野 英仁	昭和電工ガスプロダクツ(株)	東北支店副主事

アセチレンガス技術WG

グループ長	齋藤 祐輝	東邦アセチレン(株)	取締役執行役員環境保安・品質保証部長
委員		北日本アセチレン(株)	
委員		大陽日酸(株)	
委員		岩手工業(株)	
委員		仙台アセチレン(株)	

※委員は検討案件に合わせて、各委員会社より選任する

エアガス技術WG

グループ長	福田 浩	大陽日酸(株)	東北支社 業務部長
委員		東北エア・ウォーター(株)	

委員	東邦アセチレン(株)
委員	(株)仙台サンソセンター
委員	(株)大平洋ガスセンター
委員	秋田液酸工業(株)
委員	日本エア・リキード(株)
委員	(株)いわきサンソセンター
委員	岩谷産業(株)
委員	小池酸素工業(株)
委員	北日本酸素(株)

※委員は検討案件に合わせて、各委員会社より選任する

注) 平成27年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

5. 行事開催報告 (H27.2 ~ H27.7)

(1) 技術保安部会

日時：平成27年2月24日(火) 15:30 ~ 17:00
 会場：東北地域本部事務所
 概要：平成26年度活動報告および平成27年度活動計画

(2) JIMGA-EDI説明会

日時：平成27年4月15日(水) 16:40 ~ 17:20
 会場：仙台ガーデンパレス
 概要：宮城県高圧ガス保安協会会員を対象としたEDIシステムの概要説明会

(3) JIMGA東北地域本部合同幹事会および東北地域本部調査会

日時：平成27年5月11日(月) 12:40 ~ 15:00
 会場：ホテル白萩
 概要：平成27年度合同定時総会議案書(案)の審議および平成26年度消費税増税調査会活動報告および平成27年度活動計画説明

(4) 技術保安部会

日時：平成27年6月11日(木) 15:30 ~ 17:00
 会場：東北地域本部事務所
 概要：平成27年度保安セミナー検討および技術研修会計画検討

(5) 炭酸ガス技術WG会議

日時：平成27年7月1日(水) 15:30 ~ 17:15
 会場：東北地域本部事務所
 概要：本部炭酸ガス技術WG活動概要説明、第17回炭酸ガス取扱い保安講習会開催計画の検討

関東地域本部

1. 定時総会

日時：平成27年5月15日（金）16：00～16：40

会場：ホテル JALシティ田町 東京

議 題

第1号議案 平成26年度事業報告の承認を求め
る件

第2号議案 平成26年度収支報告の承認を求め
る件

第3号議案 平成27年度事業計画（案）の承認
を求める件

第4号議案 平成27年度収支予算（案）の承認
を求める件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認
された。

本部出席者（合同懇親会）

会 長 間 邦司

専務理事 永江 裕

石川本部長挨拶（要旨）

昨年4月、5%から8%に消費税が増税されまし
た。幸いにも産業ガス部門においては消費税転嫁
が大きなトラブルもなく遂行できたと聞いており
ます。

消費増税の影響で一時的に景気は落ち込んだ
ようですが、その後、久々の賃上げ効果もあり、
緩やかに回復してきたとのことです。また円安・
原油安を受けて企業収益も暫くは改善基調が続く
との見込みです。このように世間では景気回復の
傾向が当面続くとみられていますが、医療ガス、
医療機器または産業ガス事業を営む我々には、高
止まりしている電気料金が重くのしかかっており
ます。取り巻く状況は厳しさを増していると言わ

ざるを得ませんが、医療ガス・高圧ガスを扱う者
として安全・保安をないがしろにする訳にはいき
ません。

関東地域本部は、「産業ガス保安セミナー」、「初
級保安講習会」、その他のセミナー、講習会等を
開催し、延べ約220名の方々に参加いただきました。
また、各グループも種々の研修会実施、なら
びに例会の実施と活発な活動を展開し、自主保安
に関する知識習得と会員相互間の技術交流を行
いました。

加えて、当協会の産業ガス部門の活動テーマの
ひとつである「容器管理指針」発行について今年
1月末で1都9県の発行を実現しております。残
る1県につきましても早期発行実現を目指して、
自ら容器管理指針案のパンフレットを作成し、県
に提出して県監修のお墨付きをいただけるよう、
積極的に活動を行っておられます。近い将来に関
東地域本部の1都10県での発行実現への手応えが
見えてきたと思われまます。

また、本年11月には「第17回炭酸ガス保安講
習会」が開催されます。この講習会は3年毎に開
催されますが、今回が17回目となる伝統ある大
きな講習会です。この講習会が成功するよう皆様
のご協力をお願いいたします。



石川本部長挨拶

懇親会

石川本部長挨拶（要旨）

昨年4月に消費税率が8%へ引き上げられました。JIMGA本部の強いリーダーシップにより、いち早く「転嫁カルテル」「表示カルテル」を結ぶことができ、増税分のお客様への転嫁を強力に進めることができ、感謝しております。

関東地域本部としても消費税の適切な転嫁ができたと考えております。また消費税調査会にも問題ありとの報告は挙がりませんでした。ただ平成29年4月には消費税が10%に引き上がる予定です。消費税調査会は引き続き活動を継続していきます。

関東地域本部は、今年度もJIMGA組織の中核としてJIMGAの活動に積極的に参画し、産業・医療ガスの共通課題として、ガスの製造・流通・使用における事故の撲滅を目指し、産業ガス部門では、「自主保安の推進」「容器RFタグの導入促進」、医療ガス部門では、昨年度、全都道府県で締結となった「災害時における協定」の充実、「MGRの地位の向上」などをテーマに、一丸となって活動を展開し、産業・医療ガス業界の地位向上に貢献していきます。

会員の皆様には、引続き絶大なご支援とご鞭撻をお願いし、私のご挨拶といたします。

2. 平成27年度産業ガス部門活動方針

- ①地域における環境・安全・保安・技術等に関して、JIMGA本部と連携し、関東地域本部産業ガス部門構成員および消費者に対する周知徹底と教育・広報・情報の収集等地域に則した活動を行う。
- ②自主保安の一層の充実を図る必要があることからセミナー、講習会を開催し、本部一体となって事故発生防止に努める。
- ③所属会員相互の向上発展に資するため、会員間の意思疎通に努めるとともに、各グループ間の

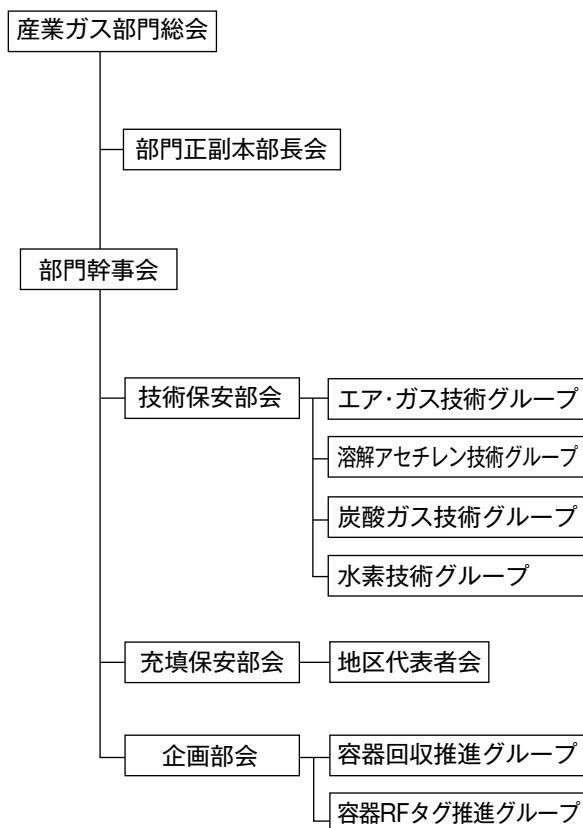
連携を強化し、活動の充実を図る。

- ④容器RFタグの導入推進をJIMGA本部WGと協力し行う。
- ⑤企画部会容器回収推進グループ、地区毎の関連諸団体とも共同して、放置容器・不明容器・長期停滞容器の回収を促進する。また「容器管理指針」の発行を行政に働きかける。



総会風景

3. 組織図



4. 役員・部会・WG名簿(敬称略・順不同)

役員



本部長
石川 博司
日本エア・リキード(株)
東日本地域本部長



副本部長
飯島 俊雄
昭和電工(株)
基礎化学品事業部 管理グループ
企画・業務チームリーダー



副本部長
佐波 充
相模アセチレン(株)
代表取締役



副本部長
梅川 明彦
大陽日酸(株)
上席常務執行役員
関東支社長

- | | | |
|------|-------|-------------------------|
| 幹事 | 西田 猛志 | エア・ウォーター(株) 関東支社長代理 |
| 幹事 | 黒木 幹也 | 高圧ガス工業(株) 常務取締役 東京事務所長 |
| 幹事 | 加來 裕幸 | 日本液炭(株) 執行役員 関東支社長 |
| 幹事 | 川崎 兼二 | 岩谷瓦斯(株) 理事 関東事業所長 |
| 幹事 | 遠藤 芳朗 | (株)鈴木商館 取締役営業本部副本部長 |
| 代表監事 | 鈴木 徹也 | 昭和電工ガスプロダクツ(株) 本部長付担当部長 |
| 監事 | 小池 康洋 | 小池酸素工業(株) 取締役 東京支店長 |

技術保安部会

- | | | |
|------|-------|--------------------------------------|
| 部会長 | 飯島 俊雄 | 昭和電工(株) 基礎化学品事業部 管理グループ 企画・業務チームリーダー |
| 副本会長 | 時田豊志和 | エア・ウォーター・ハイドロ(株) 技術部長 |

エア・ガス技術グループ

- | | | |
|--------|-------|--|
| グループ長 | 大西 孝好 | 関東エア・ウォーター(株) 管理部長 |
| 副グループ長 | 新田 義浩 | 大陽日酸(株) 関東支社 技術部長 |
| 委員 | 細川 純一 | 大陽日酸東関東(株) ガスビジネス統括本部 製造技術担当部長 |
| 委員 | 進藤 忠則 | 東京ガスケミカル(株) メンテナンス・サービス部長 |
| 委員 | 長谷川正泰 | 小池酸素工業(株) ガス部 生産・技術グループ課長 |
| 委員 | 石坂 英一 | カンサン株式会社 高崎事業所 エアガス・リニューアル工場長 |
| 委員 | 國分 聡 | 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当(首都圏駐在) |
| 委員 | 関 啓助 | 北国酸素(株) 代表取締役 |
| 委員 | 福永 直樹 | 日本エア・リキード(株) カスタマー・エンジニアリング部 関東グループ長 |
| 委員 | 堀内 武浩 | 昭和電工(株) 基礎化学品事業部 管理グループ 企画・業務チームマネージャー |

エア・ガス技術グループ(生産会社)

- | | | |
|----|-------|------------------------|
| 委員 | 坂田 博 | エア・ケミカルズ(株) 常務取締役プラント長 |
| 委員 | 杉山 光 | 川崎オキシトン(株) 代表取締役社長 |
| 委員 | 茂浦 悦男 | (株)JFEサンソセンター 取締役工場長 |
| 委員 | 鈴木 常夫 | 新相模酸素(株) 代表取締役社長 |
| 委員 | 大西 悦雄 | 新洋酸素株式会社 代表取締役社長 |
| 委員 | 田中 義隆 | (株)千葉サンソセンター 代表取締役 常務 |

委員	中山 哲也	(株)ティーエムエアー	代表取締役社長
委員	福山 幸男	東京液化酸素(株)	代表取締役社長
委員	岡崎 志朗	東京酸素窒素(株)	代表取締役社長
委員	野口 行敏	長野液酸工業(株)	代表取締役社長
委員	八木沢正博	(株)浜松エア・サプライ	取締役社長

溶解アセチレン技術グループ

グループ長	野本 勝郎	高圧ガス工業(株)	神奈川工場長
副グループ長	堂元 美樹	小池酸素工業(株)	千葉工場長
委員	内田 達也	エア・リキード工業ガス(株)	東日本支社 東京営業所長
委員	若林 満	横浜ケミカル(株)	取締役 製造部長
委員	橋本 孝二	(株)鈴木商館	営業統括室 安全環境チーム 部長
委員	松下 勝美	関東アセチレン工業(株)	常務取締役
委員	河原 大宙	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長 (関東駐在)
委員	澤田 秀則	神奈川合同アセチレン(株)	常務取締役工場長
委員	出村 憲二	川口総合ガスセンター(株)	代表取締役社長
委員	吉田 智徳	相模アセチレン(株)	工場長
委員	柳田 勝吉	大陽日酸(株)	北関東支社 技術部 担当課長
委員	柳川 宗昭	田邊工業(株)	ガス製造部 係長
委員	今井 克彦	東海産業(株)	環境保安室 室長
委員	田中 祐次	東京高圧山崎(株)	取締役 技術・製造本部長
委員	川人 政男	東日本高圧(株)	千葉工場 工場長
委員	手塚 悦男	栃木共同アセチレン株式会社	代表取締役社長

水素技術グループ

グループ長	廣澤 徳幸	岩谷瓦斯(株)	千葉工場 工場長
副グループ長	堀内 武浩	昭和電工(株)	基礎化学品事業部 管理グループ 企画・業務チームマネージャー
委員	國分 聡	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 (首都圏駐在)
委員	荒谷 幸治	関東エア・ウォーター(株)	産業事業部長 兼 物流グループリーダー
委員	時田豊志和	エア・ウォーター・ハイドロ(株)	技術部長
委員	大山 裕之	(株)鈴木商館	営業統括室 生産部 部長
委員	新田 義浩	大陽日酸(株)	関東支社 技術部長
委員	野本 弘樹	新潟水素(株)	直江津工場 工場長
委員	澤田 庸介	丸由工材(株)	代表取締役社長
委員	安久井 満	(株)渡商会	保安管理部 部長

炭酸ガス技術グループ

グループ長	佐藤久仁夫	昭和電工ガスプロダクツ(株)	南関東支店 リーダー
副グループ長	神谷 利男	日本液炭(株)	関東支社 技術サービス課長
委員	庄司 昭史	高圧ガス工業(株)	東京事業所 ガス事業本部 次長
委員	坂本 三夫	上毛天然瓦斯工業(株)	技術部 課長
委員	堂本 健	エア・ウォーター炭酸(株)	技術部 生産・技術グループ 担当部長
委員	河原 大宙	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長 (関東駐在)
委員	会田 広司	東京ガスケミカル(株)	エンジニアリング・サービス部 エンジニアリンググループ

充填保安部会

部会長	佐波 充	相模アセチレン(株) 代表取締役
副部会長	鴨川 俊次	東邦酸素工業(株) 取締役社長
副部会長	松谷 厚雄	関東酸素工業(株) 専務取締役
副部会長	遠藤 芳朗	(株) 鈴木商館 取締役 営業本部副本部長
副部会長	柳川 隆則	(株) 宝山産業 代表取締役社長
委員	北條 一夫	フジオックス(株) 常務取締役 営業本部長
委員	志田 和善	日東物産(株) 取締役部長
委員	本島 章夫	東海産業(株) 代表取締役社長
委員	中原 俊宏	太陽日酸東関東(株) 土浦営業所 所長
委員	近藤 栄司	エア・リキード工業ガス(株) 東日本支社長
委員	出村 憲二	川口総合ガスセンター(株) 代表取締役社長
委員	今井 智仁	東海溶材(株) ガス管理部 次長
委員	石橋 勇	静岡酸素(株) 取締役 製造部長
委員	菊池 公彦	東横化学(株) 事業所長
委員	大塚 弘次	武蔵野ガスセンター(株) 代表取締役社長
委員	川尻 光治	北関東日酸(株) 常務取締役
委員	永井 道生	(株) TOKAI 高圧栃木支店 支店長
委員	澤井 淳巳	東洋高圧ガス(株) 部長
委員	梅津 明仁	北関東東洋(株) 取締役 製造部長
委員	西田 猛志	関東エア・ウォーター(株) 取締役 産業事業部長
委員	神野 耕一	東京高圧山崎(株) 取締役 ガス本部長
委員	宮原 英嘉	宮原酸素(株) 業務部長
委員	徳永 哲一	城南共同酸素(株) 常務取締役
委員	松川 裕	富士酸素工業(株) 取締役ガス溶材部長
委員	笹島 一恭	千葉小池(株) 代表取締役
委員	田谷 豊生	小野里酸素(株) 代表取締役社長
委員	阪田 亮	千葉エヌディーガスセンター(株) 常務取締役工場長
委員	茂垣 行雄	(株) 星医療酸器 常務取締役 営業本部長
委員	瓦井 貞光	光酸素(株) 代表取締役会長
委員	村橋 正之	伊藤忠工業ガス(株) 神奈川支店長
委員	市村 博	市村酸素(株) 代表取締役
委員	四元 章	(株) 市川総合ガスセンター 取締役工場長
委員	金子 茂男	小松川酸素(株) 代表取締役社長
委員	堀口 靖之	カンサン(株) 代表取締役社長
委員	橋 隆之	(株) カネコ商会 代表取締役社長
委員	白根 政明	(株) サイサン 取締役 産業ガス部
委員	福地 俊弘	埼京日酸(株) 取締役工場長
委員	島田 隆昭	(株) シマキュウ 代表取締役社長
委員	長谷川道明	東邦新潟(株) 代表取締役
委員	田邊 英	田邊工業(株) 代表取締役社長
委員	吉田 昌平	ヨシダ高圧(株) 代表取締役社長
委員	田村 行正	城東日酸(株) 取締役工場長
委員	羽場 義人	岡谷酸素(株) 常務取締役 営業本部長
委員	村野 行重	横浜ケミカル(株) 営業部長

地区代表者会

委員長	佐波 充	相模アセチレン(株)	代表取締役
副委員長	徳永 哲一	城南共同酸素(株)	常務取締役
副委員長	川尻 光治	北関東日酸(株)	常務取締役
副委員長	柳川 隆則	(株) 宝山産業	代表取締役社長
正委員	田村 行正	城東日酸(株)	取締役工場長
正委員	市村 博	市村酸素(株)	代表取締役
正委員	遠藤 芳朗	(株) 鈴木商館	取締役 営業本部副本部長
正委員	澤井 淳巳	東洋高圧ガス(株)	部長
正委員	北條 一夫	フジオックス(株)	常務取締役営業本部長
正委員	葛上 真一	カンサン(株)	高崎事業所 取締役インダストリ営業部長
正委員	今井 智仁	東海溶材(株)	ガス管理部 次長
正委員	松川 裕	富士酸素工業(株)	取締役ガス溶材部長
正委員	志田 和善	日東物産(株)	取締役部長
正委員	羽場 義人	岡谷酸素(株)	常務取締役 営業本部長
正委員	橘 隆之	(株) カネコ商会	代表取締役社長
副委員	金子 茂男	小松川酸素(株)	代表取締役社長
副委員	鴨川 俊次	東邦酸素工業(株)	取締役社長
副委員	宮原 英嘉	宮原酸素(株)	業務部長

企画部会

部長	梅川 明彦	大陽日酸(株)	上席常務執行役員 関東支社長
副部長	飯塚 裕幸	大陽日酸(株)	関東支社 ガス営業部長

容器回収推進グループ

グループ長	葛上 真一	カンサン(株)	高崎事業所 取締役インダストリ営業部長
副グループ長	保々 賢次	小池酸素工業(株)	城北支店長
委員	井上 保	(株) 渡商会	営業部 主任
委員	澤井 淳巳	東洋高圧ガス(株)	部長
委員	大山 裕之	(株) 鈴木商館	生産部 部長
委員	宮内 裕二	日本液炭(株)	関東支社 営業部 業務・物流課長
委員	黒木 幹也	高圧ガス工業(株)	常務取締役 東京事務所長
委員	秋本 隆司	上毛天然瓦斯工業(株)	顧問
委員	柳川 隆則	(株) 宝山産業	代表取締役社長
委員	大西 孝好	関東エア・ウォーター(株)	管理部長
委員	弓削 善紀	日本エア・リキード(株)	東日本地域本部 営業統括部長
委員	近藤 栄司	エア・リキード工業ガス(株)	東日本支社長

容器RFタグ推進グループ

グループ長	神谷 利男	日本液炭(株)	関東支社 技術サービス課長
副グループ長	國分 聡	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当(首都圏駐在)
委員	田村 行正	城東日酸(株)	取締役工場長
委員	原田 耕造	相模アセチレン(株)	常務取締役
委員	藤平 雅章	東京ガスケミカル(株)	シリンダーガス部長
委員	長谷川正泰	小池酸素工業(株)	ガス部 生産・技術グループ課長

委員	森下 克則	小池酸素工業(株)	ガス部 次長
委員	中井 康夫	高圧ガス工業(株)	ガス事業本部 関東地区長代理
委員	徳永 哲一	城南共同酸素(株)	常務取締役
委員	大西 孝好	関東エア・ウォーター(株)	管理部長
委員	出村 憲二	川口総合ガスセンター(株)	代表取締役社長
委員	飯塚 浩幸	大陽日酸(株)	関東支社 ガス営業部長

注) 平成27年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

東海地域本部

1. 定時総会

日時：平成27年5月12日(火) 16:00～17:20

会場：ホテルキャッスルプラザ

議題：

- 第1号議案 平成26年度事業報告の承認を求め
る件
- 第2号議案 平成26年度収支決算の承認を求め
る件
- 第3号議案 平成27年度事業計画の承認を求め
る件
- 第4号議案 平成27年度予算の承認を求め
る件
- 報告事項 平成27年度東海地域本部役員選任
の件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

本部出席者

- 副会長 上羽 尚登
- 常務理事 篠塚 賢藏
- 常務執行役員 仲山 一郎

永野本部長挨拶（要旨）

この1年を振り返りますと、我々を取り巻く国内経済はアベノミクスの金融政策と財政出動等による、超円高という為替水準の是正、更に株高で一部産業にとりましては、景気は顕著に回復しております。しかしながら消費税増税の反動もあり、我々にとって回復の実感は残念ながら少なかつたと思っています。「持続的成長」のために、更なる景気浮揚策の導入が待たれるところであります。

一方、我々高圧ガス業界におきましては、保安

の確保、国際整合化、電力料金の値上げ、更には消費税の適正な転嫁推進等の課題が山積しております。

高圧ガス事故関連に目を向けますと、昨年比10.7%減少の746件であり、消費ならびに製造事業者での件数は減少しているものの、依然として高止まりの傾向にあると思えます。事故原因面から見ますと盗難やヒューマンエラーによる事故がほとんどを占めており、企業による自主保安の啓発、業界団体による保安強化等、高圧ガス最大の業界団体であります私どもに課せられた責務の重さを強く認識しております。

東海地域本部では、JIMGA本部の課題をブレークダウンし、各部会、支部会ならびに委員会活動を通じて、事故防止と法令遵守の周知徹底、供給および消費上の安全対策の推進、保安を確保するための各種講習会の開催、災害時対策の強化、不明容器・放置容器をなくすための容器管理体制の強化を課題として取り組み、事故撲滅に努めてまいりました。

次年度も昨年度同様のテーマについて継続的に取り組む所存です。



永野本部長挨拶



総会の模様

来賓ご挨拶（要旨）

中部近畿産業保安監督部 保安課長

加藤 久喜 殿

アベノミクス効果により経済状況も改善の方向に向かっているところであり、企業業績の改善や設備投資の拡大が見られ、今後は所得の増加や更なる消費の増加に繋がることが期待されております。また、高齢化が一層進む中で、医療技術も進歩してきております。このように経済活動の活発化や医療の高度化が進み、産業ガス・医療ガスは、産業活動や国民生活において必要不可欠となっており、安定供給と保安の確保はますます重要になってきております。

昨年は、高圧ガス施設ではありませんが、管内の石油コンビナートの特定事業所におきまして、多数の死傷者を伴う重大事故が2件発生しました。産業施設における事故の発生は、当該施設の労働者や周辺住民へ多大な影響を与えるものであり、その発生の防止を徹底することは、事業者の最も基本的かつ重要な責務と思われまます。

最近の重大事故は、いずれも「非定常作業」で発生しております。また事故原因や背景について分析しますと次の3点について共通点が見られます。
①リスクアセスメントの内容・程度が不十分、②

人材育成、技術伝承が不十分、③情報共有・伝達の不足や安全への取り組みの形骸化です。

過去の受傷事故事案や異常反応の発生事案の再発防止策が部署間を超えて十分広がっていなかったことや、人材や設備等の資源配分が適切ではなかったことなどから、結果として安全への取り組みが形骸化し、現場保安力が低下していたことが挙げられます。こうした内容につきましましては、高圧ガス施設の保安についても言えることであります。これらに対する適切な取り組みについて、今一度、お願いする次第であります。

平成26年の高圧ガス事故統計を見ますと、全国で746件の事故が発生し、そのうち盗難を除く災害は362件で、平成25年と比べて1割減少しましたが、製造所の事故件数は依然として多く、災害全体の約7割を占めています。

中部監督部管内（東海北陸5県）の高圧ガス事故件数は125件で、盗難を除く災害が65件発生し、現象別では噴出・漏えいが8割以上を占めています。残念ながら、全国の災害事故件数は、3年連続で減少しておりますが、中部管内では、最近の5年間を見ても、右肩上がりに増加している傾向にあります。また、死亡者は出ておりませんが、高圧ガスに起因する負傷者についても、3名となっております。これらの事故原因につきましては、劣化、腐食等の設備の維持・管理不良や認知確認ミス等の運転・工事に係るミスといったヒューマンエラーが目立っているところです。

このような、高圧ガスの災害・事故に対応するため、貴協会におかれましては、災害時マニュアルの見直しや自治体が主催する「総合防災訓練」への参加、保安講習会の開催などの様々な取り組みをされており、深く敬意を表する次第であります。今後とも、積極的な取り組みを期待いたします。

愛知県防災局 消防保安課 産業保安室長

村上 倫正 殿

昨年は燃料電池自動車の一般販売が開始され「水素社会」の実現に向けて大きな一歩を踏み出しました。一方で、燃料電池自動車の導入に当たってはインフラとして水素スタンドの整備が必要であり、両者は「ニワトリとタマゴ」の関係にあると言われていました。

昨年度愛知県内では、5事業所の水素スタンドが整備されましたが、今後、国の政策として整備にますます拍車がかかってゆくことが予想されます。私たち高圧ガスに係わるものとしては保安の確保に一層気持を引き締めなければなりません。

ところで皆様方も御存じのとおり、水素スタンドを運営するためには一定の資格と経験を持った者に保安について監督させる必要があります。ここで必要な資格が高圧ガス製造保安責任者免状です。今後、水素スタンドの整備が進むと、そこで必要となる有資格者の確保が問題となります。「タマゴ」を産む「ニワトリ」を手に入れるにはそれらを管理する「ヒト」が必要なわけです。

この問題については、平成25年6月に閣議決定された「規制改革実施計画」においても取り上げられており、国においても水素スタンドの整備を押し進めるに当たって重要事項として認識されています。

「ニワトリが先か？タマゴが先か？」の答えは、「ヒトが先」だったわけです。これは、水素スタンドに限らず高圧ガスの製造や販売事業を行う皆様方にも無縁ではありません。保安に必要な人材を計画的に育成し、必要な有資格者をしっかりと確保することは、今後ますます重要な課題となっております。皆様方におかれましては、必要な人材育成についてこの機会にしっかりと計画を立てて取り組んでいただきたいと思います。

ところで愛知県では、交通事故死亡者数が全国

ワースト・ワンという不名誉な状況が続いています。皆様方におかれましては高圧ガスの保安についてはもちろんのこと、交通安全についてもこれまで以上に心がけていただきますようお願いいたします。

愛知県健康福祉部 健康担当局 医薬安全課長

高橋 裕 殿

この東海地域におきましては、将来的に南海トラフ巨大地震の発生が懸念されているところでございますが、災害時におきましては、迅速に医療救護活動を行うことができるよう、医薬品や医療機器等を安定的に確保、供給する仕組みが必要不可欠であります。

こうした中で皆様方とは、災害時における医療用ガスの安定供給を確保するため、平成11年6月から「災害用医薬品等の供給に関する協定書」を締結させていただき、災害時の医療体制の確保にあたり多大なご尽力を賜っているところでございます。本県におきましては、医薬品の適正な販売・製造等に関する指導をはじめ、医薬品の適正使用および安全性を確保するための医薬分業の推進など、県民生活の安心・安全の確保に万全を期してまいり所存であります。今後とも、引き続きお力添えいただきますようお願い申し上げます。

なお、毎年ご参加いただいております、県の総合防災訓練でございますが、今年度は8月30日(日)に豊橋市で開催されることが決定しております。災害時に医療ガスをはじめとする医薬品等を円滑に搬送できるよう、搬送訓練等を実施したいと考えておりますので、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

また、今年の2月には、医薬安全課独自で「災害時医薬品等供給情報伝達訓練」を実施いたしました。日本産業・医療ガス協会様にもご参加いただきありがとうございました。今年度も内容をさらに充実させた訓練を実施したいと考えておりま

すので、ご協力のほど重ねてお願いいたします。

高圧ガス保安協会 中部支部 事務局長

中島 弘志 殿

ご承知のとおり、東海地域は我が国を代表し、あるいは牽引するものづくり産業の集積地であります。ものづくりにおける安定した生産活動や事業活動のためには資源・エネルギーの安定供給が不可欠です。また、産業活動における一番の効率化は無事故・無災害であり、これらを可能とするリスクマネジメントには、設備面での対策はもとより、継続的な現場力の維持・向上も重要です。そのためには、次世代を支える人材に対してより実践的な教育訓練を実施し底上げを図るとともに、事業所における危険を予知・分析できる高度な知識や技術を持った人材育成を推進していくことが重要かと思えます。私どもKHKとしても、皆様方のご努力に対しまして、いささかでも貢献できるよう今後とも全力を挙げて各種事業に取り組んでまいり所存でございます。ご支援・ご協力の程、よろしく申し上げます。

ところで、今年平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災から20年経過し、平成23年に発生した東日本大震災は3月11日で4年が経過しました。この災害からの復旧・復興の状況は、我々にとっても大きな教訓とすべきであり、南海トラフ巨大地震の発生リスクに対する懸念が高い東海地域においては、防災力・減災力の向上による「災害に強いものづくり中部」を構築することが必要です。

災害の復旧・復興に関係して、BCP(事業継続計画)とは、企業が災害や事故などの緊急事態に遭遇した場合において、被害を最小限に留めつつ、事業活動を継続または再開できるよう、事前にその方法・手段等を取り決めておく計画です。地震発生をゼロにするのは人智を超えて困難ですが、防災・減災のための事前準備は可能です。ゼ

ひBCPの作成などを通じて、自然災害への対応に取り組んでいただければと思います。

さて、高圧ガス分野に関連した話題では、国の成長戦略の一つでもある水素エネルギー時代の到来として、本年はいわゆる「水素元年」と位置づけられています。燃料電池自動車や水素ステーションについては、これまで新たな時代に対応した規制の見直しや基準の国際調和、未整備であった安全基準の新規設置について着実に進められました。こうした国の取り組みにより、普及に向けた大幅なコスト削減等の条件が揃い、昨年末には燃料電池自動車が市場投入されるという段階にきています。

しかしながら、本格的に水素が社会のエネルギーとして広く普及するには、水素を安価で安定的に供給することが求められています。また、一般の人々が、水素の特性やクリーンエネルギーとしてのイメージを理解した上で、安全に取り組んでいくことが肝要かと思えます。このような取り組みを経て、水素の利用にあたっては安全性の確保が前提となることは言うまでもありませんが、昨年末の燃料電池自動車の一般販売がエネルギー利用の変革をもたらす水素社会の幕開け、イノベーションの到来となる「水素元年」となることを願ってやみません。

上羽副会長挨拶(要旨)

平成27年も、半ばを迎えようとしておりますが、安倍内閣発足以来、金融政策あるいは財政出動等による、超円高という為替水準の是正、さらに株高で一部産業にとりましては、景気は顕著に回復しております。

一方で、原発停止による電気料金の値上げ、化石燃料上昇による燃料調整費単価、再生可能エネルギー固定価格買取制度賦課金に加えて、予想を超えた超円安傾向による電力料金再値上により、平成20年4月に比べ、我々業界全体の電気代は平

成27年3月時点で251億円上がっております。電力は当業界の死命を制する重要な問題でありますので、本年度も引続きJIMGAとして、電力多消費10団体と一緒に政府、関係省庁への陳情、意見広告の掲載など強い働きかけを行ってまいります。

更に、昨年4月消費税が8%に引き上げられました。この消費税増税の転嫁をスムーズに行うため、JIMGAとして、転嫁カルテル・表示カルテルの基準を制定し、公正取引員会に届出を行いました。またこれに関連して、全国の地域本部に調査会を設けていただきましたが、おかげ様で公正取引員会に相談するというような事案もなく、消費税の転嫁を実行していただいたものと思います。

今年度JIMGAの課題として、産業ガス、医療ガス両部門共通で、コンプライアンスの遵守と保安・安全の推進、事故の撲滅の2つの課題があります。この不変の課題に加えて、我々の産業・医療ガスが社会・産業のインフラおよびライフラインとして重要な製品であることを社会の皆様方に御理解いただくために「必要とされるJIMGA」を目標に「信頼される組織」、「絶えず発信する組織」に取り組み、JIMGAのプレゼンスの向上を目指してまいります。



上羽副会長挨拶

南部副会長兼医療ガス部門本部長挨拶

本日の定時総会において、平成27年度の東海地域本部の事業計画が採択されました。東海地域本部といたしましては、上羽副会長のご挨拶にもありましたJIMGA本部の課題をブレイクダウンし、JIMGA本部との連携により、着実にこの事業計画に取り組んでまいりますので、皆様のご理解ならびにご協力を宜しくお願いいたします。

平成26年度の高圧ガス事故は前年比で減少いたしました。今なお高止まりであることに変わりはありません。医療ガスの関しては、特に26年度は在宅酸素の火災事故が急増し、今年1月に間会長名の「在宅酸素療法に火気取扱い<注意徹底のお願い>」を全会員の皆様に送付いたしました。これらの事故を減少・撲滅させるためには、地道ではありますが繰り返しの教育が必要であり、協会といたしましては講習会を開催し、高圧ガスを取り扱い消費される方々に技術向上および注意喚起を促していく必要があると考えています。

本年度も、産業ガス部門では、11月に「炭酸ガス保安講習会」と12月に「東海・北陸セミナー」の開催を計画しております。また医療ガス部門では、11月に「静岡県医療ガス保安講習会」を計画しております。これら講習会の開催にあたって、会員の皆様のご協力をいただき、また講習会には奮ってご参加をお願いいたします。

また、東海地域本部は、災害時への対応を十分に行っておく必要があり、議案書にもありましたように「東海地域本部災害時マニュアル」の制定・見直し、備蓄品の対応、災害時連絡体制の構築を実施してきました。今後も、災害時対策委員会を中心にして、この地域の災害時対策を検討してまいりますので、ご理解・ご協力を宜しくお願いいたします。

本日採択されました本年度の事業計画は、高圧ガスの業界が抱える課題が盛り込まれています。これら課題を解決し実行するためには、会員の皆様のご理解ならびにご協力を欠かすことができませんので宜しくお願いいたします。

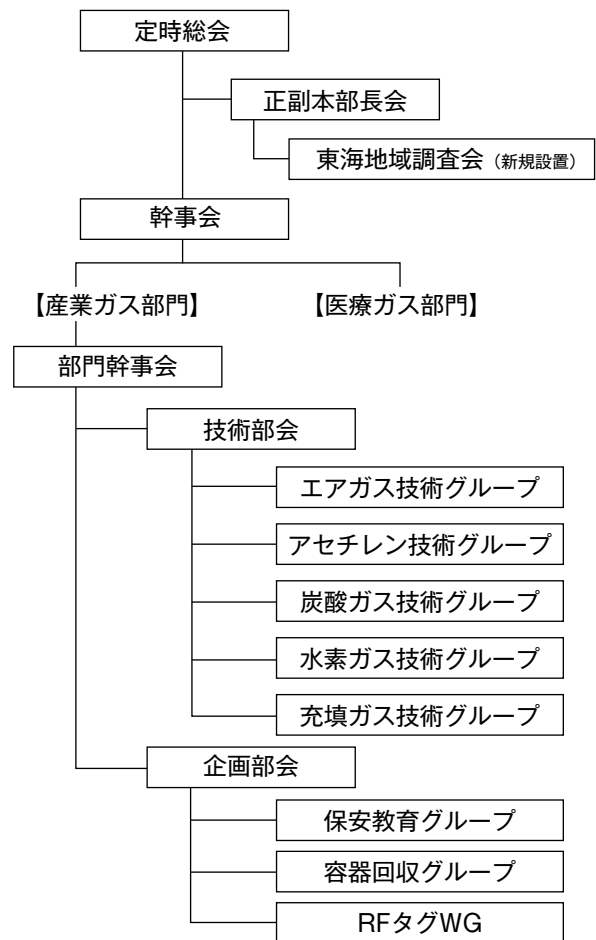


南部副会長兼医療ガス部門本部長挨拶

2. 平成27年度活動方針

- (1) 事故防止と法令遵守の周知徹底
- (2) 供給および消費上の安全対策の推進
- (3) 保安講習会等の開催
- (4) 災害時対策の強化
- (5) 容器管理体制の強化
- (6) JIMGA本部との連携
- (7) その他東海地域本部の目的達成のための事業

3. 組織図



4. 役員・部会・WG名簿(敬称略・順不同)

役員



本部長

永野 英美
東亜テクノガス(株)
代表取締役社長



副本部長

河西 伸和
大陽日酸ガス&
ウェルディング(株)
執行役員 営業本部 副本部長



副本部長

吉田 浩之
日本液炭(株)
執行役員 中部支社長



副本部長

飯田 哲郎
名古屋酸素(株)
取締役社長

幹事 藤田 弘 日本エア・リキード(株) 中部地域本部長
幹事 森本 孝 高圧ガス工業(株) 取締役 東海地区長
幹事 二階堂貴朗 昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店 支店長
幹事 松村伸一郎 岩谷瓦斯(株) ガス事業部 中部事業所長
代表会計監事 上村 浩 エア・ウォーター(株) 中部支社長
会計監事 石田 恒美 豊田ガスセンター(株) 常務取締役 工場長

エアガス技術グループ

グループ長 山本 裕 岩谷産業(株) 常務執行役員 中部支社長
委員 三津田 真 中部エア・ウォーター(株) 管理部長
委員 柄沢 直樹 大陽日酸(株) 中部支社 技術部長
委員 寿美田克彦 東亜テクノガス(株) 取締役 業務本部長
委員 藤田 弘 日本エア・リキード(株) 中部地域本部長

アセチレン技術グループ

グループ長 河西 伸和 大陽日酸ガス & ウェルディング(株) 執行役員 営業本部 副本部長
委員 土井不可止 イビデンケミカル(株) 大府ガス営業部 課長
委員 仙波 寛 高圧ガス工業(株) 名古屋工場 工場長
委員 鋤柄 喜彦 大日本アガ(株) 代表取締役
委員 荻上 仁 大陽日酸(株) 中部支社 技術部 技術一課長
委員 成瀬 宜 竹中高圧工業(株) 営業部 部長
委員 橋本 行雄 東海アセチレン(株) 浜松工場 取締役工場長

炭酸ガス技術グループ

グループ長 板橋 享 日本液炭(株) 名古屋ガスセンター センター長
委員 小田島秀樹 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当部長(中部駐在)
委員 菊池 幹夫 エア・ウォーター炭酸(株) 大阪支店 名古屋営業所長
委員 笹 友徳 昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店 主事
委員 松葉 昇 大洋化学工業(株) 工場長
委員 五十子 智 知多炭酸(株) 本社工場 品質管理課長
委員 山田 修三 東亜テクノガス(株) 取締役 技術統括部長

水素ガス技術グループ

グループ長	松村伸一郎	岩谷瓦斯(株)	ガス事業部 中部事業所長
委員	小田島秀樹	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長(中部駐在)
委員	三好 拓	中部エア・ウォーター(株)	北陸支店業務グループ グループ長
委員	笹 友徳	昭和電工ガスプロダクツ(株)	中部支店 主事
委員	澤田 正樹	大陽日酸(株)	中部支社 技術部 技術二課長
委員	山田 修三	東亜テクノガス(株)	取締役 技術統括部長
委員	菅野 裕	日本エア・リキード(株)	中部地域本部 営業統括部 担当部長
委員	金田 龍弘	北酸高圧瓦斯(株)	代表取締役社長

充填ガス技術グループ

グループ長(正)	高垣 満正	ケミカルジャパン(株)	代表取締役
グループ長(副)	伊藤 博文	名古屋日酸(株)	工場長
委員	新町 健児	共同高圧ガス工業(株)	執行役員工場長
委員	斎藤 輝久	名古屋ガスセンター(株)	本社 業務グループ長
委員	一瀬 孝行	岩谷瓦斯(株)	ガス事業部 東海事業所 岡崎工場長
委員	湯浅 喜和	イワタニ三重ガスセンター(株)	工場長
委員	森本 孝	春日井ガスセンター(株)	代表取締役
委員	松島 智彦	ガステックサービス(株)	西三河事業所 事業所長
委員	足立 裕幸	岐阜エア・ウォーター(株)	工場長(兼) 営業部長
委員	内田 久雄	協栄高圧ガス(株)	取締役事業部長
委員	黒瀬 浩二	小池酸素工業(株)	名古屋支店長
委員	日比富士雄	(株)ジーシー東海	取締役工場長
委員	坂下 公朗	杉浦高圧(株)	取締役
委員	服部 裕次	大日本アガ(株)	大府事業所 取締役 製造物流部長
委員	高橋 憲一	竹中高圧工業(株)	常務取締役
委員	盛林 峰一	知多高圧ガス(株)	技術部 兼 品質管理担当 主任
委員	三津井 篤	中京産商(株)	常務取締役 営業統括部長
委員	中根 信敏	中部エア・ウォーター(株)	名古屋充填工場 工場長
委員	渡邊 雅樹	東海ガスユナイテッド(株)	工場長
委員	石田 恒美	豊田ガスセンター(株)	常務取締役 工場長
委員	加藤 伸昭	名古屋酸素(株)	名古屋営業部長
委員	原田 敬生	(株)原田商店	代表取締役

保安教育グループ

グループ長	柄沢 直樹	大陽日酸(株)	中部支社 技術部長
委員	小田島秀樹	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長(中部駐在)
委員	笠井 勇人	中部エア・ウォーター(株)	技術グループ グループ長
委員	新町 健児	共同高圧ガス工業(株)	執行役員工場長
委員	湊 洋治	高圧ガス工業(株)	名古屋工場 工場長代理
委員	笹 友徳	昭和電工ガスプロダクツ(株)	中部支店 主事
委員	坂下 公朗	杉浦高圧(株)	取締役
委員	吉岡 正弘	竹中高圧工業(株)	製造部 課長
委員	藤原 隆	中部液酸(株)	管理部長

委員	藤本 孝弘	東亜テクノガス(株) 取締役 管理部長
委員	服部 宗弘	名古屋酸素(株) 取締役製造部長 兼 小碓工場長
委員	伊藤 博文	名古屋日酸(株) 工場長
委員	三木 秀樹	日本エア・リキード(株) カスタマー・エンジニアリング部 中部グループ長
委員	板橋 享	日本液炭(株) 名古屋ガスセンター センター長

容器回収グループ

グループ長	伝田 仲男	東亜テクノガス(株) 技術統括部 課長代理
委員	浅野 泰義	杉浦高圧(株) 部長
委員	土井不可止	イビデンケミカル(株) 大府ガス営業部 課長
委員	中田 雅敏	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 東海事業部 岡崎工場業務担当 マネージャー
委員	水野 良彦	協栄高圧ガス(株) 業務本部次長
委員	相木 好永	高圧ガス工業(株) 名古屋工場 ガス営業課 次長
委員	笹 友徳	昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店 主事
委員	花井 正賢	大日本アガ(株) 社長付(物流担当)
委員	荻上 仁	大陽日酸(株) 中部支社 技術部 技術一課長
委員	名畑 芳彦	大陽日酸ガス & ウェルディング(株) 名古屋支店長
委員	小野 勝	竹中高圧工業(株) 営業部 次長
委員	浅井 純	知多高圧ガス(株) 業務部 課長代理
委員	小久保光男	中京産商(株) 溶材部 溶材課 課長
委員	中根 信敏	中部エア・ウォーター(株) 名古屋充填工場 工場長
委員	渡邊 雅樹	東海ガスユニテッド(株) 工場長
委員	井上 洋一	豊田ガスセンター(株) 製造部 部長
委員	大貝 信夫	名古屋ガスセンター(株) 十四山工場
委員	服部 宗弘	名古屋酸素(株) 取締役製造部長 兼 小碓工場長
委員	伊藤 博文	名古屋日酸(株) 工場長
委員	伊勢 豊広	エア・リキード工業ガス(株) 名古屋営業所長
委員	日比富士雄	(株)ジーシー東海 取締役工場長
委員	板橋 享	日本液炭(株) 中部支社 名古屋ガスセンター長

RFタグWG

グループ長	永野 英美	東亜テクノガス(株) 代表取締役社長
委員	綿引 秀幸	大陽日酸(株) 中部支社 ガス営業部長
委員	上村 浩	エア・ウォーター(株) 中部支社長
委員	菅野 裕	日本エア・リキード(株) 中部地域本部 営業統括部担当部長
委員	森本 孝	高圧ガス工業(株) 名古屋工場 取締役東海地区長
委員	鋤柄 喜彦	大日本アガ(株) 代表取締役
委員	河西 伸和	大陽日酸ガス & ウェルディング(株) 執行役員 営業本部 副本部長
委員	二階堂貴朗	昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店 支店長
委員	尾田 朝良	日本液炭(株) 中部支社 部長
委員	武智 哲史	岩谷産業(株) 中部支社 名古屋支店長
委員	成瀬 宜	竹中高圧工業(株) 営業部 部長
委員	飯田 哲郎	名古屋酸素(株) 取締役社長
委員	新町 健児	共同高圧ガス工業(株) 執行役員工場長

委員 坂下 公朗 杉浦高圧(株) 取締役
委員 斎藤 輝久 名古屋ガスセンター(株) 本社 業務グループ長
委員(医療) 南部 淳 (株)ナンブ 代表取締役
委員(医療) 西尾 徹 静岡酸素(株) 代表取締役社長
委員(医療) 大島 康之 (株)大島商会 代表取締役
委員(医療) 伊藤 洋司 中京医療(株) 取締役 営業部長
委員(医療) 江場 大二 (株)エバ 代表取締役社長

注) 平成27年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

北陸地域本部

1. 定時総会

日時：平成27年5月13日（水）

会場：ANAクラウンプラザホテル金沢

議 題

第1号議案 平成26年度事業活動報告

第2号議案 平成26年度収支決算報告

第3号議案 平成27年度活動及び予算案の件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

報告事項

医療ガス部門新会員紹介の件

医療ガス部門石川県支部緊急通行車両届メンテナンスの件

消費税増税特措法 特別調査会継続の件

本部出席者

副会長 竹内 弘幸

常務理事 篠塚 賢藏

常務執行役員 仲山 一郎

谷屋本部長挨拶（要旨）

本年3月14日の北陸新幹線開業後、最初の北陸地域本部定時総会を金沢で開催いたします。ご出席の皆様におかれましては、移動手段が便利になられた方も多いと思います。今後は人・モノの交流が盛んになり、経済活動も活力があふれ、成長することでしょう。

さて、JIMGAは昨年7月に間会長が就任されましたが、基本的な活動方針は継続されております。JIMGAでは産業ガス部門および医療ガス部門で、それぞれ4つの課題に取り組んでおります。

産業ガス部門においては、①保安の一層の強化・推進、②RFタグの普及、③環境問題、電力多消費産業として使用エネルギー削減への取り組み、④国際基準との整合化です。

医療ガス部門においては、①事故防止対策、②医療ガスの国際整合化、③MGR制度の拡充と資質の向上、④地域防災協定の運用です。

さて、ガスの安定供給と保安の確保は、業界の一番大切な責任であると思っておりますが、昨年の事故件数は746件と10%の減少となりましたが、容器の喪失や盗難が384件発生しており、重要な問題となっております。

幸い北陸では大きな事故は発生しておりませんが、産業ガス部門として北陸溶材組合との連携により、保安啓発活動と容器管理の徹底、RFタグの推進による商習慣の改善に取り組んでいかなければならないと思っております。

医療ガス部門では、各県との災害時協定に基づく細目についての活動および訓練や、消費者への保安啓発活動が重要な取り組みでございます。

最後になりましたが、産業ガス部門、医療ガス部門とも、平成27年度の活動を更に充実したものにしたいと思っております。



谷屋本部長挨拶



竹内副会長挨拶



篠塚常務理事の医療ガス部門近況報告



総会風景

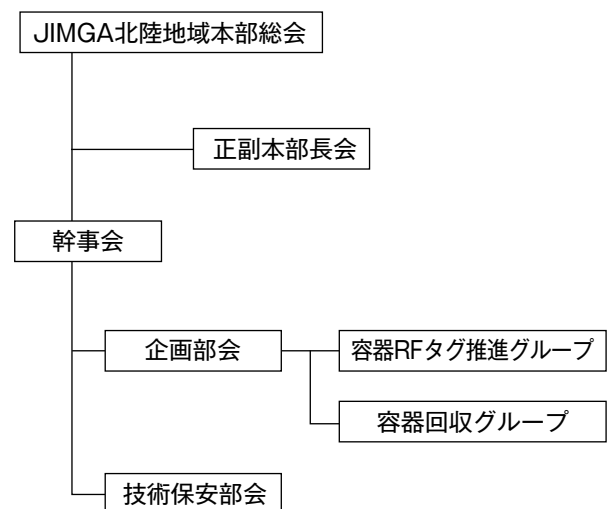


仲山常務執行役員の産業ガス部門近況報告

2. 平成27年度産業ガス部門活動方針

- (1) 保安の推進 高圧ガス消費者保安講習会の開催
- (2) 会員研修会 (バルブ製造工場見学) の実施
- (3) RFタグの取り組み

3. 組織図



4. 役員・部会・WG名簿(敬称略・順不同)

役員



本部長

谷屋 五郎
宇野酸素(株)
代表取締役社長



副本部長

金田 龍弘
北酸高圧瓦斯(株)
代表取締役社長



副本部長

桐田 信也
日星産業(株)
富山支店 支店長

幹事	巢山 貴護	日本エア・リキード(株)	北陸支店長
幹事	丹羽 信嗣	北越アセチレン(株)	代表取締役社長
幹事	田中 浩昭	日本液炭(株)	富山営業所長
幹事	脇野 喜裕	大陽日酸(株)	中部支社 北陸支店長
幹事	木村 光彦	中部エア・ウォーター(株)	取締役北陸支店長 兼 富山営業所 所長
幹事	南部 明彦	宇野酸素(株)	専務取締役
会計監事	脇野 喜裕	大陽日酸(株)	中部支社 北陸支店長
会計監事	櫻井 二郎	サカキ産業(株)	代表取締役社長

企画部会

委員	谷屋 五郎	宇野酸素(株)	代表取締役社長
委員	浅田 昌樹	岩谷産業(株)	北陸支店長
委員	木村 光彦	中部エア・ウォーター(株)	取締役北陸支店長 兼 富山営業所 所長
委員	脇野 喜裕	大陽日酸(株)	中部支社 北陸支店長
委員	中渡瀬久志	岩谷瓦斯(株)	ガス事業部 東海事業所 小松工場長
委員	金田 龍弘	北酸高圧瓦斯(株)	代表取締役社長
委員	田中 浩昭	日本液炭(株)	富山営業所長
委員	馬場 信幸	昭和電工ガスプロダクツ(株)	中部支店 富山営業所長
委員	柳澤 敏幸	直江津アセチレン(株)	取締役工場長
委員	村木 利雄	新潟高圧ガス(株)	取締役工場長
委員	丹羽 宏彰	北越アセチレン(株)	部長
委員	谷屋 五郎	三国液酸(株)	代表取締役社長
委員	川崎 基	北陸エア・ケミカルズ(株)	取締役敦賀事務所長

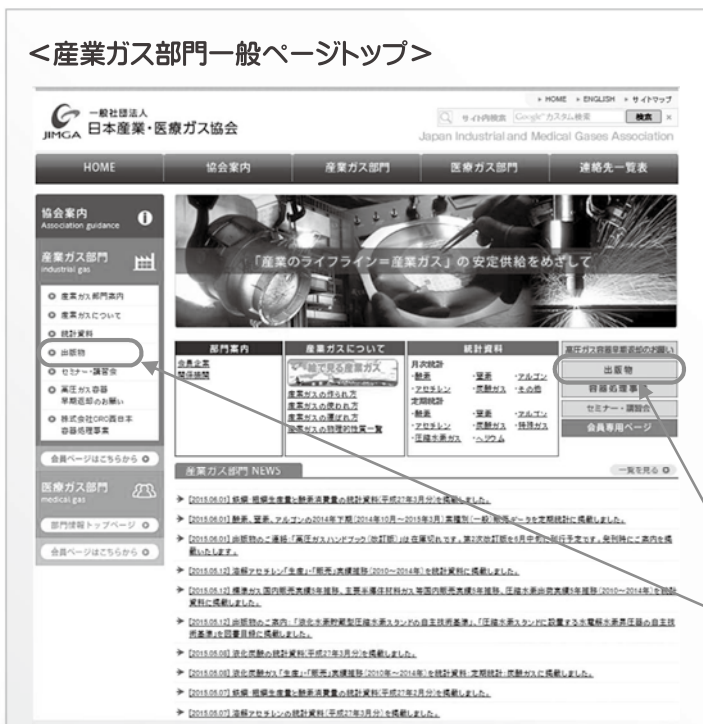
技術・保安部会

委員	谷屋 五郎	宇野酸素(株)	代表取締役社長
委員	浅田 昌樹	岩谷産業(株)	北陸支店長
委員	木村 光彦	中部エア・ウォーター(株)	取締役北陸支店長 兼 富山営業所 所長
委員	深谷 和則	東亜テクノガス(株)	北陸支店 北陸営業部
委員	脇野 喜裕	大陽日酸(株)	中部支社 北陸支店長
委員	酒井 勉	北陸液酸工業(株)	取締役管理部長
委員	中渡瀬久志	岩谷瓦斯(株)	ガス事業部 東海事業所 小松工場長

- 委員 金田 龍弘 北酸高圧瓦斯(株) 代表取締役社長
- 委員 田中 浩昭 日本液炭(株) 富山営業所長
- 委員 馬場 信幸 昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店 富山営業所長
- 委員 山口 淳 上毛天然瓦斯工業(株) 長岡支店長
- 委員 柳澤 敏幸 直江津アセチレン(株) 取締役工場長
- 委員 村木 利雄 新潟高圧ガス(株) 取締役工場長
- 委員 丹羽 宏彰 北越アセチレン(株) 部長
- 委員 谷屋 五郎 三国液酸(株) 代表取締役社長
- 委員 川崎 基 北陸エア・ケミカルズ(株) 取締役敦賀事務所長

注) 平成27年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

JIMGA 出版物のご案内



JIMGA の定期刊行物は、協会ウェブサイトでご覧頂くことができます。

- * 産業ガスレポート
- * JIMGA news
- * 安全ニュース
- * 環境ニュース

入口はこちら

近畿地域本部

1. 定時総会

日時：平成27年5月14日(木)16:15～17:15

会場：メルパルク大阪

議 題

第1号議案 平成26年度事業報告承認の件

第2号議案 平成26年度経常費収支決算報告承認の件

第3号議案 各ガス部門役員変更承認の件

第4号議案 平成27年度事業計画(案)承認の件

第5号議案 平成27年度経常費収支予算(案)承認の件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

報告事項

(1) 会員数

産業ガス部門63社(平成27年3月31日現在)

(2) 表彰関係(平成26年度の受賞者)

経済産業大臣表彰、産業保安監督部近畿支部長表彰、大阪府知事表彰、大阪府商工関係表彰が紹介された。

(3) 今後の主な行事予定

JIMGA(本部)評議委員会および定時総会、ならびに関係他団体の総会日程等が報告された。

本部出席者

副会長 鈴木 慶彦

専務理事 永江 裕

常務執行役員 鈴木 正晴

神崎本部長挨拶(要旨)

近畿の経済状況として、4月中旬に発表された日銀の経済報告では円安効果もあり、スマホ向け

電子部品、デバイス、産業用大型機械などは好調ということもあり景気判断は引き上げられました。また3月期企業の決算発表が相次いでいますが、ほとんどの企業の内容は概ね良好なようです。

我々の業界はというと、ロボットやレーザー加工機などの自動化、省力化に繋がる機械類は好調でしたが、消耗品であるガスの動きは、昨年比で伸びたという感じはなく、横ばいか微増といったもので、まだまだ我々の業界での景気の本格回復は程遠いという感じがしております。特に近畿では4月より企業向けの電力料金がアップしており、この電気料金アップが近畿経済の足を引っ張らないことを祈るばかりです。



神崎本部長総会挨拶

永江専務理事挨拶(要旨)

JIMGAが抱えているテーマ・課題の中でも、特に電力料金の問題につきまして、注力しています。原発停止による電気料金の値上げ、化石燃料上昇による燃料調整費単価、再生エネルギー固定買取賦課金の上昇により、平成20年4月に比べ、我々業界全体の電気代は平成27年3月時点で251億円上がっております。電力は当業界の死命を制する重要な問題で、本年度も引続きJIMAGとして電力多消費10団体と一緒に政府、関係省庁へ

の陳情、意見広告の掲載など強い働きかけを行ってまいります。

本年度も高圧ガス事故の撲滅、安全・安心の確立と業界を取り巻く問題に対応する、会員各社の「ブレン」となり皆様から「必要とされるJIMGA」を目指してまいります。

懇親会

神崎本部長開会挨拶（要旨）

医療ガス部門の古野地域本部長の後任を私が勤めさせていただくことになりました。産業ガス部門と医療ガス部門の両本部長を兼務させていただくこととなります。この1年何卒よろしくお願い申し上げます。さて、高圧ガス関連事故は事故件数の一番多かった3年前から3年連続で減少に転じておりますが、相変わらずの高止まりをしており、人的ミスも目立っております。今後も我々業界団体が自主的取り組みを強化していく必要があると感じております。

そのような中、近畿地域本部におきましては、自主保安の確立・コンプライアンスの徹底・停滞容器の早期回収に向け頑張っている所存です。



神崎本部長（懇親会）

鈴木副会長挨拶（要旨）

今後更なる経済復興のための施策と第三の矢であります成長戦略へ期待していますが、一方では10%への消費税の増税について懸念を持っているところです。会員の皆様方には、それぞれ

の立場で消費税の転嫁につきましてご尽力いただきますようお願いいたします。JIMGAの今年度の課題は、産業ガス部門では「保安の一層の強化、推進」「所有者不明容器・放置容器撲滅のためのRFタグの普及」「環境・安全部会」「国際整合化」、医療ガス部門では「事故の防止」「法・規制への対応」「災害時協定の充実強化」「MGR公的地位の向上」と、それぞれ4つの課題があります。これに加え、高圧ガス事故の撲滅、安全・安心の確立と消費税や電力問題など業界を取り巻く環境にJIMGAとして積極的に取り組んでいき、必要とされるJIMGAを目指してまいりますので、皆様ご協力をお願いします。



鈴木副会長挨拶

来賓代表ご挨拶（要旨）

経済産業省中部近畿産業保安監督部

近畿支部保安課長

武田 至弘 殿

日ごろの高圧ガス保安行政へのご協力について感謝申し上げます。

高圧ガスは、産業分野あるいは生活関連分野において非常に幅広く使われており、保安の確保が非常に重要ではないかと思っております。JIMGA近畿は従前より保安講習会およびセミナーの開催・容器管理としてのRFタグの促進・停滞容器の回収等々の自主保安活動に取り組んでおられ深く感謝しております。

今後共自主保安活動の充実及び公共の安全確

保のため、引き続き高圧ガス保安活動を推進していただくことを深く期待しております。

併せて産業保安監督部近畿支部といたしましても、保安確保に向けて関係法案の制定等々自主保安活動の理想の促進に尽力してまいります。

乾杯ご発声（要旨）

高圧ガス保安協会近畿支部支部長

舟木 隆 殿

常日頃のKHKの事業にご支援いただき感謝申し上げます。

高圧ガスの事故に関しましては、事故件数は3年程減少しておりますが、今後も保安につきまして、常日頃より繊細な注意を払い、適切な自主保安の確保を万全にさせていただいて、景気を明るくすべくご尽力いただければと思います。

2. 平成27年度産業ガス部門活動方針

近畿地域本部の基本理念である3つの理念「自主保安の確立」「コンプライアンスの徹底」「停滞容器の早期回収」、つまり防災とコンプライア



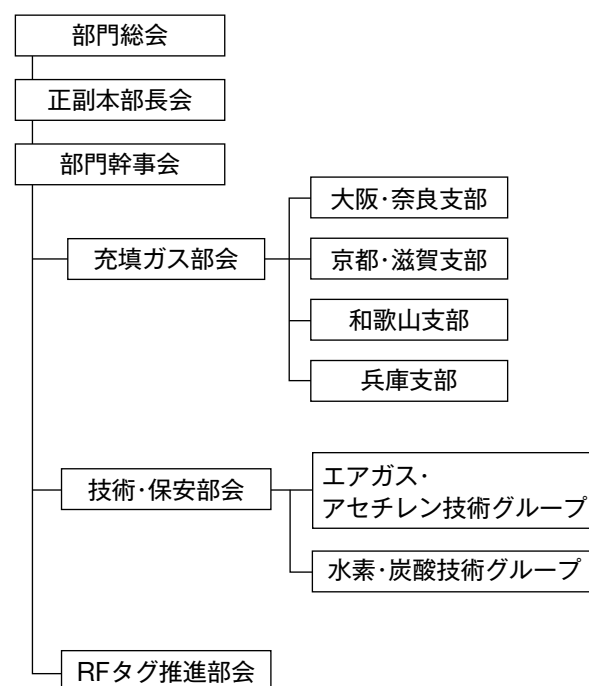
総会風景

スを中心に活動を押し進めてまいります。

高圧ガス事故として前年比がマイナスに振れたことを受け、本年度もこの基調を踏襲すべく尽力いたします。特に防災につきましては、南海トラフ地震の到来が懸念される中、災害時対策運営要綱を活用するとともに、RFタグの運用をより広く押し進め、事故に繋がる放置容器等の減少のための枠作りに尽力したいと考えております。

コンプライアンスにおきましては、今一度活動の原点に戻り、より一層信頼される業界団体としての地位向上のための事業活動を押し進めてまいります。

3. 組織図



4. 役員・部会・WG名簿 (敬称略・順不同)

役員



本部長
神崎 昌久
大陽日酸(株)
執行役員 関西支社長



副本部長
土田 和久
岩谷産業(株)
常務執行役員 近畿支社長



副本部長
青木 孝之
岩谷産業(株)
環境保安部 保安担当
担当部長 (近畿駐在)



副本部長
大岡 久晃
(株)大岡酸素商会
代表取締役会長

- 幹事 田中 豪 エア・ウォーター(株) 近畿支社長
- 幹事 姫尾 和彦 日本エア・リキード(株) 関西地域本部長
- 幹事 林 功 協和ガス(株) 代表取締役社長
- 幹事 川西 伸和 大陽日酸ガス&ウェルディング(株) 執行役員営業本部副本部長
- 幹事 居附 芳実 日本液炭(株) 執行役員関西支社長
- 会計監事 陶国 昇 (株)リキッドガス 常務取締役 ガス営業本部長
- 会計監事 小幡 晃 小池酸素工業(株) 取締役大阪支店長

充填ガス部会

- 部会長 大岡 久晃 (株)大岡酸素商会 代表取締役会長
- 副部会長 難波 太郎 京都帝酸(株) 代表取締役社長

大阪・奈良支部

- 支部長 面谷 正久 (株)ダイオー 常務取締役営業本部長
- 副支部長 横山 亮 (株)関西ガスファースト 工場長
- 委員 永田 裕信 大阪車輛工業(株) 取締役営業部長
- 委員 神崎 昌久 (株)大阪パッケージガスセンター 代表取締役社長
- 委員 榎谷 隆 大丸エナウイン(株) 専務取締役
- 委員 名倉 茂雄 大和熔材(株) 代表取締役社長
- 委員 林 豊 浪速酸素(株) 代表取締役会長
- 委員 宮崎 順平 (株)マスコール 代表取締役会長
- 委員 伏山 英男 (株)伏山酸素商会 代表取締役

京都・滋賀支部

- 支部長 森脇 勝久 森脇産業(株) 代表取締役
- 副支部長 岡田 隆義 舞鶴大同ガス(株) 代表取締役社長
- 委員 中森 信輔 (株)泉産業 代表取締役社長
- 委員 難波 太郎 京都帝酸(株) 代表取締役社長
- 委員 高橋 寛 滋賀カーバイド(株) 代表取締役 社長

和歌山支部

- 支部長 佐藤 秀樹 近畿エア・ウォーター(株) 取締役和歌山支店長
- 副支部長 北山 雅章 和歌山酸素(株) 代表取締役

委員 竹内 光男 新宮酸素(株) 代表取締役社長

兵庫支部

支部長 山下 隼人 (株)水島酸素商会 専務取締役
副支部長 大岡 久晃 (株)大岡酸素商会 代表取締役会長
委員 堀田 秀樹 ネクスト・ワン(株) 代表取締役副社長
委員 神田 保男 近畿酸素(株) 代表取締役社長
委員 高浜 充治 高浜酸素(株) 代表取締役
委員 梅田 信夫 タツミ産業(株) 取締役営業本部長
委員 橋詰 芳裕 (株)ニッコーコーポレーション 代表取締役
委員 井本 光彦 姫路ダイサン(株) 代表取締役社長
委員 藤田 元久 藤田酸素工業(株) 代表取締役社長

技術・保安部会

部長 青木 孝之 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当部長(近畿駐在)
委員 阪田 尚久 日本液炭(株) 関西支社 技術サービス課長

エアガス・アセチレン技術グループ

グループ長 青木 孝之 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当部長(近畿駐在)
副グループ長 椋橋 明次 大陽日酸ガス&ウエルディング(株) 執行役員 技術本部長 兼 保安技術統括部長
委員 中森 信輔 (株)泉産業 代表取締役社長
委員 西田 善貞 イビデンケミカル(株) ガス事業部 高石事業所 取締役工場長
委員 米田 仁福 岩谷瓦斯(株) 環境保安部 シニアマネージャー
委員 浦谷 明弘 エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 保安推進部 専任部長
委員 佐藤 秀樹 近畿エア・ウォーター(株) 取締役和歌山支店長
委員 大岡 久晃 (株)大岡酸素商会 代表取締役会長
委員 石井 長文 協和ガス(株) 大阪工場 製造主任
委員 廣田 淳一 近畿エア・ウォーター(株) 取締役管理部長
委員 西田 和司 小池酸素工業(株) ガス部生産技術グループ課長
委員 西川 隆 高圧ガス工業(株) 堺工場長
委員 八尋 正昭 日本エア・リキード(株) カスタマー・エンジニアリング部 近畿グループ長 兼 テクニカルサポート部長
委員 加納 郁久 大陽日酸(株) 関西支社 技術部長
委員 大岡 裕文 大丸エナウイン(株) 医療・産業ガス事業部 医療ガス課長
委員 輪島 茂光 日東高圧化学工業(株) 溶材部 部長
委員 瀬川 昌三 (株)水島酸素商会 工場長

水素・炭酸技術グループ

グループ長 阪田 尚久 日本液炭(株) 関西支社 技術サービス課長
副グループ長 米田 仁福 岩谷瓦斯(株) 環境保安部 シニアマネージャー
委員 佐藤 研一 尼崎水素販売(株) 所長
委員 浦谷 明弘 エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 保安推進部 専任部長
委員 加納 郁久 大陽日酸(株) 関西支社 技術部長
委員 川中 尚 エア・ウォーター炭酸(株) 大阪支店長
委員 岩見 憲二 近畿炭酸(株) 取締役管理部長
委員 今村 清孝 昭和電工ガスプロダクツ(株) 大阪営業所主事
委員 綱島 誠司 新日鐵化学(株) 水素充填班 班長

委員 青木 孝之 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当部長(近畿駐在)
委員 内田 睦 (株)リキッドガス 営業本部 営業技術部 部長

RFタグ推進部会

部長 土田 和久 岩谷産業(株) 常務執行役員 近畿支社長
委員 青木 孝之 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当部長(近畿駐在)
委員 大岡 久晃 (株)大岡酸素商会 代表取締役会長
委員 廣田 淳一 近畿エア・ウォーター(株) 取締役管理部長
委員 安田 英司 高圧ガス工業(株) 執行役員 ガス事業本部 近畿地区長
委員 加納 郁久 太陽日酸(株) 関西支社 技術部長
委員 姫尾 和彦 日本エア・リキード(株) 関西地域本部長

注) 平成27年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

5. 活動報告

(1) 近畿地域本部主催

会場：大阪会館

内容：表彰他、海外漂着容器の処理等

○水素・炭酸技術グループ会議

日時：平成27年2月2日(月) 16:00～17:00

会場：コンファレンスプラザ大阪御堂筋

内容：本部WG報告、第17回保安講習会他

○幹事会

日時：平成27年4月14日(火) 13:30～14:40

会場：コンファレンス大阪御堂筋

内容：定時総会議案書承認他

○充填ガス部会 兵庫支部会

日時：平成27年2月4日(水) 16:00～16:50

会場：兵庫県中央労働センター

内容：人事異動、表彰他

(2) 他団体行事

○近畿高圧ガス容器管理委員会 理事会

日時：平成27年5月19日(火) 14:00～15:45

会場：大阪会館

出席者：事務局長

○幹事会

日時：平成27年2月9日(月) 12:10～13:10

会場：懐石宇津房

内容：人事異動、平成27年度定時総会の件

○大阪高圧ガス熔材協同組合 総会

日時：平成27年5月21日(木) 17:30～19:30

会場：スイスホテル南海大阪

出席者：神崎本部長、事務局長

○エアガス・アセチレン技術グループ会議

日時：平成27年2月27日(金) 16:00～16:50

会場：大阪会館

内容：メンバー変更、表彰他

○大阪府高圧ガス安全協会 総会

日時：平成27年5月26日(火) 14:00～16:30

会場：天王寺都ホテル

○充填ガス部会 大阪・奈良支部会

日時：平成27年3月10日(火) 16:00～17:00

出席者：神崎本部長、事務局長

○大阪府LPガス協会 総会

日 時：平成27年5月28日(木) 17:00～18:30

会 場：ホテル阪神

出席者：事務局長

○近畿高圧ガス容器管理委員会 総会

日 時：平成27年6月11日(木) 14:00～15:00

会 場：大阪会館

出席者：神崎本部長、事務局長

○兵庫県高圧ガス協同組合 総会

日 時：平成27年6月2日(火) 17:00～18:30

会 場：パレス神戸

出席者：神崎本部長、事務局長

豊富な
導入実績

RFタグ付高圧ガス容器管理をご検討なら 安心のデンソーウェーブへ

DENSO
DENSO WAVE
<http://www.denso-wave.com/>



RFタグ付高圧ガス容器管理の導入メリット

保安面の向上	長期停滞容器、不明容器、盗難容器の減少
顧客サービスの向上	利用日数情報を元にした発注管理の効率化
資産効率の向上	容器早期回収による資産の有効活用

RFIDハンディターミナルが
業務の効率化をお約束

UHF帯RFタグ(920MHz)対応
ストレスのない高い読み取り性能

高速、方向自在の
読み取り

持ちやすい
ストレート形状と
ワイドキーピッチで
ラクラク操作

耐久性に
優れた
高信頼設計



株式会社 **デンソーウェーブ** 本社 〒470-2297 愛知県知多郡阿久比町大字草木字芳池1

東京支社 Tel:0120-585-271 東北営業所 Tel:022-782-0071 静岡営業所 Tel:054-208-3271 中部支店 Tel:0566-75-7901 大阪支店 Tel:06-7166-5010 広島営業所 Tel:082-504-1101 福岡営業所 Tel:092-643-6900

カスタマーデスク ☎ 0120-585-271 (携帯電話、PHS からでもご利用になれます。) 受付時間9:10～12:00 13:00～17:30(土・日・祝日を除く)



QRコードは
デンソーウェーブの登録商標です。



デンソーウェーブ
公式facebookページ

中国地域本部

1. 定時総会

日時：平成27年5月14日(木) 15:00～15:45

会場：広島ガーデンパレス

議 題

第1号議案 平成26年度事業報告および収支決算の承認を求める件

第2号議案 平成27年度事業計画(案)および収支予算(案)の承認を求める件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り全会一致で承認された。

報告事項

- (1) 会員の動静について、平成26年度内の指定代表者交代：4社、平成27年度5月迄の指定代表者交代4社、入会1社を報告
- (2) 今後の主要行事の日程を説明

本部出席者

副会長 小池 哲夫
 常務執行役員 桑名 毅
 常務執行役員 大沼 倫晃

床本本部長挨拶(要旨)

中国地区の景況といたしましては、業種によっては、ばらつきが見られるものの、造船、自動車、鉄骨建設等に関しましては、おおむね回復が感じられるようになってまいりました。

一方では、3月22日に全線開通した中国やまなみ街道により、山陽と山陰の距離が大幅に縮まり、今後の経済効果が期待されていた矢先の今週5月11日に、ライトバンと大型トラックが正面衝突、車が炎上し1名の死亡者がでるといふ悲惨な事故が起こっております。JIMGAといたしましての最大の課題は、高圧ガスの保安・安全面の推

進、そしてなにより事故撲滅です。今期につきましても事故撲滅に向けて尚一層の努力をしてまいりたいと思っております。

昨年26年度の活動を振り返りますと、皆様方のご協力をいただき「高圧ガス保安法令講習会」ならびに「保安セミナー」を開催し、述べ102名の方々に受講いただきました。

また、RFタグ普及を目的とした「RFタグ説明会」を実施し30名の方々にご出席をいただきました。RFタグ普及につきましてはこの1年で、全国101拠点、17万本に装着し、3月時点累計で188拠点、55万本となっており着実に増加しております。所有者不明容器・放置容器撲滅のため、引き続き会員各社様のご協力を宜しく申し上げます。

心配された消費税改定ですが、本件に伴い昨年3月に発足された消費税調査会によるアンケート調査を行った結果、消費税の円滑・適正な転嫁が行われていることを確認しております。

本年27年度は、3年ごとに開催されております「炭酸ガス保安講習会」実施の年に当たります。本講習会を通じて、できる限り多くの方々に炭酸ガスに関する安全な取り扱いの知識習得をしていただき「事故ゼロ」、「安全・保安の確保」に繋がってまいりたいと思っておりますので、会員の皆様方の1件、1名でも多くの方々へのご案内と集客のご協力をぜひとも宜しくお願いいたします。

また「高圧ガス保安法令講習会」ならびに「保安セミナー」につきましても例年通り開催させていただきますので合わせてご支援とご協力をお願い申し上げます。

小池副会長挨拶(要旨)

平成27年も間もなく半ばを迎えようとしておりますが、安倍内閣発足以来、金融政策、あるいは財政出動等による、超円高という為替水準の是

正、さらに株高で一部産業にとりましては、景気は顕著に回復しております。しかしながら消費税増税の反動減もあり、我々にとって回復の実感はやは残念ながら少なかったと思っております。

一方で、原発停止による電気料金の値上げ、化石燃料上昇による燃料調整費単価、再生可能エネルギー固定価格買取制度賦課金に加えて、予想を超えた超円安傾向による電力料金再値上により、平成20年4月に比べ、我々業界全体の電気代は平成27年3月時点で251億円上がっております。電力は当業界の死命を制する重要な問題でありますので、本年度も引続きJIMGAとして、電力多消費10団体と一緒に政府、関係省庁への陳情、意見広告の掲載など強い働きかけを行ってまいります。

更に、昨年4月に消費税が8%に引き上げられました。この消費税の円滑かつ適正な転嫁に向けた取り組みとして、いわゆる転嫁カルテル・表示カルテルの基準を制定し公正取引委員会に届出を行いました。また、全国の地域本部に調査会を設けていただきましたが、公正取引委員会に相談するというような事案もなく消費税の転嫁を実行していただいたものと思います。

政府は、本年10月に予定していた10%への消費税の再増税を平成29年4月まで先送りをしました。協会としては、本年度以降も地域本部に設置した調査会を活用して注視していきます。

今年度の課題については、産業ガス、医療ガス両部門共通として、コンプライアンスの遵守と保安・安全の推進、事故の撲滅のふたつの課題があります。この不変の課題に加えて、我々の産業・医療ガスが社会・産業のインフラおよびライフラインとして重要な製品であることを社会の皆様方にご理解いただくために「必要とされるJIMGA」を目標に「信頼される組織」「絶えず発信する組織」となるよう取り組み、JIMGAのプレゼンスの向上を目指してまいります。そのために、産業ガス、医療ガス部門におきましては、それぞれ4

つの課題に重点的に取り組みます。

産業ガス部門につきましては、第一は「保安の一層の強化・推進」です。これは皆様ご承知の通り地道な活動ですが、これからも「技術・保安部会」が中心となって自主基準の整備・制定に努めると共に、今年度も全国の地域本部と一緒に講習会の開催や啓発活動を行い、「皆様から信頼されるJIMGA」を目指します。

第二は所有者不明容器・放置容器撲滅のために、RFタグの普及を更に推進し、容器管理の強化・徹底を図ります。この1年で101拠点、17万本に装着し、現在188拠点で55万本を達成(平成27年3月時点)しており、平成27年度末には310万本への装着を目指しております。そのために「RFタグ推進スペシャルサブワーキンググループ」が新たな視点での普及説明会の開催や新たな電子取引ツールのJIMGA-EDIとの連携利用による取り組みを全国的にご紹介してまいります。

第三は「環境・安全部会」を中心とした環境への取り組みと、業界の事故統計の分析、原因解析ならびに対応策など成果物の発信や電力問題への対応を継続してまいります。特に、電力多消費11団体の活動により増額された省エネ補助金を会員各社に分かりやすく、具体的にどのように活用できるかを紹介し、充てん工場の省エネ対策などこれまで以上に具体的、積極的に活動し「皆様のためになるJIMGA」を目指します。



小池副会長挨拶

第四は国際統合化です。これもますます重要なテーマとなってきており、「国際部会IHC対応ワーキンググループ」を中心に世界中の業界の共通課題である「事故の撲滅、保安の強化、推進」のために欧・米・アジアの団体であるEIGA、CGA、AIGAと国際統合化文書やJIMGA指針の作成に積極的に取り組みます。

以上、産業ガス部門の課題を申し上げましたが、高圧ガス事故の撲滅、安全・安心の確立と消費税や電力問題など業界を取り巻く問題に対応する会員各社の「プレーン」となり皆様から「必要とされるJIMGA」を目指してまいります。

大沼常務執行役員挨拶（要旨）

JIMGA産業ガス部門からの情報発信状況を紹介いたします。いずれもJIMGAウェブサイトに掲載されますが、ウェブサイト上で学習できる「e-ラー



床本本部長挨拶



藤井副本部長乾杯ご発声（懇親会）

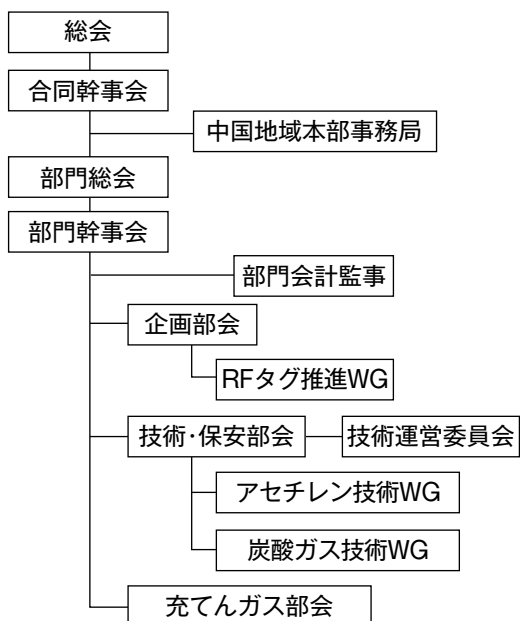
ニング」の改訂、今回は黄色の表紙となる「高圧ガスハンドブック第2次改訂版」の発刊を予定しております。また「安全ニュース」は毎年5月にウェブサイト（出版物＞産業ガス部門＞図書一覧＞ニュース項）に掲載していますのでぜひご活用ください。

2. 平成27年度事業計画

産業ガス事業の製造、輸送、販売、消費等に関して、それらの改善・合理化の推進、技術の向上、および安全・保安の確保に努め、本部との連携を取りながら次の事業を遂行いたします。

- (1) 本部評議委員会、事務局長会、等へ積極的に参加する。
- (2) 従来から取り組んできた講習会活動を継続する。
 - ①炭酸ガス保安講習会（11月27日、広島市：広成ビル）3年毎
 - ②高圧ガス保安法令講習会（10月22日、山口市：YICスタジオ）
 - ③技術・保安部会技術研修会（9月11～12日、エーテック株）
 - ④産業ガス保安セミナーの開催（28年2月18日、広島市：RCC文化センター）
- (3) 高圧ガス保安大会や、高圧ガス保安活動促進週間の協賛諸行事へ積極的に参加する。
- (4) 本部指示のもと、関連法規の周知徹底ならびに法令上の諸問題について地域監督官庁と話し合いを進める。
- (5) 各部会の特有の諸問題に関してはそれぞれの部会で討議解決をはかる。
- (6) 消費増税調査会は、窓口を中国地域本部事務局として継続する。

3. 組織図



III HAMAI

オープン表示機能付バルブ

大型の開閉表示窓で見やすく使いやすい。

バルブの開閉状態がひと目でわかる大きな表示が特長です。
 高機能・低コストを実現したバルブですので、幅広い分野で活躍すること間違いなしです。
 また、ハンドル部にRFタグを搭載したタイプもあり、RFタグ機能付きバルブとしてご使用いただけます。



III 株式会社

ハマイ

■本社 〒141-8512 東京都品川区西五反田5-22-13 TEL.03-3492-6655 FAX.03-3492-6660
 ■府中工場 ■大多喜工場 ■大阪営業所 ■名古屋営業所 ■福岡営業所 ■仙台営業所

4. 役員・部会・WG名簿 (敬称略・順不同)

役員



本部長

床本 浩二
岩谷産業(株)
中国支社長



副本部長

藤井 基博
藤井商事(株)
代表取締役会長



副本部長

並河 勉
山陰酸素工業(株)
代表取締役社長



副本部長

西村 浩和
エア・ウォーター(株)
中・四国支社長



副本部長

名越 一品
高圧ガス工業(株)
取締役 中四国ブロック長

- 幹事 柳田 裕久 大陽日酸(株) 常務執行役員 中四国支社長
- 幹事 坂井 万城 日本エア・リキード(株) 西日本地域本部長
- 幹事 松本 久昭 岡山エア・ウォーター(株) 代表取締役社長
- 幹事 國廣 憲 中国アセチレン(株) 代表取締役社長
- 幹事 石葉 光伸 エア・ウォーター炭酸(株) 大阪支店 課長
- 会計監事 渡部 浩明 岩谷瓦斯(株) ガス事業部 中国事業所長
- 会計監事 小林 通匡 ニッキフッコー(株) 代表取締役社長

企画部会

- 部会長 古田 正彦 日本エア・リキード(株) カスタマー・エンジニアリング部 中四国グループ長
- 委員 小林 靖昌 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当部長 (中国駐在)
- 委員 原田 裕司 大陽日酸(株) 中四国支社 技術部長
- 委員 福井 雅則 高圧ガス工業(株) 広島工場長
- 委員 水田 正徳 岩谷瓦斯(株) ガス事業部 中国事業所 広島工場長
- 委員 宮澤 昭浩 藤井商事(株) 本社工場 製造課長
- 委員 浜田 拓也 山陰酸素工業(株) 安来ガスセンター長
- 委員 山本 正治 エア・リキード工業ガス(株) 山口工場長
- 委員 吉藤 宏行 岡山エア・ウォーター(株) 工場長
- 委員 黒田 秀昭 中国アセチレン(株) 常務取締役製造部長

RFタグ推進WG

WG長	水田 正徳	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 中国事業所 広島工場長
委員	福井 雅則	高圧ガス工業(株) 広島工場長
委員	黒田 秀昭	中国アセチレン(株) 常務取締役製造部長
委員	古田 正彦	日本エア・リキード(株) カスタマー・エンジニアリング部 中四国グループ長
委員	宮澤 昭浩	藤井商事(株) 本社工場 製造課長
委員	浜田 拓也	山陰酸素工業(株) 安来ガスセンター長

技術・保安部会

部長	原田 裕司	大陽日酸(株) 中四国支社 技術部長
副部長	福井 雅則	高圧ガス工業(株) 広島工場長
委員	水田 正徳	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 中国事業所 広島工場長
委員	赤松 興一	中・四国エア・ウォーター(株) 下松ガスセンター長
委員	花田 英治	(株)ゼネラルガスセンター 三原工場長
委員	竹部 和敬	山陰酸素工業(株) 常務取締役技術本部長
委員	金塚 博	山陽酸素(株) 工場長
委員	水崎 正信	(株)ゼネラルガスセンター 本社工場長
委員	中元 昌幸	中国酸素(株) 広島工場長代理
委員	海上 欣三	中・四国エア・ウォーター(株) 広島支店 広島工場長
委員	川下 明彦	大陽日酸ガス&ウェルディング(株) 山口支店長
委員	宮澤 昭浩	藤井商事(株) 本社工場製造課長
委員	藤原 慎治	藤井商事(株) 水島工場製造課長
委員	住岡 二郎	ニッキフッコー(株) 呉ガスセンター サブマネージャー
委員	徳永 守男	リンクス(株) テクノガスセンター工場長
委員	西村 宏一	高圧ガス工業(株) 岡山工場長
委員	金谷 利雅	小池酸素工業(株) 尾道工場長
委員	黒田 秀昭	中国アセチレン(株) 常務取締役製造部長
委員	村山 昇	水島アセチレン工業(株) 工場長
委員	大野 剛	安浦アセチレン(株) 広島工場 課長
委員	小林 統	日本液炭(株) 中四国支社 技術サービス課長
委員	石葉 光伸	エア・ウォーター炭酸(株) 大阪支店 課長
委員	佐藤 孝	昭和電工ガスプロダクツ(株) 中・四国営業所技術リーダー
委員	小林 靖昌	岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当部長(中国駐在)
委員	田中 宏明	広島日酸(株) 取締役工場長
委員	古田 正彦	日本エア・リキード(株) カスタマー・エンジニアリング部 中四国グループ長

アセチレン技術WG

WG長	福井 雅則	高圧ガス工業(株) 広島工場長
委員	水田 正徳	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 中国事業所 広島工場長
委員	川下 明彦	大陽日酸ガス&ウェルディング(株) 山口支店長
委員	黒田 秀昭	中国アセチレン(株) 常務取締役製造部長
委員	原田 裕司	大陽日酸(株) 中四国支社 技術部長
委員	西村 宏一	高圧ガス工業(株) 岡山工場長
委員	金谷 利雅	小池酸素工業(株) 尾道工場長
委員	村山 昇	水島アセチレン工業(株) 工場長
委員	大野 剛	安浦アセチレン(株) 広島工場 課長

炭酸ガス技術WG

WG長	小林 靖昌	日本液炭(株) 中四国支社 技術サービス課長
委員	佐藤 孝	昭和電工ガスプロダクツ(株) 中・四国営業所技術リーダー
委員	小林 統	日本液炭(株) 中四国支社 技術サービス課長
委員	石葉 光伸	エア・ウォーター炭酸(株) 大阪支店 課長

充てんガス部会

部会長	藤井 基博	藤井商事(株) 代表取締役会長
委員	小林 通匡	ニッキフッコー(株) 代表取締役社長
委員	並河 勉	山陰酸素工業(株) 代表取締役社長
委員	平松 丈始	旭化成酸素(株) 代表取締役社長
委員	松本 久昭	岡山エア・ウォーター(株) 代表取締役社長
委員	坪井 亮	小池酸素工業(株) 中国支店長
委員	岡本 茂裕	オカモト産業(株) 代表取締役社長
委員	木次 徳在	山陽酸素(株) 取締役社長
委員	白神 巧	(株)ゼネラルガスセンター 取締役社長
委員	高山 眞司	高山産業(株) 代表取締役社長
委員	山本 敬史	大和酸素(株) 代表取締役社長
委員	國廣 憲	中国アセチレン(株) 代表取締役社長
委員	川崎 能弘	中国酸素(株) 常務取締役
委員	五島 明憲	中・四国エア・ウォーター(株) 広島支店長
委員	渋江 幹男	中・四国エア・ウォーター(株) 岡山支店長
委員	山脇 淳平	広島高圧ガス(株) 代表取締役
委員	田中 宏明	広島日酸(株) 取締役工場長
委員	長谷川 利	エア・リキード工業ガス(株) 中四国支社長
委員	小西 章平	水島アセチレン工業(株) 取締役営業部長
委員	松本 眞	リンクス(株) 代表取締役
委員	渡部 浩明	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 中国事業所長

注)平成27年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

四国地域本部

1. 定時総会

日時：平成27年5月14日（木）15:00～15:45

会場：高松国際ホテル

議題

第1号議案 平成26年度事業報告及び収支決算
について承認を求める件

第2号議案 平成27年度事業計画（案）ならび
に収支予算（案）について承認を求
める件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認
された。

本部出席

副会長 田嶋 義明
常務理事 篠塚 賢藏
常務執行役員 保坂 昭一

野村本部長挨拶（要旨）

四国地域本部の最重要課題は高圧ガス事故の撲滅です。今年度は高圧ガス保安講習会を香川県で開催し、一般消費者に高圧ガスに関する危険性を十分に認識していただき、高圧ガスに関する重大事故をなくしていきたいと考えています。また、高圧ガス容器による事故撲滅を図るため、RFタ

グの普及促進を進めます。地域特性に合った情報発信をしてJIMGAの存在価値を高めてまいります。



野村本部長挨拶

田嶋副会長挨拶（要旨）

産業ガス部門第一の課題は「保安の一層の強化、推進」で、全国の地域本部と一緒に啓発活動を行い、「信頼されるJIMGA」を目指します。第二はRFタグの普及です。現在は188拠点55万本を達成しており、2015年度末までに310万本の容器にRFタグを取り付けることが目標です。「環境への取り組みと、電力問題への対応」、「国際整合化」の課題についても取り組み「必要とされるJIMGA」を目指します。



総会の模様



田嶋副会長挨拶

2. 平成27年度産業ガス部門活動方針

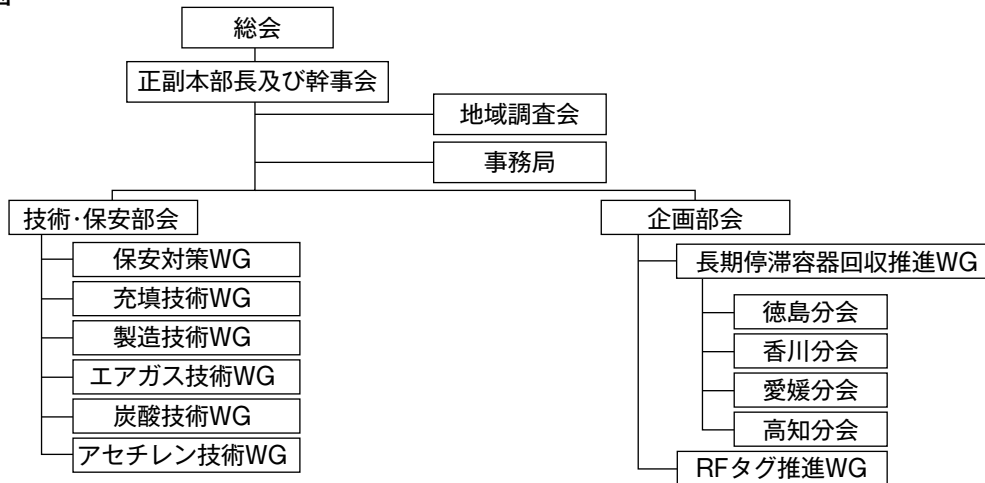
四国地域本部では、高圧ガス事故撲滅のため、高圧ガス保安に関する啓発と自主保安体制の確立を目指します。本年度も、高圧ガス保安に関する啓発活動として、一般消費者向けの高圧ガス保安講習会、会員向けの高圧ガス勉強会ならびに企業研修会を実施し、高圧ガスに関する保安意識の向上に努めてまいります。

また、RFタグを使用した容器管理の推進を図ることにより、当地域での高圧ガス容器の放置

容器、不明容器をなくすための活動を続けます。RFタグに関しては、導入の相乗効果を高めるため、容器使用料契約についての勉強会の開催を検討してまいります。

高圧ガス保安に関係する諸状況の改善への取り組みを進め、JIMGAの技術面、防災面での役割を向上させ、体制の強化を図っていきます。会員ならびに一般消費者に対して地域特性に沿った情報発信を行いながら、各課題に取り組んでまいります。

3. 組織図



4. 役員・部会・WG名簿 (敬称略・順不同)

役員



本部長
野村 茂
土佐酸素(株)
代表取締役社長



副本部長
大橋 正明
四国アセチレン工業(株)
代表取締役社長



副本部長
近藤 哲司
日本エア・リキード(株)
四国営業所長



副本部長
長谷 眞史
四国岩谷産業(株)
常務取締役

- 幹事** 米田 勝明 中・四国エア・ウォーター(株) 四国支店 取締役支店長
幹事 武田 和倫 四国大陽日酸(株) 代表取締役社長
幹事 新田 茂 大陽日酸(株) 中四国支社 四国支店長

幹 事 谷口 裕二 高松帝酸(株) 専務執行役員
会計監事 一色あをみ 大和酸素工業(株) 代表取締役社長

企画部会

部 会 長 野村 茂 土佐酸素(株) 代表取締役社長

長期停滞容器回収推進WG

W G 長 大橋 正明 四国アセチレン工業(株) 代表取締役社長
徳島分会 岡崎 靖大 四国大陽日酸(株) 徳島営業所 所長
香川分会 衣斐 八束 四国大陽日酸(株) 香川営業所 所長
愛媛分会 真鍋 智昭 四国アセチレン工業(株) 取締役部長
高知分会 小島 克典 土佐酸素(株) 高知工場 係長

RFタグ推進WG

W G 長 長谷 眞史 四国岩谷産業(株) 常務取締役
委 員 大橋 正明 四国アセチレン工業(株) 代表取締役社長
委 員 一色 貴志 大和酸素工業(株) 代表取締役副社長
委 員 篠原 和伸 四国大陽日酸(株) 取締役技術部長
委 員 立花 靖司 土佐酸素(株) 常務取締役 製造技術部長
委 員 齋藤 公司 エヒメ酸素(株) 常務取締役
委 員 米田 勝明 中・四国エア・ウォーター(株) 四国支店 取締役支店長
委 員 川崎 起樹 高圧ガス工業(株) 岡山工場 課長
委 員 服部 厚司 高松帝酸(株) 製造技術部長

技術・保安部会

部 会 長 近藤 哲司 日本エア・リキード(株) 四国営業所長

保安対策WG

W G 長 藤井 保秀 高松帝酸(株) 製造技術部 担当部長
委 員 田中 智博 エア・ウォーター炭酸(株) 大阪支店 広島出張所 所長
委 員 篠原 和伸 四国大陽日酸(株) 取締役技術部長
委 員 辻中 章 大陽日酸(株) 中四国支社 技術部 技術課 担当課長
委 員 竹内 正則 四国岩谷産業(株) 担当技術部長
委 員 鈴木 利光 昭和電工ガスプロダクツ(株) 中・四国営業所 主務
委 員 小林 統 日本液炭(株) 中四国支社 課長
委 員 古田 正彦 日本エア・リキード(株) カスタマー・エンジニアリング部 中四国グループ長
委 員 安部 元行 小池酸素工業(株) 四国営業所 所長
委 員 川崎 起樹 高圧ガス工業(株) 岡山工場 課長

充填技術WG

W G 長 立花 靖司 土佐酸素(株) 常務取締役 製造技術部長
委 員 一色 貴志 大和酸素工業(株) 代表取締役副社長
委 員 住吉 直人 中・四国エア・ウォーター(株) 四国支店 香川工場長
委 員 樋笠 和樹 四国アセチレン工業(株) 製造部門長
委 員 木村 昭夫 (株)東予ガスセンター センター長
委 員 片山 昌也 エヒメ酸素(株) 主任

製造技術WG

WG長 三輪 朗 四国液酸(株) 取締役工場長
 委員 武智 元 松山オキシトン(株) 工場長
 委員 伊藤 聖哉 住化高純度ガス(有) 製造課長

エアガス技術WG

WG長 武智 元 松山オキシトン(株) 工場長

炭酸技術WG

WG長 長谷 眞史 四国岩谷産業(株) 常務取締役

アセチレン技術WG

WG長 樋笠 和樹 四国アセチレン工業(株) 製造部門長

注)平成27年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

5. 行事開催報告

第1回技術・保安部会

日時：平成27年5月12日(火)12:00～13:20

場所：不二の屋

議題：平成27年度活動計画及びWG名簿の確認

1. 高圧ガス製造技術勉強会
2. 消費者向け保安講習会
3. 企業訪問

②JIMGA本部炭酸ガス技術WGからの報告
 技術・保安部会がJIMGA保安教育功労賞を受賞したため、代表で表彰式に出席した近藤部会長より、部会に先立ち部会員に表彰カードと記念品が手渡されました。

第2回技術・保安部会

日時：平成27年7月9日(木)12:00～13:30

場所：四国地域本部

議題：①平成27年度活動計画の検討



近藤部会長から部会員への表彰カードの手渡し



JIMGA 保安教育功労賞の受賞者



部会の模様

6. 今年度の講習会予定

①高圧ガス製造技術勉強会

日時：8月21日(金)13:00～

場所：オークラホテル丸亀

②高圧ガス保安講習会

日時：10月16日(金)13:00～

場所：オークラホテル丸亀

九州地域本部

1. 定時総会

日時：平成27年5月15日(金)14:30～16:00

会場：博多都ホテル

議 題

第1号議案 平成26年度事業報告および収支報告の件

第2号議案 平成27年度事業計画(案)および予算(案)の件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

報告事項

- (1) 平成26年度販売・消費事業所高圧ガス保安点検結果
- (2) 保安講習会等開催報告

本部出席者

副会長 南部 淳
常務理事 篠塚 賢藏
常務執行役員 徳富栄一郎

栗下本部長挨拶(要旨)

平成26年度の活動について若干申し上げますと、災害時における医療ガス供給協定がございました。ご存知の通り、大規模災害時での医療機関や公共施設への供給は、県単位での協定締結になっており、平成26年度に九州地域本部管内の全県と締結いただくことができました。また容器管理指針についても、全県で発行いただくことができました。これも会員各社、部会メンバーの皆様のご努力の結果であり、改めて御礼申し上げます。

今年度の活動については、各種保安講習会を中心として、各保安団体との連携活動にも積極的に取り組むよう計画しております。講習会では受講者の募集や運営に協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、保安に関してですが、KHK統計資料によると、平成26年の容器の盗難・喪失を除く九州の高圧ガス事故の発生件数は34件です。前年が35件ですので、ここ数年を見ますと発生件数は減少傾向にあります。会員各社様も常日頃より体制を組んで保安活動を実践されており、また多くの人員と時間をかけて対応いただいております。保安は地道な活動であり、コストも工数もかかります。現状の保安体制の中で事故撲滅、予防活動あるいは啓発を継続していただき、減少に向かっていくことを数字で示すことが、何よりの大きな力となります。我々も最大限の努力をし、皆様方からのお知恵を拝借しつつ実践してまいりたいと思います。

さらに電力問題についても申し上げますと、先月エネルギー基本計画が閣議決定され、原発再稼働方針が明記されました。言い換えれば「原発ゼロ」が名実ともに消滅したことになりますが、将来の原発依存度、電源構成などの明示は見送られています。

九州においても、発電、送電分社化等、さまざまな変革が進むものと予想され、JIMGAにとっても大きな研究課題だと思えます。今後も有益な情報を発信できればと思っております。

これからも皆様方と共に各種活動を進め、また行政やJIMGA本部との連携に努めてまいりますので、本年度も変わらぬご協力を賜りたく存じます。

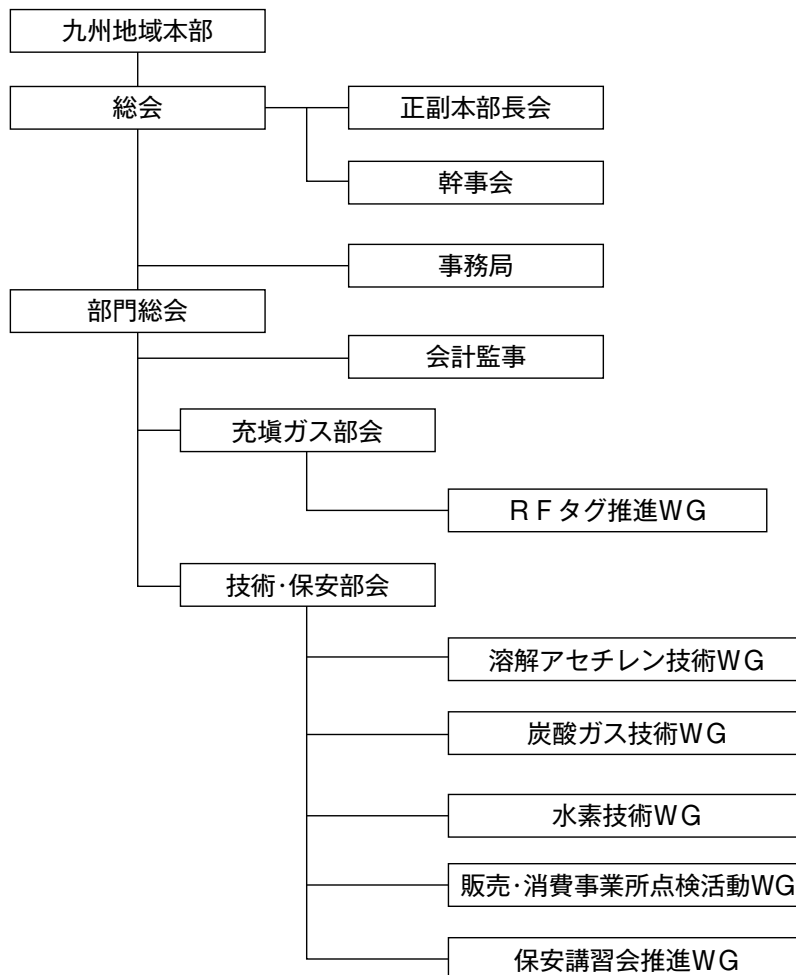


総会の模様

2. 平成27年度産業ガス部門活動方針

- (1) JIMGA本部、関係団体および行政関係部署との連携推進
- (2) 会員向け情報発信の迅速化および充実 (JIMGA本部の活動状況、行政の動向等)
- (3) 放置容器・不明容器対策の推進 (九州高圧ガス容器管理委員会との連携)
- (4) 講習会等開催による保安に対する啓発
- (5) RFタグの周知・普及の推進

3. 組織図



4. 役員・部会・WG名簿(敬称略・順不同)

役員



本部長

栗下 敏一
大陽日酸(株)
執行役員 九州支社長



副本部長

坂井 万城
日本エア・リキード(株)
西日本地域本部長



副本部長

中村 英己
エア・ウォーター(株)
九州支社長

幹事	宮嶋 寛幸	福豊帝酸(株)	代表取締役社長
幹事	町頭 禎之	岩谷産業(株)	執行役員 九州支社長
幹事	藤内 治敏	福岡酸素(株)	代表取締役社長
幹事	三浦正太郎	西日本高圧瓦斯(株)	代表取締役社長
幹事	廣瀬 俊明	高圧ガス工業(株)	執行役員 九州地区長
幹事	江藤 伸一	江藤酸素(株)	代表取締役会長
幹事	小島 厚	日本液炭(株)	九州支社長
幹事	福田 道孝	福岡酸素(株)	伊万里支社 支社長
幹事	山崎 俊隆	(株)武田商事	代表取締役社長
幹事	今川 敬志	内村酸素(株)	代表取締役社長
幹事	三上 良宣	江藤酸素(株)	常務取締役
幹事	岩切 充弘	宮崎酸素(株)	代表取締役社長
幹事	内村 武志	サツマ酸素工業(株)	代表取締役社長
幹事	與儀 盛輝	(株)オカノ	代表取締役社長
会計監事	福田愛二郎	貴船商事(株)	代表取締役社長
会計監事	平山 俊夫	岩谷瓦斯(株)	ガス事業部 九州事業所長

充填ガス部会

部会長	宮嶋 寛幸	福豊帝酸(株)	代表取締役社長
副部会長	杉谷 英範	(株)朝日酸素商会	代表取締役社長
委員	福田 道孝	福岡酸素(株)	伊万里支社 支社長
委員	山崎 俊隆	(株)武田商事	代表取締役社長
委員	石橋 猛	内村酸素(株)	有明事業所 課長
委員	佐藤 祐平	江藤酸素(株)	取締役技工ブロック長
委員	岩切 英教	宮崎酸素(株)	専務取締役
委員	荒川 一裕	サツマ酸素工業(株)	専務取締役
委員	金城 優典	(株)オカノ	ガス部 部長

RFタグ推進WG

WG長	宮嶋 寛幸	福豊帝酸(株)	代表取締役社長
委員	杉谷 英範	(株)朝日酸素商会	代表取締役社長
委員	加藤 雅律	岩谷産業(株)	九州支社 福岡支店長
委員	東 成政	九州エア・ウォーター(株)	取締役製造技術部長

委員	荒木 淳支	高圧ガス工業(株) 執行役員 小倉工場 統括工場長
委員	橋本 祐治	大陽日酸(株) 九州支社 技術部長
委員	渡島 康隆	西日本高圧瓦斯(株) 取締役生産部長
委員	鈴木 貴志	日本液炭(株) 九州支社 技術サービス課 課長
委員	園木 稔	福岡酸素(株) 業務部 課長
委員	福田 道孝	福岡酸素(株) 伊万里支社 支社長
委員	高尾正太郎	(株)武田商事 総務部長
委員	伊集院宏之	内村酸素(株) ガス事業部 課長代理
委員	佐藤 祐平	江藤酸素(株) 取締役技工ブロック長
委員	岩切 英教	宮崎酸素(株) 専務取締役
委員	荒川 一裕	サツマ酸素工業(株) 専務取締役
委員	金城 優典	(株)オカノ ガス部 部長

技術・保安部会

部長	中村 英己	エア・ウォーター(株) 九州支社長
委員	長家 茂	福岡酸素(株) 取締役技術統轄部長
委員	橋本 祐治	大陽日酸(株) 九州支社 技術部長
委員	山口 和美	日本エア・リキード(株) カスタマー・エンジニアリング部 九州グループ長
委員	荒木 淳支	高圧ガス工業(株) 執行役員 小倉工場 統括工場長
委員	鴫田 秀穂	岩谷産業(株) 環境保安部 課長代理(九州駐在)
委員	渡島 康隆	西日本高圧瓦斯(株) 取締役生産部長
委員	鈴木 貴志	日本液炭(株) 九州支社 技術サービス課 課長
委員	大村 利美	福豊帝酸(株) 取締役専務執行役員 営業本部長
委員	福田 道孝	福岡酸素(株) 伊万里支社 支社長
委員	男澤 隆	(株)武田商事 製造部 部長
委員	今川 智文	内村酸素(株) 有明事業所 取締役所長
委員	佐藤 祐平	江藤酸素(株) 取締役技工ブロック長
委員	菊池 誠	宮崎酸素(株) 取締役製造部長
委員	荒川 一裕	サツマ酸素工業(株) 専務取締役
委員	諸喜田 隆	(株)オカノ 常務取締役

溶解アセチレン技術WG

WG長	荒木 淳支	高圧ガス工業(株) 執行役員 小倉工場 統括工場長
委員	鴫田 秀穂	岩谷産業(株) 環境保安部 課長代理(九州駐在)
委員	田坂 友成	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 九州事業所 北九州工場長
委員	三上 良宣	江藤酸素(株) 常務取締役
委員	翁長 健	(株)おきさん 取締役
委員	橋本 祐治	大陽日酸(株) 九州支社 技術部長
委員	小柳 直	西日本高圧瓦斯(株) ガス関連事業部 部長
委員	山口 和美	日本エア・リキード(株) カスタマー・エンジニアリング部 九州グループ長

炭酸ガス技術WG

WG長	鈴木 貴志	日本液炭(株) 九州支社技術サービス課 課長
委員	森 宏太郎	岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当(九州駐在)
委員	吉田 秀幸	エア・ウォーター炭酸(株) 福岡支店
委員	翁長 健	(株)おきさん 取締役
委員	村田 眞信	昭和電工ガスプロダクツ(株) 九州支店 副主事

委員 田中 伸一 福岡酸素(株) 保安管理部 課長

水素技術WG

WG長 折尾 美昭 岩谷瓦斯(株) 佐賀工場 工場長
委員 千々和 徹 伊藤忠工業ガス(株) 水素業務課長
委員 森 宏太郎 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当(九州駐在)
委員 田坂 文夫 昭和電工(株) 福岡支店 マネージャー
委員 舟橋 和生 新日鉄住金化学(株) ガス部 マネージャー
委員 橋本 祐治 大陽日酸(株) 九州支社 技術部長
委員 山口 和美 日本エア・リキード(株) カスタマー・エンジニアリング部 九州グループ長
委員 岡 潔 福岡酸素(株) 取締役経営企画部部長

販売・消費事業所点検活動WG

WG長 山口 和美 日本エア・リキード(株) カスタマー・エンジニアリング部 九州グループ長
委員 森 宏太郎 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当(九州駐在)
委員 山下 隆二 九州エア・ウォーター(株) 製造技術部 課長
委員 荒木 淳支 高圧ガス工業(株) 執行役員 小倉工場 統括工場長
委員 栗田 英次 大陽日酸(株) 九州支社 技術部 技術課長
委員 渡島 康隆 西日本高圧瓦斯(株) 取締役生産部長
委員 鈴木 貴志 日本液炭(株) 九州支社 技術サービス課 課長
委員 田中 伸一 福岡酸素(株) 保安管理部 課長
委員 大村 利美 福豊帝酸(株) 取締役専務執行役員 営業本部長
委員 福田 道孝 福岡酸素(株) 伊万里支社 支社長
委員 男澤 隆 (株)武田商事 製造部 部長
委員 飯沼 由博 内村酸素(株) ガス業務部 主任
委員 野尻 裕二 江藤酸素(株) 保安課長代理
委員 谷口 修 宮崎酸素(株) 営業部 次長
委員 荒川 一裕 サツマ酸素工業(株) 専務取締役
委員 栗國 博史 (株)オカノ 医療部医療サービス課 係長

保安講習会開催WG

WG長 山口 和美 日本エア・リキード(株) カスタマー・エンジニアリング部 九州グループ長
委員 森 宏太郎 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当(九州駐在)
委員 佐藤 祐平 江藤酸素(株) 取締役技工ブロック長
委員 山下 隆二 九州エア・ウォーター(株) 製造技術部 課長
委員 荒木 淳支 高圧ガス工業(株) 執行役員 小倉工場 統括工場長
委員 橋本 祐治 大陽日酸(株) 九州支社 技術部長
委員 鈴木 貴志 日本液炭(株) 九州支社 技術サービス課 課長
委員 長家 茂 福岡酸素(株) 取締役技術統轄部長
委員 大村 利美 福豊帝酸(株) 取締役専務執行役員 営業本部長

注) 平成27年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

5. 行事開催報告

第1回炭酸ガス技術WG

- 日 程：平成27年6月26日(金)
 会 場：JIMGA九州地域本部会議室
 議 題：①JIMGA本部27年度活動計画報告
 ②九州地域本部27年度活動計画
 ③炭酸ガス保安講習会に向けた準備

第1回技術・保安部会

- 日 時：平成27年7月24日(金)10:10～11:30
 場 所：博多都ホテル
 議 題：①27年度JIMGA本部活動計画
 ②27年度九州地域本部活動計画
 ③九州管内26年度高圧ガス事故統計他
 ④産業ガス保安セミナー議題について

RFタグ、JIMGA-EDIシステム説明会

- 日 時：平成27年7月27日(金)13:30～16:00
 場 所：福岡商工会議所ビル
 参加者：37名



RF タグ、JIMGA-EDI システム説明会の模様

6. 今年度の行事開催予定

産業ガス保安セミナー

- 日 時：平成27年9月18日(金)13:25～17:00
 場 所：福岡県中小企業振興センター
 内 容：①JIMGAカードル指針について
 ②JIMGA安全統計、事故事例、ヒヤリハット
 ③SDSの改定について

炭酸ガス保安講習会

- 日 時：平成27年11月19日(木)
 場 所：福岡県中小企業振興センター

産業ガス学習用教材

e-ラーニングを活用しませんか！



JIMGAでは、産業ガス学習用教材として、e-ラーニングをウェブサイト公開しています。テーマは4種類で、JIMGA会員以外の方も自由にアクセスできます。各テーマとも講義形式で、動画・事故事例・理解度テストを盛り込んだ教材になっており、これまでに多くの方々にご活用いただいています。

< e-ラーニングのテーマ >

1. 高圧ガスの安全基礎知識
2. 水素の安全な取扱い
3. 炭酸ガスの安全な取扱い
4. 酸素の安全な取扱い

< e-ラーニングへのアクセス方法 >



【高圧ガスの安全基礎知識】ダイジェスト版
(約20分)を追加しました！

ぜひ、ご活用下さい。
JIMGA 技術・保安部会
教育研修WG

統計データ一覧

2010年～2014年 地区別酸素（一般）販売実績推移表……………	117
2010年～2014年 地区別窒素（一般）販売実績推移表……………	118
2010年～2014年 地区別アルゴン（一般）販売実績推移表……………	119
業種別酸素（一般）販売実績推移表（5年間：2010年度～2014年度） ……	120
業種別窒素（一般）販売実績推移表（5年間：2010年度～2014年度） ……	121
業種別アルゴン（一般）販売実績推移表（5年間：2010年度～2014年度） ……	122
2014年4月～2015年3月 地区別酸素生産・販売実績表 ……	123
2014年4月～2015年3月 酸素生産量・一般販売実績推移グラフ ……	123
2014年4月～2015年3月 地区別窒素生産・販売実績表 ……	124
2014年4月～2015年3月 窒素生産量・一般販売実績推移グラフ ……	124
2014年4月～2015年3月 地区別アルゴン生産・販売実績表 ……	125
2014年4月～2015年3月 アルゴン生産量・一般販売実績推移グラフ ……	125
2010年度～2014年度 溶解アセチレン生産・販売実績表……………	126
2010年度～2014年度 液化炭酸ガス工場出荷・用途別販売実績推移表……………	126
2010年～2014年 主要半導体材料ガス等国内市場実績推移表……………	127
2010年～2014年 標準ガス国内販売実績推移表……………	128
2010年～2014年 圧縮水素出荷実績推移表……………	128

2010年～2014年 地区別酸素（一般）販売実績推移表

単位：千m³

地区別	西暦	液化酸素	対前年比	パイピング	対前年比	ボンベ詰	対前年比	合計	対前年比
北海道	2010	14,470	89%	11,028	117%	4,520	99%	30,018	99%
	2011	14,277	99%	8,320	75%	4,415	98%	27,012	90%
	2012	14,464	101%	7,292	88%	4,538	103%	26,294	97%
	2013	14,514	100%	7,429	102%	4,415	97%	26,358	100%
	2014	14,276	98%	6,679	90%	4,362	99%	25,317	96%
東北	2010	54,503	102%	90,331	159%	2,251	92%	147,085	130%
	2011	49,218	90%	54,093	60%	2,033	90%	105,344	72%
	2012	46,121	94%	87,610	162%	2,223	109%	135,954	129%
	2013	46,299	100%	86,775	99%	2,049	92%	135,123	99%
	2014	47,009	102%	81,471	94%	1,922	94%	130,402	97%
関東	2010	236,465	109%	283,970	98%	10,529	96%	530,964	103%
	2011	231,474	98%	256,548	90%	9,968	95%	497,990	94%
	2012	231,529	100%	278,950	109%	9,787	98%	520,266	104%
	2013	227,282	98%	282,524	101%	9,290	95%	519,096	100%
	2014	219,448	97%	287,227	102%	9,407	101%	516,082	99%
東海	2010	158,513	115%	182,949	136%	3,755	102%	345,217	125%
	2011	159,609	101%	187,330	102%	3,903	104%	350,842	102%
	2012	148,354	93%	184,363	98%	3,830	98%	336,547	96%
	2013	135,544	91%	182,276	99%	3,349	87%	321,169	95%
	2014	142,018	105%	181,708	100%	3,234	97%	326,960	102%
近畿	2010	261,597	124%	143,115	119%	6,136	104%	410,848	122%
	2011	254,300	97%	142,700	100%	5,716	93%	402,716	98%
	2012	241,383	95%	129,184	91%	5,375	94%	375,942	93%
	2013	196,678	81%	135,829	105%	4,859	90%	337,366	90%
	2014	197,082	100%	135,618	100%	4,300	88%	337,000	100%
中国	2010	87,434	103%	203,870	124%	3,249	94%	294,553	116%
	2011	76,428	87%	182,820	90%	3,200	98%	262,448	89%
	2012	65,890	86%	130,976	72%	3,073	96%	199,939	76%
	2013	63,657	97%	137,782	105%	3,082	100%	204,521	102%
	2014	67,249	106%	169,715	123%	2,856	93%	239,820	117%
四国	2010	28,077	84%	803	664%	1,986	87%	30,866	86%
	2011	33,715	120%	190	24%	2,059	104%	35,964	117%
	2012	31,126	92%	0	0%	2,027	98%	33,153	92%
	2013	29,569	95%	0	0%	2,038	101%	31,607	95%
	2014	32,263	109%	0	0%	2,080	102%	34,343	109%
九州	2010	87,624	97%	109,043	91%	1,888	83%	198,555	94%
	2011	90,350	103%	114,457	105%	1,820	96%	206,627	104%
	2012	95,265	105%	87,480	76%	1,789	98%	184,534	89%
	2013	82,126	86%	86,476	99%	1,676	94%	170,278	92%
	2014	76,169	93%	94,806	110%	1,818	108%	172,793	101%
合計	2010	928,683	110%	1,025,109	115%	34,314	97%	1,988,106	112%
	2011	909,371	98%	946,458	92%	33,114	97%	1,888,943	95%
	2012	874,132	96%	905,855	96%	32,642	99%	1,812,629	96%
	2013	795,669	91%	919,091	101%	30,758	94%	1,745,518	96%
	2014	795,514	100%	957,224	104%	29,979	97%	1,782,717	102%

2010年～2014年 地区別窒素（一般）販売実績推移表

単位：千 m³

地区別	西暦	液化窒素	対前年比	パイピング	対前年比	ボンベ詰	対前年比	合計	対前年比
北海道	2010	34,906	104%	25,941	106%	1,028	101%	61,875	105%
	2011	36,159	104%	24,349	94%	995	97%	61,503	99%
	2012	35,035	97%	24,192	99%	1,017	102%	60,244	98%
	2013	36,072	103%	23,413	97%	1,209	119%	60,694	101%
	2014	41,735	116%	21,422	91%	1,134	94%	64,291	106%
東北	2010	185,974	107%	30,033	97%	1,286	107%	217,293	106%
	2011	162,812	88%	27,572	92%	1,233	96%	191,617	88%
	2012	172,095	106%	34,399	125%	1,297	105%	207,791	108%
	2013	162,475	94%	35,159	102%	1,245	96%	198,879	96%
	2014	167,179	103%	33,284	95%	1,205	97%	201,668	101%
関東	2010	836,197	110%	954,586	105%	6,424	74%	1,797,207	107%
	2011	805,457	96%	932,672	98%	6,400	100%	1,744,529	97%
	2012	831,449	103%	911,513	98%	6,077	95%	1,749,039	100%
	2013	787,482	95%	897,311	98%	5,625	93%	1,690,418	97%
	2014	810,198	103%	876,043	98%	5,035	90%	1,691,276	100%
東海	2010	518,452	119%	331,641	110%	1,886	99%	851,979	116%
	2011	521,493	101%	326,836	99%	2,087	111%	850,416	100%
	2012	500,223	96%	356,072	109%	2,318	111%	858,613	101%
	2013	451,369	90%	340,716	96%	1,868	81%	793,953	92%
	2014	448,465	99%	341,681	100%	1,900	102%	792,046	100%
近畿	2010	457,554	104%	302,523	101%	3,078	111%	763,155	103%
	2011	435,744	95%	329,769	109%	3,039	99%	768,552	101%
	2012	391,682	90%	348,115	106%	2,930	96%	742,727	97%
	2013	350,299	89%	345,411	99%	2,721	93%	698,431	94%
	2014	358,765	102%	328,856	95%	2,504	92%	690,125	99%
中国	2010	135,420	120%	543,989	101%	740	84%	680,149	104%
	2011	127,146	94%	517,791	95%	729	99%	645,666	95%
	2012	128,088	101%	517,798	100%	823	113%	646,709	100%
	2013	118,483	93%	501,062	97%	893	109%	620,438	96%
	2014	119,079	101%	494,941	99%	979	110%	614,999	99%
四国	2010	34,640	99%	52,317	128%	638	95%	87,595	115%
	2011	43,883	127%	61,670	118%	631	99%	106,184	121%
	2012	46,300	106%	59,419	96%	573	91%	106,292	100%
	2013	41,567	90%	60,693	102%	549	96%	102,809	97%
	2014	41,687	100%	67,609	111%	565	103%	109,861	107%
九州	2010	153,780	103%	117,884	101%	821	105%	272,485	102%
	2011	158,273	103%	117,585	100%	793	97%	276,651	102%
	2012	160,164	101%	121,304	103%	757	95%	282,225	102%
	2013	147,964	92%	116,863	96%	732	97%	265,559	94%
	2014	161,555	109%	131,126	112%	773	106%	293,454	111%
合計	2010	2,356,923	110%	2,358,914	104%	15,901	89%	4,731,738	107%
	2011	2,290,967	97%	2,338,244	99%	15,907	100%	4,645,118	98%
	2012	2,265,036	99%	2,372,812	101%	15,792	99%	4,653,640	100%
	2013	2,095,711	93%	2,320,628	98%	14,842	94%	4,431,181	95%
	2014	2,148,663	103%	2,294,962	99%	14,095	95%	4,457,720	101%

2010年～2014年 地区別アルゴン（一般）販売実績推移表

単位：千m³

地区別	西暦	液化アルゴン	対前年比	パイピング	対前年比	ボンベ詰	対前年比	合計	対前年比
北海道	2010	2,640	159%	0	－	589	110%	3,229	147%
	2011	2,690	102%	0	－	500	85%	3,190	99%
	2012	2,455	91%	0	－	516	103%	2,971	93%
	2013	2,524	103%	0	－	492	95%	3,016	102%
	2014	2,669	106%	0	－	533	108%	3,202	106%
東北	2010	30,261	127%	0	－	728	103%	30,989	127%
	2011	23,676	78%	0	－	645	89%	24,321	78%
	2012	22,524	95%	0	－	755	117%	23,279	96%
	2013	18,188	81%	0	－	715	95%	18,903	81%
	2014	18,294	101%	0	－	788	110%	19,082	101%
関東	2010	53,358	120%	0	－	2,537	94%	55,895	119%
	2011	48,179	90%	0	－	2,319	91%	50,498	90%
	2012	48,624	101%	0	－	2,447	106%	51,071	101%
	2013	47,691	98%	0	－	2,361	96%	50,052	98%
	2014	49,524	104%	0	－	2,465	104%	51,989	104%
東海	2010	50,147	115%	0	－	1,087	87%	51,234	114%
	2011	48,053	96%	0	－	1,189	109%	49,242	96%
	2012	46,780	97%	0	－	1,544	130%	48,324	98%
	2013	43,459	93%	0	－	1,301	84%	44,760	93%
	2014	44,711	103%	0	－	1,391	107%	46,102	103%
近畿	2010	39,262	117%	0	－	1,586	96%	40,848	116%
	2011	39,671	101%	0	－	1,666	105%	41,337	101%
	2012	35,554	90%	0	－	1,614	97%	37,168	90%
	2013	34,916	98%	0	－	1,367	85%	36,283	98%
	2014	35,510	102%	0	－	1,492	109%	37,002	102%
中国	2010	12,692	118%	0	－	763	78%	13,455	114%
	2011	11,768	93%	0	－	751	98%	12,519	93%
	2012	11,099	94%	0	－	725	97%	11,824	94%
	2013	11,503	104%	0	－	676	93%	12,179	103%
	2014	12,343	107%	0	－	859	127%	13,202	108%
四国	2010	4,006	87%	0	－	474	92%	4,480	88%
	2011	4,350	109%	0	－	451	95%	4,801	107%
	2012	4,479	103%	0	－	483	107%	4,962	103%
	2013	4,240	95%	0	－	483	100%	4,723	95%
	2014	5,256	124%	0	－	515	107%	5,771	122%
九州	2010	21,071	119%	0	－	744	83%	21,815	117%
	2011	22,186	105%	0	－	719	97%	22,905	105%
	2012	18,782	85%	0	－	694	97%	19,476	85%
	2013	17,118	91%	0	－	662	95%	17,780	91%
	2014	19,852	116%	0	－	775	117%	20,627	116%
合計	2010	213,437	119%	0	－	8,508	92%	221,945	117%
	2011	200,573	94%	0	－	8,240	97%	208,813	94%
	2012	190,297	95%	0	－	8,778	107%	199,075	95%
	2013	179,637	94%	0	－	8,057	92%	187,694	94%
	2014	188,159	105%	0	－	8,818	109%	196,977	105%

業種別酸素（一般）販売実績推移表 (5年間：2010年度～2014年度)

単位：千m³

業種別	年度	液化酸素	構成比	パイピング	構成比	ポンベ詰	構成比	合計	構成比
鉄鋼業 (非鉄金属製造業を含む)	2010	175,251	19%	395,389	39%	1,774	6%	572,414	30%
	2011	151,667	18%	375,008	40%	1,718	6%	528,393	29%
	2012	150,572	19%	351,056	39%	1,435	6%	503,063	29%
	2013	153,320	20%	363,461	38%	1,227	5%	518,008	30%
	2014	165,690	21%	382,942	41%	1,243	5%	549,875	31%
輸送用機械器具製造業	2010	61,002	7%	0	0%	515	2%	61,517	3%
	2011	57,590	7%	0	0%	514	2%	58,104	3%
	2012	52,198	7%	0	0%	465	2%	52,663	3%
	2013	49,724	6%	0	0%	467	2%	50,191	3%
	2014	50,815	6%	0	0%	459	2%	51,274	3%
機械器具製造業 (輸送用機械器具製造業を除く)	2010	81,693	9%	0	0%	560	2%	82,253	4%
	2011	81,015	9%	0	0%	510	2%	81,525	5%
	2012	71,872	9%	0	0%	518	2%	72,390	4%
	2013	74,141	9%	0	0%	511	2%	74,652	4%
	2014	70,525	9%	15	0%	563	2%	71,103	4%
金属製品製造業	2010	50,467	6%	26,714	3%	733	3%	77,914	4%
	2011	71,844	8%	24,745	3%	795	3%	97,384	5%
	2012	61,387	8%	20,906	2%	774	3%	83,067	5%
	2013	46,250	6%	20,369	2%	717	3%	67,336	4%
	2014	48,618	6%	14,655	2%	772	3%	64,045	4%
化学工業	2010	63,337	7%	504,108	50%	507	2%	567,952	29%
	2011	62,383	7%	457,331	49%	437	2%	520,151	29%
	2012	47,285	6%	468,437	52%	371	1%	516,093	30%
	2013	51,197	7%	518,061	55%	327	1%	569,585	32%
	2014	51,394	6%	505,644	54%	317	1%	557,355	32%
販売業者向け	2010	167,697	19%	906	0%	16,833	59%	185,436	10%
	2011	140,646	16%	0	0%	16,388	60%	157,034	9%
	2012	142,445	18%	0	0%	15,414	60%	157,859	9%
	2013	138,455	18%	0	0%	15,447	61%	153,902	9%
	2014	137,644	17%	0	0%	14,128	58%	151,772	9%
その他	2010	300,897	33%	84,334	8%	7,488	26%	392,719	20%
	2011	288,896	34%	72,149	8%	6,971	26%	368,016	20%
	2012	273,656	34%	67,204	7%	6,766	26%	347,626	20%
	2013	270,080	34%	44,077	5%	6,721	26%	320,878	18%
	2014	266,122	34%	39,153	4%	6,790	28%	312,065	18%
合計	2010	900,344	103%	1,011,451	107%	28,410	96%	1,940,205	105%
	2011	854,041	95%	929,233	92%	27,333	96%	1,810,607	93%
	2012	799,415	94%	907,603	98%	25,743	94%	1,732,761	96%
	2013	783,167	98%	945,968	104%	25,417	99%	1,754,552	101%
	2014	790,808	101%	942,409	100%	24,272	95%	1,757,489	100%

* 合計欄の構成比は対前年度比

業種別窒素（一般）販売実績推移表 (5年間：2010年度～2014年度)

単位：千m³

業 種 別	年度	液化窒素	構成比	パイピング	構成比	ボンベ詰	構成比	合 計	構成比
鉄 鋼 業 (非鉄金属製造業を含む)	2010	142,881	6%	207,040	9%	374	3%	350,295	8%
	2011	132,137	6%	163,814	7%	406	3%	296,357	7%
	2012	127,945	6%	161,649	7%	455	3%	290,049	7%
	2013	125,409	6%	161,855	7%	362	3%	287,626	7%
	2014	135,390	6%	162,667	7%	427	3%	298,484	7%
輸送用機械器具製造業	2010	149,945	6%	10,822	0%	403	3%	161,170	3%
	2011	148,610	7%	10,705	0%	451	3%	159,766	4%
	2012	141,496	7%	11,726	1%	445	3%	153,667	3%
	2013	144,740	7%	11,816	1%	417	3%	156,973	4%
	2014	151,549	7%	11,781	1%	459	4%	163,789	4%
電気機械器具製造業	2010	691,489	30%	439,748	19%	1,810	13%	1,133,047	24%
	2011	667,039	30%	398,906	18%	1,888	13%	1,067,833	24%
	2012	601,243	28%	432,789	19%	1,633	12%	1,035,665	23%
	2013	582,708	28%	430,538	19%	1,340	10%	1,014,586	23%
	2014	592,287	28%	432,497	20%	1,225	10%	1,026,009	24%
機械器具製造業 (輸送用、電気機械器具製造業を除く)	2010	127,612	6%	843	0%	642	4%	129,097	3%
	2011	124,444	6%	745	0%	714	5%	125,903	3%
	2012	121,497	6%	812	0%	686	5%	122,995	3%
	2013	126,889	6%	812	0%	684	5%	128,385	3%
	2014	133,901	6%	858	0%	821	7%	135,580	3%
化学工業	2010	406,083	18%	1,426,364	61%	1,175	8%	1,833,622	39%
	2011	436,911	20%	1,417,466	63%	1,111	8%	1,855,488	41%
	2012	414,695	20%	1,407,541	62%	1,006	7%	1,823,242	41%
	2013	404,879	20%	1,422,624	62%	1,036	8%	1,828,539	42%
	2014	414,938	20%	1,377,417	62%	1,013	8%	1,793,368	41%
食品製造業	2010	144,304	6%	0	0%	216	2%	144,520	3%
	2011	136,900	6%	0	0%	225	2%	137,125	3%
	2012	134,820	6%	0	0%	201	1%	135,021	3%
	2013	132,222	6%	0	0%	219	2%	132,441	3%
	2014	139,305	7%	0	0%	327	3%	139,632	3%
販売業者向け	2010	238,494	10%	104,661	4%	7,362	51%	350,517	8%
	2011	199,033	9%	108,734	5%	7,449	51%	315,216	7%
	2012	213,255	10%	95,498	4%	7,046	52%	315,799	7%
	2013	189,272	9%	103,160	4%	6,857	53%	299,289	7%
	2014	185,254	9%	102,876	5%	5,910	48%	294,040	7%
そ の 他	2010	413,348	18%	148,118	6%	2,344	16%	563,810	12%
	2011	382,063	17%	160,160	7%	2,291	16%	544,514	12%
	2012	367,065	17%	165,895	7%	2,170	16%	535,130	12%
	2013	351,414	17%	163,581	7%	1,952	15%	516,947	12%
	2014	347,856	17%	129,051	6%	2,170	18%	479,077	11%
合 計	2010	2,314,156	103%	2,337,596	104%	14,326	87%	4,666,078	104%
	2011	2,227,137	96%	2,260,530	97%	14,535	101%	4,502,202	96%
	2012	2,122,016	95%	2,275,910	101%	13,642	94%	4,411,568	98%
	2013	2,057,533	97%	2,294,386	101%	12,867	94%	4,364,786	99%
	2014	2,100,480	102%	2,217,147	97%	12,352	96%	4,329,979	99%

* 合計欄の構成比は対前年度比

業種別アルゴン（一般）販売実績推移表 (5年間：2010年度～2014年度)

単位：千 m³

業 種 別	年度	液アルゴン	構成比	パイピング	構成比	ボンベ詰	構成比	合 計	構成比
鉄 鋼 業 (非鉄金属製造業を含む)	2010	56,429	27%	0	0%	1,140	16%	57,569	27%
	2011	57,678	30%	0	0%	1,097	16%	58,775	30%
	2012	52,094	29%	0	0%	1,004	15%	53,098	29%
	2013	52,250	29%	0	0%	997	15%	53,247	29%
	2014	57,156	31%	0	0%	1,095	15%	58,251	31%
輸送用機械器具製造業	2010	22,460	11%	0	0%	464	7%	22,924	11%
	2011	21,451	11%	0	0%	451	7%	21,902	11%
	2012	21,575	12%	0	0%	397	6%	21,972	12%
	2013	21,910	12%	0	0%	368	5%	22,278	12%
	2014	21,756	12%	0	0%	483	7%	22,239	12%
電気機械器具製造業	2010	44,427	22%	0	0%	389	5%	44,816	21%
	2011	35,445	19%	0	0%	383	6%	35,828	18%
	2012	30,173	17%	0	0%	412	6%	30,585	17%
	2013	28,179	16%	0	0%	438	7%	28,617	16%
	2014	28,072	15%	0	0%	451	6%	28,523	15%
機械器具製造業 (輸送用、電気機械器具製造業を除く)	2010	10,775	5%	0	0%	492	7%	11,267	5%
	2011	11,346	6%	0	0%	491	7%	11,837	6%
	2012	11,047	6%	0	0%	440	7%	11,487	6%
	2013	11,651	7%	0	0%	431	6%	12,082	7%
	2014	12,150	7%	0	0%	516	7%	12,666	7%
金属製品製造業	2010	9,806	5%	0	0%	456	6%	10,262	5%
	2011	11,938	6%	0	0%	439	6%	12,377	6%
	2012	11,456	6%	0	0%	396	6%	11,852	6%
	2013	11,858	7%	0	0%	377	6%	12,235	7%
	2014	12,336	7%	0	0%	540	7%	12,876	7%
化学工業	2010	5,726	3%	0	0%	182	3%	5,908	3%
	2011	5,975	3%	0	0%	183	3%	6,158	3%
	2012	5,590	3%	0	0%	212	3%	5,802	3%
	2013	5,276	3%	0	0%	247	4%	5,523	3%
	2014	4,822	3%	0	0%	206	3%	5,028	3%
販売業者向け	2010	37,923	18%	0	0%	3,561	50%	41,484	19%
	2011	29,383	15%	0	0%	3389	49%	32,772	17%
	2012	29,347	16%	0	0%	3258	50%	32,605	18%
	2013	30,427	17%	0	0%	3355	50%	33,782	18%
	2014	29,248	16%	0	0%	3388	47%	32,636	17%
そ の 他	2010	19,000	9%	0	0%	440	6%	19,440	9%
	2011	18,323	10%	0	0%	476	7%	18,799	9%
	2012	16,783	9%	0	0%	426	7%	17,209	9%
	2013	16,061	9%	0	0%	510	8%	16,571	9%
	2014	17,163	9%	0	0%	528	7%	17,691	9%
合 計	2010	206,546	105%	0	-	7,124	95%	213,670	104%
	2011	191,539	93%	0	-	6,909	97%	198,448	93%
	2012	178,065	93%	0	-	6,545	95%	184,610	93%
	2013	177,612	100%	0	-	6,723	103%	184,335	100%
	2014	182,703	103%	0	-	7,207	107%	189,910	103%

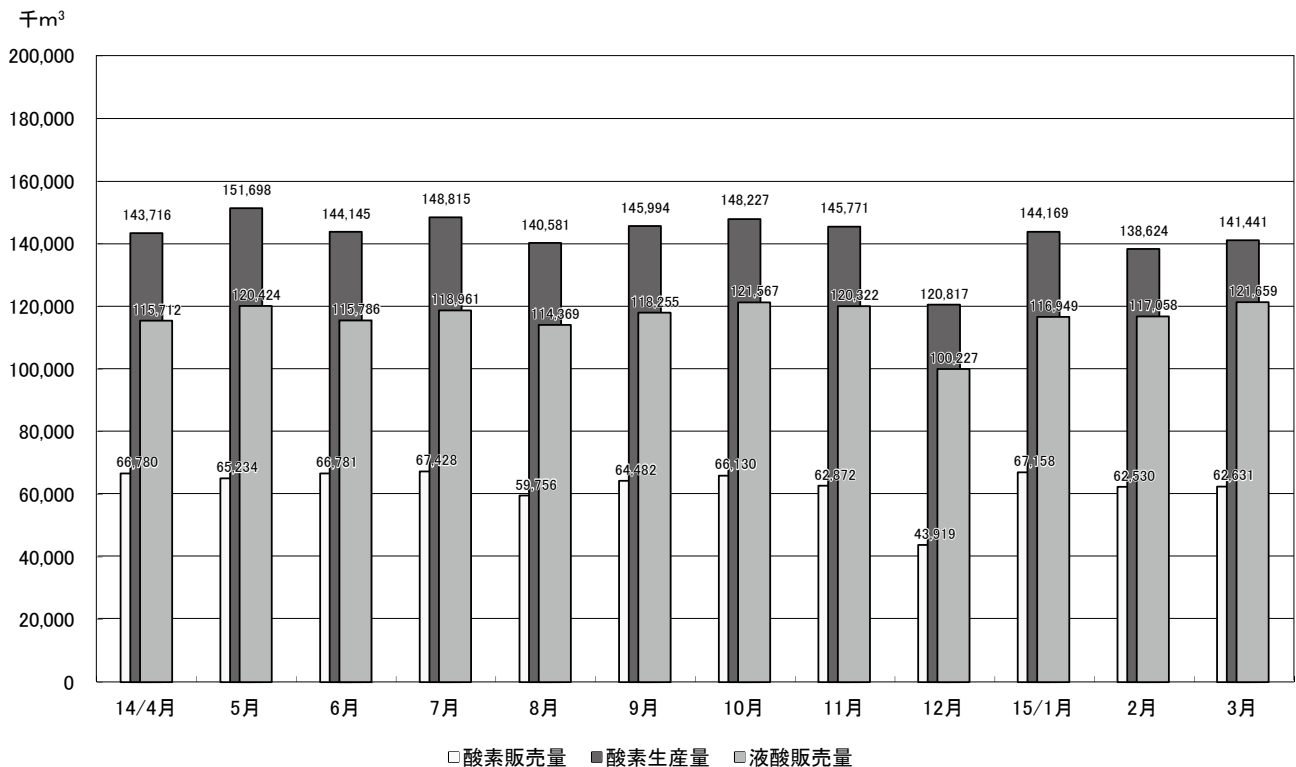
* 合計欄の構成比は対前年度比

2014年4月～2015年3月 地区別酸素生産・販売実績表

単位：千m³

地区別		14/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	15/1月	2月	3月
北海道	生産	1,305	1,299	1,242	1,250	992	1,066	1,312	1,265	428	1,146	1,173	1,191
	販売	2,185	2,088	2,146	2,139	1,797	1,967	2,227	2,067	467	1,981	1,976	2,133
東北	生産	4,860	5,210	5,536	4,777	4,777	4,823	4,959	4,711	2,922	4,798	4,301	4,577
	販売	10,943	11,622	10,445	11,300	10,587	11,135	13,412	10,683	9,095	9,784	9,535	10,510
関東	生産	41,392	37,082	31,863	39,665	35,829	38,639	38,877	39,055	29,277	38,716	35,997	36,410
	販売	45,749	41,607	35,354	43,381	39,999	44,280	42,515	43,527	36,161	40,859	41,201	40,747
東海	生産	19,351	24,821	24,971	23,634	22,729	25,548	24,736	26,252	21,451	23,777	25,251	25,858
	販売	22,035	28,571	28,482	26,752	24,977	28,063	27,888	28,853	25,039	29,044	26,559	28,212
近畿	生産	23,692	21,904	21,816	18,357	21,108	19,857	21,852	21,102	16,456	19,423	22,410	23,618
	販売	28,228	28,980	28,558	25,937	24,992	26,626	27,694	26,194	16,468	32,005	26,416	26,235
中国	生産	15,334	14,305	15,035	16,075	15,277	14,227	14,131	14,753	15,996	15,566	14,931	17,334
	販売	22,202	21,131	21,521	22,707	21,616	16,810	15,253	17,346	16,958	14,477	17,093	18,331
四国	生産	590	1,677	1,599	1,572	1,285	1,436	1,317	1,014	668	1,060	961	1,104
	販売	2,718	2,514	2,936	2,808	2,675	3,029	2,990	2,953	2,485	2,688	2,520	2,698
九州	生産	9,188	14,126	13,724	13,631	12,372	12,659	14,383	12,170	13,029	12,463	12,034	11,567
	販売	9,656	15,185	14,703	13,791	13,938	14,084	16,248	14,148	14,144	13,331	13,324	12,575
合計	生産	115,712	120,424	115,786	118,961	114,369	118,255	121,567	120,322	100,227	116,949	117,058	121,659
	販売	143,716	151,698	144,145	148,815	140,581	145,994	148,227	145,771	120,817	144,169	138,624	141,441

2014年4月～2015年3月 酸素生産量・一般販売実績推移グラフ

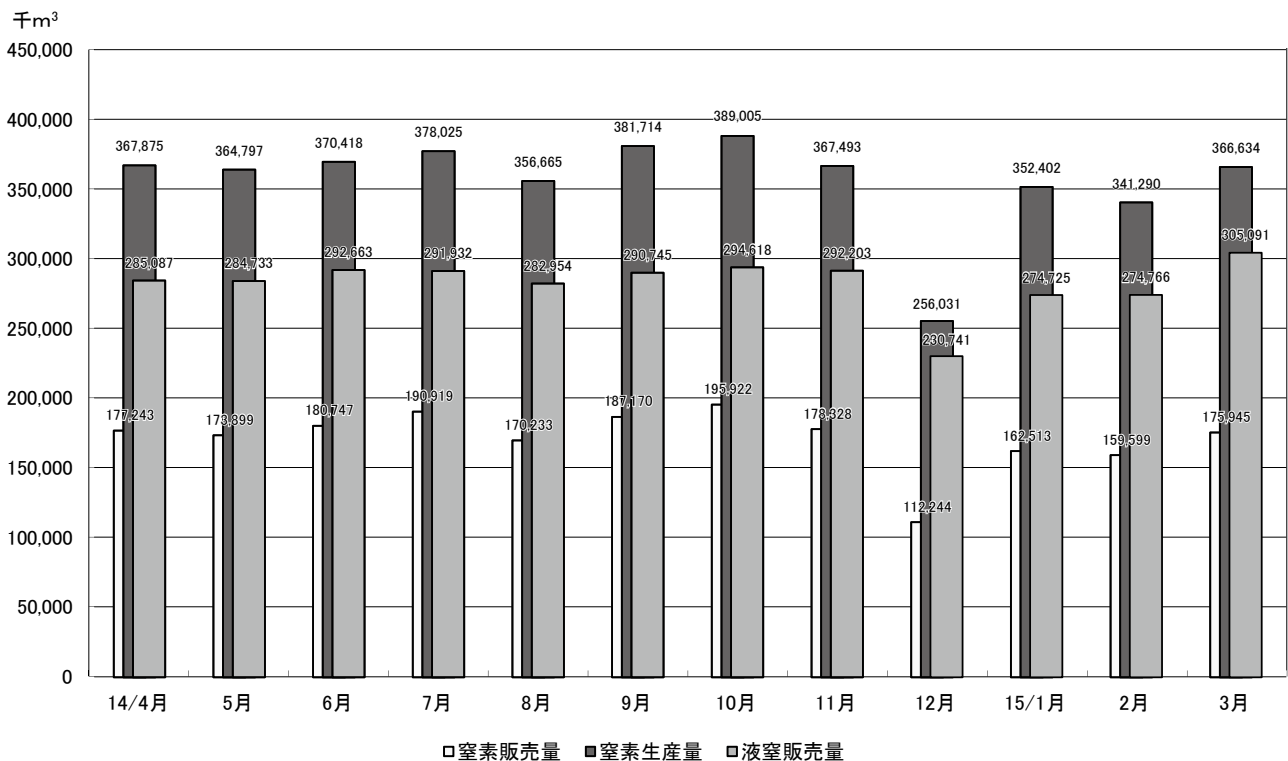


2014年4月～2015年3月 地区別窒素生産・販売実績表

単位：千m³

地区別		14/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	15/1月	2月	3月
北海道	生産	3,472	3,065	4,218	4,375	4,250	4,733	4,098	3,642	845	2,725	2,604	2,620
	販売	5,598	5,012	6,077	5,433	6,138	6,318	5,428	5,325	429	4,264	3,991	4,369
東北	生産	9,295	10,939	11,361	11,209	11,016	10,379	11,088	10,362	5,926	9,792	9,780	10,552
	販売	15,875	16,419	16,754	17,437	15,642	17,253	18,970	17,283	12,056	15,065	15,090	16,080
関東	生産	125,873	127,307	129,969	132,271	123,511	128,810	127,419	131,685	104,853	125,910	124,329	134,686
	販売	138,944	140,441	141,227	147,393	133,632	141,266	146,648	138,713	113,479	136,705	133,488	144,956
東海	生産	38,556	36,919	37,852	41,541	36,744	41,015	41,111	41,942	27,681	38,907	38,269	41,311
	販売	64,376	63,014	65,519	68,198	61,873	68,844	69,373	68,345	43,635	61,890	62,806	66,260
近畿	生産	43,755	40,161	44,801	39,373	42,587	39,344	42,540	42,880	31,998	35,242	39,913	43,419
	販売	58,000	56,424	56,092	56,922	57,312	58,897	58,864	55,913	21,806	55,929	53,551	55,128
中国	生産	34,579	33,425	31,378	31,950	33,659	35,763	36,333	33,035	30,599	33,480	31,836	36,719
	販売	50,627	49,661	49,512	48,859	48,045	55,469	54,689	48,795	37,245	47,855	44,261	47,961
四国	生産	6,333	8,341	8,219	7,899	8,645	7,929	8,069	7,589	7,635	6,497	7,715	12,607
	販売	8,809	8,698	9,866	9,223	9,683	8,932	9,292	8,977	8,075	8,644	7,733	8,221
九州	生産	23,224	24,576	24,865	23,314	22,542	22,772	23,960	21,068	21,204	22,172	20,320	23,177
	販売	25,646	25,128	25,371	24,560	24,340	24,735	25,741	24,142	19,306	22,050	20,370	23,659
合計	生産	285,087	284,733	292,663	291,932	282,954	290,745	294,618	292,203	230,741	274,725	274,766	305,091
	販売	367,875	364,797	370,418	378,025	356,665	381,714	389,005	367,493	256,031	352,402	341,290	366,634

2014年4月～2015年3月窒素生産量・一般販売実績推移グラフ

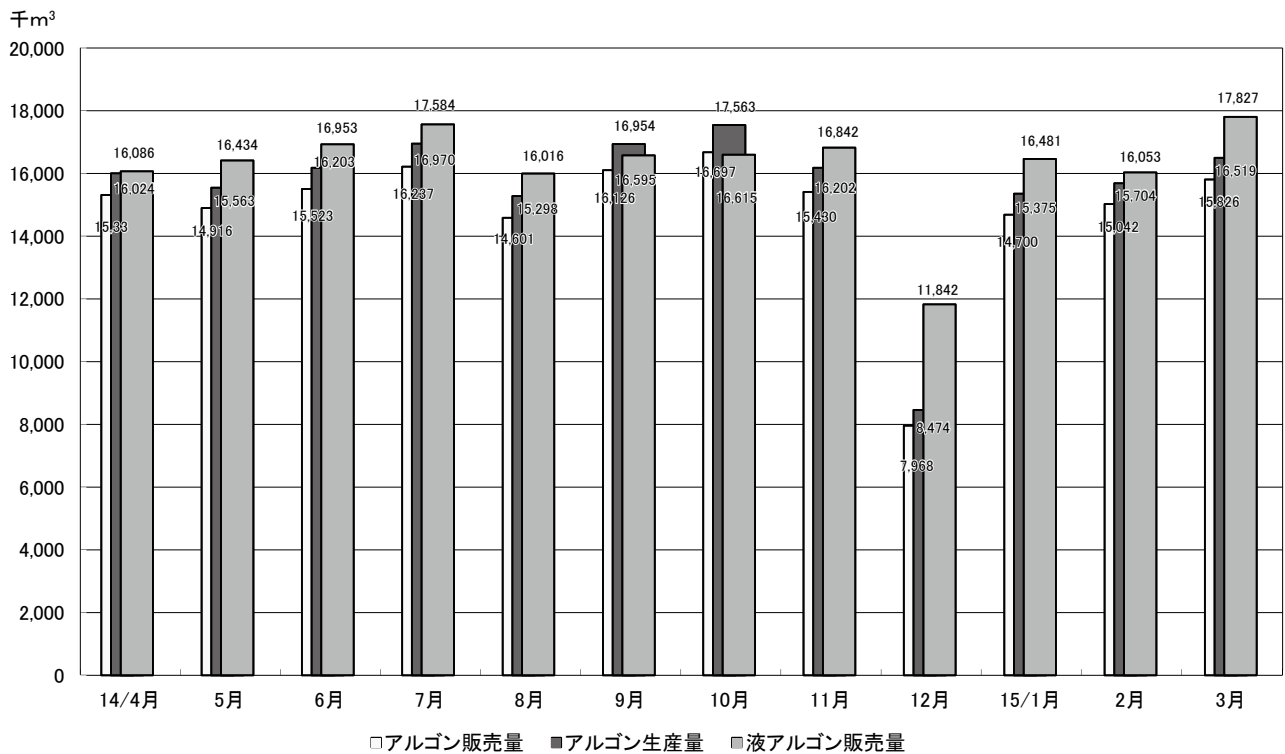


2014年4月～2015年3月 地区別アルゴン生産・販売実績表

単位：千m³

地区別		14/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	15/1月	2月	3月
北海道	生産	315	295	312	324	294	294	322	309	4	311	306	305
	販売	266	264	274	290	268	265	275	276	2	278	277	269
東北	生産	272	270	306	308	284	272	323	299	126	307	280	324
	販売	1,534	1,542	1,603	1,623	1,534	1,695	1,621	1,639	902	1,638	1,398	1,556
関東	生産	4,863	4,630	4,850	5,157	4,697	4,705	4,684	4,787	2702	4,644	4,495	5,009
	販売	4,285	4,164	4,555	4,513	3,997	4,483	4,660	4,148	2342	3,981	4,078	4,269
東海	生産	3,984	4,163	3,820	3,898	3,643	4,006	3,804	4,284	3734	3,767	3,741	4,188
	販売	3,821	3,770	3,796	3,906	3,362	3,925	4,013	3,763	2143	3,439	3,777	4,004
近畿	生産	3,101	3,393	3,607	4,150	3,916	3,634	3,749	3,826	1949	3,826	3,701	4,072
	販売	3,064	2,771	2,853	3,303	2,876	3,060	3,304	2,963	1188	2,617	2,758	2,794
中国	生産	2,162	2,191	2,548	2,423	2,215	2,300	2,344	2,023	2445	2,295	2,247	2,492
	販売	1,095	992	1,126	1,134	970	1,125	1,191	1,060	860	1,024	1,012	1,045
四国	生産	130	202	200	191	149	189	150	55	34	57	53	59
	販売	406	410	416	459	513	522	556	528	245	482	476	483
九州	生産	1,259	1,290	1,310	1,133	818	1,195	1,239	1,259	848	1,274	1,230	1,378
	販売	1,553	1,650	1,580	1,742	1,778	1,879	1,943	1,825	792	1,916	1,928	2,099
合計	生産	16,086	16,434	16,953	17,584	16,016	16,595	16,615	16,842	11842	16,481	16,053	17,827
	販売	16,024	15,563	16,203	16,970	15,298	16,595	16,615	16,842	8474	15,375	15,704	16,519

2014年4月～2015年3月 アルゴン生産量・一般販売実績推移グラフ



2010年度～2014年度 溶解アセチレン生産・販売実績表

単位：t

地区別		2010年度		2011年度		2012年度		2013年度		2014年度	
		数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
北海道	生産	633	92.0%	634	100.2%	606	95.6%	631	104.1%	611	96.8%
	販売	592	81.5%	593	100.2%	607	102.4%	630	103.8%	592	94.0%
東北	生産	678	94.0%	687	101.3%	718	104.5%	737	102.6%	691	93.8%
	販売	367	98.7%	412	112.3%	383	93.0%	372	97.1%	349	93.8%
関東	生産	3,485	102.6%	3,638	104.4%	3,466	95.3%	3,394	97.9%	3,306	97.4%
	販売	4,086	100.9%	4,083	99.9%	3,784	92.7%	3,762	99.4%	3,575	95.0%
北陸	生産	619	100.0%	644	104.0%	609	94.6%	592	97.2%	570	96.3%
	販売	407	103.3%	412	101.2%	379	92.0%	369	97.4%	361	97.8%
東海	生産	1,544	97.3%	1,505	97.5%	1,439	95.6%	1,441	100.1%	1,425	98.9%
	販売	1,691	97.8%	1,663	98.3%	1,583	95.2%	1,485	93.8%	1,417	95.4%
近畿	生産	1,875	99.9%	1,879	100.2%	1,857	98.8%	1,815	97.7%	1,761	97.0%
	販売	2,371	99.6%	2,357	99.4%	2,272	96.4%	2,140	94.2%	2,036	95.1%
中国	生産	1,489	99.1%	1,509	101.3%	1,396	92.5%	1,394	99.9%	1,357	97.3%
	販売	1,493	100.6%	1,449	97.1%	1,451	100.1%	1,758	121.2%	1,674	95.2%
四国	生産	273	97.8%	262	96.0%	117	44.7%	119	101.7%	118	99.2%
	販売	664	96.0%	613	92.3%	457	74.6%	166	36.3%	160	96.4%
九州	生産	1,154	100.6%	1,066	92.4%	1,060	99.4%	1,058	99.8%	1,044	98.7%
	販売	1,405	100.1%	1,561	111.1%	1,214	77.8%	1,180	97.2%	1,163	98.6%
合計	生産	11,750	99.4%	11,824	100.6%	11,268	95.3%	11,181	99.2%	10,883	97.3%
	販売	13,076	98.8%	13,143	100.5%	12,130	92.3%	11,863	97.8%	11,327	95.5%

2010年度～2014年度 液化炭酸ガス工場出荷・用途別販売実績推移表

単位：t

年度	工場出荷量	前年比	用途別販売実績割合					
			溶接用	飲料用	冷却用	製鋼用	化学用	その他
2010年度	700,239	102%	51%	14%	12%	6%	10%	6%
2011年度	716,244	102%	50%	15%	10%	6%	13%	6%
2012年度	674,691	94%	50%	16%	11%	5%	10%	8%
2013年度	674,094	100%	50%	17%	12%	6%	8%	7%
2014年度	673,049	100%	50%	16%	12%	6%	8%	8%

2010年～2014年 主要半導体材料ガス等国内市場実績推移表

番号	ガス名称	化学記号	2010年		2011年		2012年		2013年		2014年	
			需要量	前年比	需要量	前年比	需要量	前年比	需要量	前年比	需要量	前年比
1	アルシン	AsH ₃	20,600	132%	16,400	80%	13,300	81%	10,800	81%	9,800	91%
2	ジボラン	B ₂ H ₆	480	112%	540	113%	390	72%	680	174%	390	57%
3	三塩化ホウ素	BCl ₃	123,600	122%	120,700	98%	105,400	87%	102,900	98%	126,700	123%
4	四フッ化炭素	CF ₄	475,900	133%	494,900	104%	484,300	98%	500,600	103%	565,200	113%
5	三フッ化メタン	CHF ₃	86,100	117%	79,800	93%	78,300	98%	82,900	106%	84,900	102%
6	六フッ化エタン	C ₂ F ₆	247,900	120%	227,300	92%	206,300	91%	175,500	85%	131,800	75%
7	八フッ化シクロブタン	C ₄ F ₈	43,700	107%	48,200	110%	51,800	107%	56,100	108%	65,000	116%
8	塩素	Cl ₂	247,300	143%	347,800	141%	255,800	74%	274,000	107%	307,100	112%
9	ゲルマン	GeH ₄	110	100%	240	218%	240	100%	240	100%	240	100%
10	臭化水素	HBr	94,300	126%	106,700	113%	95,000	89%	91,600	96%	125,400	137%
11	アンモニア	NH ₃	1,589,600	162%	2,488,200	157%	2,842,200	114%	2,919,000	103%	3,442,600	118%
12	三フッ化窒素	NF ₃	1,658,200	135%	1,637,600	99%	1,588,800	97%	1,694,200	107%	1,717,600	101%
13	一酸化二窒素	N ₂ O	603,400	123%	593,400	98%	739,500	125%	951,300	129%	992,500	104%
14	ホスフィン	PH ₃	15,800	135%	12,400	78%	11,500	93%	8,000	70%	8,300	104%
15	モノシラン	SiH ₄	547,500	127%	541,900	99%	323,500	60%	373,700	116%	424,700	114%
16	ジシラン	Si ₂ H ₆	580	105%	*1							
17	ジクロロシラン	SiH ₂ Cl ₂	160,000	123%	172,900	108%	166,100	96%	256,300	154%	172,800	67%
18	四フッ化ケイ素	SiF ₄	5,700	95%	5,700	100%	6,000	105%	5,400	90%	5,400	100%
19	TEOS	(C ₂ H ₅ O) ₄ Si	424,500	109%	407,700	96%	399,600	98%	380,800	95%	421,900	111%
20	六フッ化硫黄	SF ₆	267,400	144%	267,400	100%	243,000	91%	240,000	99%	211,000	88%
21	六フッ化タンガステン	WF ₆	108,000	120%	103,000	95%	100,000	97%	95,000	95%	105,000	111%
22	有機金属		2,470	153%	2,780	113%	3,040	109%	2,250	74%	2,090	93%
23	その他ガス	H ₂ Se BF ₃ 、Si ₂ H ₆ SiHCl ₃ 等										
年間需要金額 (単位: 億円)			603	121%	612	101%	534	87%	522	98%	526	101%

(注) *1 ジシラン: 2011年よりその他ガス欄に移行

2010年～2014年 標準ガス国内販売実績推移表

単位：本

品 目	2010年		2011年		2012年		2013年		2014年	
	本数	伸び率	本数	伸び率	本数	伸び率	本数	伸び率	本数	伸び率
一酸化炭素 (CO) 標準ガス	12,800	102%	12,800	100%	12,500	98%	13,000	104%	12,600	97%
二酸化炭素 (CO ₂) 標準ガス	11,000	120%	10,100	92%	7,900	78%	8,100	103%	8,300	102%
二酸化硫黄 (SO ₂) 標準ガス	6,700	96%	6,700	100%	6,600	99%	6,800	103%	6,800	100%
一酸化窒素 (NO) 標準ガス	17,600	98%	18,000	102%	17,900	99%	17,500	98%	18,100	103%
酸素 (O ₂) 標準ガス	14,900	100%	14,600	98%	15,000	103%	14,700	98%	14,700	100%
炭化水素 (HC) 標準ガス	11,700	108%	11,500	98%	11,100	97%	11,100	100%	11,300	102%
その他 標準ガス	49,400	112%	48,400	98%	46,200	95%	43,500	94%	45,500	105%
標準ガス合計	124,100	107%	122,100	98%	117,200	96%	114,700	98%	117,300	102%
ゼロガス	6,000	103%	6,500	108%	6,600	102%	6,100	92%	6,200	102%
標準ガス、ゼロガス合計	130,100	106%	128,600	99%	123,800	96%	120,800	98%	123,500	102%
金額	34億円	106%	33億円	98%	32億円	97%	31億円	97%	32億円	103%

2010年～2014年 圧縮水素出荷実績推移表

単位：千m³

分 野	2010年		2011年		2012年		2013年		2014年	
	数 量	前年比	数 量	前年比	数 量	前年比	数 量	前年比	数 量	前年比
弱 電	50,207	120%	40,413	80%	34,337	85%	29,635	86%	25,586	86%
化 学	18,399	112%	16,032	87%	16,819	105%	13,645	81%	14,361	105%
金 属	27,003	112%	25,384	94%	22,301	88%	22,201	100%	23,775	107%
硝 子	15,898	119%	14,987	94%	9,540	64%	7,938	83%	6,776	85%
その他	19,363	129%	20,700	107%	18,629	90%	17,769	95%	14,073	79%
合 計	130,869	118%	117,516	90%	101,626	86%	91,188	90%	84,571	93%

編集後記

平成27年度JIMGA定時総会には多くのご来賓の方々にご出席いただき、ありがとうございます。今回より会場を東京會館から経団連會館に移しました。今までと少し違った雰囲気の中、総会自体の進行も少しずつ変えながら、270名近くの方々のご出席のもと、多くの会員の皆様の中締めまで歓談していただいたことに改めて御礼申し上げます。

今年度もJIMGAの課題のひとつとして、産業・医療ガスが社会のインフラおよびライフラインとして重要な商品であることを社会の皆様方にご認識いただくため、「必要とされるJIMGA」を目標にして、「絶えず発信する組織」になろうとしています。編集後記ではJIMGA産業ガス部門で、どのような情報をどのように発信しているか、また今後どのようなことに取り組もうとしているか、について編集後記子がお伝えします。

JIMGAの発信物には、6月に第2次改訂版を発行した「高圧ガスハンドブック」や、「液化炭酸ガス取扱テキスト」などの書籍類、JIMGAウェブサイトよりどなたでもご覧いただくことができる「JIMGAnews」、「安全ニュース」、「環境ニュース」、「絵で見る産業ガス」、「e-ラーニング」、「統計資料」などがあります。これらは会員以外の方々にも広く産業・医療ガス業界の活動を知ってもらうために、重要であると考えております。

一方、会員会社に限定して、各部会・WGの成果物として「災害・事故情報」、「製品安全データシート」、「GHS対応警告表示ラベル」、「地球温暖化対策」関連文書、欧・米・アジアの高圧ガス団体との協調（国際整合化委員会/IHC）で作成した「国際整合化文書（参考文書）」や「国際整合化指針」、「労働災害統計調査報告書」、「ヒヤリハット事例集」などをウェブサイトで公開しています。

加えて、ウェブサイトの会員ページの「お知らせ」では「絶えず発信するJIMGA」として、タイムリーな情報を発信しております。「会員連絡」は年により発信数は違いますが、2012年37件、2013年17件、2014年12件、2015年は8月末現在で27件です。最近では「電力多消費団体の活動報告」「省エネ予算の申請について」「事故等の注意喚起文書」「経済産業省からの連絡事項」などを掲載しています。

これから力を入れていく発信物に、国際整合化文書があります。国際整合化文書の発行もJIGAの時代から始まり既に57件になりました。現在、IHCで発行された基準類は国際整合化文書として1年以内に全て全文和訳あるいは部分和訳を行っています。また会員の皆様が大変参考になると思われる基準については、国際整合化指針として高圧ガス保安法に準拠した内容にまとめ直して発行しています。

国際整合化文書のタイトルを見ると、欧・米・アジアの各国で高圧ガスの保安・安全に関してどのような問題に対応しているかがわかります。法体系の違いもありそのまま国内で採用できないものもありますが「なるほど」と思わず唸りたくなるものもありますので是非ご覧いただきたいと思います。今後は和訳された基準類を定期的に会員の皆様にお届けしていきます。

ところで、昨年からJIMGAウェブサイトが見やすくなったことにお気づきでしょうか？皆様に「発信する」という思いを少しずつ具体的な形で進めています。これからはウェブサイトでのコンテンツの充実は当然のことですが、掲載方法についても、お伝えすべき情報にスムーズにたどり着けるようなメリハリのあるサイト作りを目指しています。それによって、会員の皆様はもちろんのこと、より多くの方々に産業・医療ガスに関心を持っていただき、「検索してみよう」と思われる情報媒体にしていきたいと考えています。

今回は「発信するJIMGA」の一端について述べました。会員の皆様の中にはどのようにして会員限定ページにたどり着けるのか不案内の方もおられるかもしれません。ログイン用のIDとパスワードを各会員会社の指定代表者、本部と地域本部のWGで活動いただいている方々や閲覧希望者にお伝えしています。会員会社のすべての従業員の皆様にご覧いただくことができますので、会員各社のIDとパスワードをぜひ社内でご確認いただきたいと思います。JIMGAをより身近に感じていただくため、JIMGAからの発信内容について皆様からのご意見もお聞きしたいと思っています。地域本部事務局にご連絡いただければ幸いです。

(HN)

日立トータル EDI ソリューション

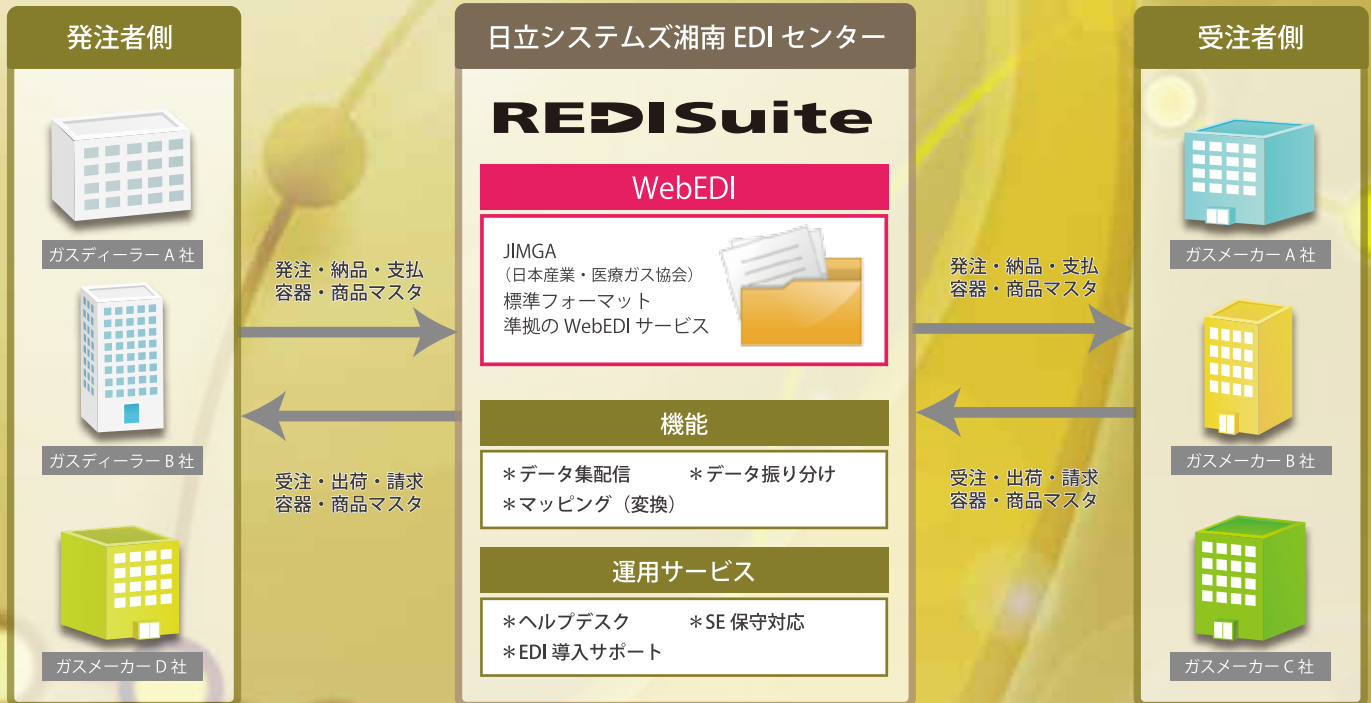
REDISuite レディスイート

こんなことでお悩みではありませんか？

- 各種伝票の FAX 通信費を削減したい！
- ガス容器の授受情報をデータ交換し、証跡管理を行いたい！
- 請求支払いにおける違算処理の手間を減らしたい！
- 仕入買掛入力における人件費を削減したい！

解決！
REDISuite 導入

サービス概要



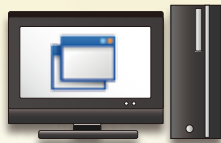
※手動によるファイルアップロードダウンロードのほか、専用ツールによる自動アップロードダウンロードも可能

ヘルプデスクサービス

専用ヘルプデスク・業務 SE が
24 時間 365 日、
お客様の業務を支援します。
導入時の検証支援も、お任せください。

お客さま

- * 対応状況確認
- * 業務対応サポート



連携

日立システムズ

ヘルプデスク 24 時間 365 日受付

- * 各種問い合わせ受付
- * エスカレーション
- * 1 次回答
- * 精算未実施連絡
- * 障害切り分け
- * 月次報告
- * インシデント管理



業界標準フォーマットに準拠した電子取引を PC 1 台でスタート可能！





会誌「産業ガスレポート」 Vol.33 (2015年秋号)

発行所：一般社団法人 日本産業・医療ガス協会
編集発行人：永江 裕

〒105-0012 東京都港区芝大門 2-8-13 サクセス芝大門ビル 4階
TEL : 03-5425-2255 FAX : 03-5425-2256
URL : <http://www.jimga.or.jp>

2015年9月発行